

中日会報

公益社団法人 中部日本書道会
編集事務局 名古屋市
〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45-19
桑山ビル8階C号室
電話 (583) 19000
FAX (583) 1910番
http://www.cn-sho.or.jp
info@cn-sho.or.jp
印刷 株式会社 荒川印刷

名誉会長あいさつ

— 総会祝賀会祝辞より抜粋 —

名誉会長 海部俊樹



いつものことながら、皆さんの前にお邪魔することができず、たいへん申し訳なく思っております。会長という立場です

ので、ひとことご挨拶を申し上げます。

本日は、中部日本書道会の総会と、最大のイベントである中日書道展の祝賀会にご参列いただきました。来賓の方々にも、もって篤くお礼を申し上げます。ほんとうに有難うございます。そして、中日書道展に出品され、ご入賞ご入選を果たされた皆様方には、心からお慶び申し上げます。とくに、今後さらなる活躍を願う次第です。

また、平田蘭石先生には岐阜県芸術文化顕彰のご受賞、かさねておめでとうございます。「方寸の世界」という言葉を耳にしますが、篆刻という芸術活動を通じて、地域社会に書芸術を振興発展されたという姿勢には敬服にたえません。

さて、みなさんご存知の通り、先月はG7によるサミットが伊勢志摩で開催されました。ここ名古屋の地も海外からの要人を大勢受け入れる表玄関として、重要な役割をこなされています。

現在開催中の中日書道展では、国民文化祭あいちを応援しているということで、マ

名誉会長 海部俊樹

スコットキャラクターの「ブンゾー」が、ボスターや入場券などに印刷されておつたと思います。十一月には栄の芸文センターを中心に「ものづくり王国、ゆめづくり祭典」に書道を通じて、地元社会の「ものづくり、ゆめづくり」に貢献していただくことよいのではないかと思います。

最近、日本の書道をユネスコの世界遺産に登録しようという動きがあります。大いに結構なことだと思います。それが実現したあかつきには、もつとも書道が文化的に大切なものであることが周知されるであらうと思います。

今から十年ほど前、公益法人の制度が根元から改革され、「公益法人 制度改革関連三法案」という法律を国会で通したわけです。それは、バックマージンを得る、多額の報酬を支給する、補助金を無駄に使う、などが改善されました。中部日本書道会が公益社団法人として活動して日本書道会が公益社団法人として活動してはかること、つまり、書道を通じて社会に役立れるということだと思います。これが中日書道会の使命であると思います。

むつかしい話になってしまいました。ただ今の話にてご挨拶とさせていただきます。



代読される 安藤滴水 名誉副会長

目次

- 1 名誉会長あいさつ・理事長あいさつ
- 2 名誉会長代行に樽本樹郎氏
- 3 名誉副会長に鬼頭翔雲氏
- 4 平成二十八年度功労者・感謝状表彰
- 5 祝賀懇談会
- 6 第六十六回中日書道展概要
- 7 第六十六回中日書道展に思う
- 8 西嶋慎一先生評
- 9 第六十六回中日書道展審査総評
- 10 受賞者紹介 海部俊樹賞・大賞・準大賞

理事長あいさつ

理事長 伊藤昌石



東海地方を盛り上げた伊勢志摩サミットも無事幕を閉じ、本会の、メイン行事の一つである第六十六回中日書道展も平穩のうち終了することが出来ました。受付の方から、今年の展覧会入場者数が昨年を上回ったとの報告を受け、嬉しく思っております。

また、六月十二日には、総会・中日展表彰式・祝賀会があり、たくさんの方の皆様に出席をいただき、有難うございました。お礼申し上げます。

理事長に就任以来、皆さまのご協力のもと、何の支障もなく、ちょうど一年が経過致しました。この間、昨年の八月には、内閣府のコンプライアンス（公益法人では、法令はもとより、主務官庁の基準・通達・指導、さらには法人内部の規定や、公益法人としてのモラルなどの遵守）等々の査察があり、数カ所の改善が指示されました。これをもとに、第六十六回中日書道展では、会の公益性を一般市民の方々にアピールする為、今年には愛知県が担当の国民文化祭あいち二〇一六（芸術の国体と同等の行事）とコラボして開催いたしました。

又、日本の書道文化をユネスコの無形文化遺産に登録させる為、推進運動への協力、告知に務めております。

- 20 中日賞・桜花賞寸評
- 31 その他の入賞者名
- 33 第六十六回中日書道展当番審査員
- 40 第六十六回中日書道展を終えて
- 41 平成二十八年度第一回理事会・総会開催
- 42 平成二十八年度総会議案書（抜粋）
- 53 第二十八回書道教育研修会・外国人書道研修会案内
- 54 平成二十八年度公開講座のご案内

団体署名実施協力中

つなごう日本の書道文化
ユネスコの無形文化遺産に



国民文化祭あいちの
マスケットキャラクター
ブンゾー

この一年間、本会の運営状態、管理状態、組織体系を毎月の企画委員会、つぶさに協議し、理事会を一回、評議委員会を一回、議案を提出し、本会の前進の為に何が必要かを理事会で承認され、評議委員会が報告され、六月十二日には総会での承認をいたしました。

国内では九州地方での震災の後の豪雨、国外でも、イギリスのEU離脱問題がもたらす影響で我が国にも株価、円の乱高下など様々な波瀾を抱えたニュースを目にする昨今ですが、皆様のご協力により、中部日本書道会が適進し続けております。

今後も「和」の精神を合い言葉に、全員でがんばって行きましょう。

平成28年度 総会・本会功労者表彰
 第66回中日書道展入賞・入選者祝賀懇談会
 平田蘭石顧問 岐阜県芸術文化顕彰ご受賞

名誉会長代行に樽本氏・名誉副会長に鬼頭氏
 役員組織の一部が改正されました

名誉会長代行

樽 本 樹 邨 氏



名誉副会長

鬼 頭 翔 雲 氏



※安藤滴水氏はそのまま名誉副会長残留
 ※その他の役員に変更なし



改組新第三回 日展 審査員

顧 問 加 藤 子 華 氏
 理 事 岡 野 楠 亭 氏 (新審査員)

平成二十八年 度 功 労 者 ・ 感 謝 状 表 彰

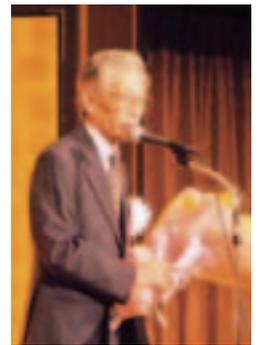
平成二十八年六月十二日(日)の
 総会において、本会に功績のあった
 九名の方々が表彰されました。

功 労 者 表 彰

常任顧問 鬼頭 翔雲 氏

感 謝 状 表 彰

顧 問 岡 本 苔 泉 氏
 顧 問 榊 原 晴 夫 氏
 顧 問 中 村 立 強 氏
 顧 問 横 山 夕 葉 氏
 理 事 故 青 木 清 濤 氏
 評 議 員 丹 羽 常 見 氏
 評 議 員 世 古 口 大 虚 氏
 評 議 員 平 野 公 慎 氏



岐阜県芸術文化顕彰

ご受賞の平田蘭石氏

事務局長 関根 玉振



平成28年度 功労者・感謝状表彰

祝賀懇談会を開催して

厚生部長 小島 瑞 柳

梅雨空の中、平成二十八年度総会、第六十六回中日書道展祝賀懇談会が、平成二十八年六月十二日(日)ウエスティンナゴヤキャッスル天守の間に於いて開催されました。

開会の直前思いも寄らず大村秀章愛知県知事が駆けつけて下さるパフォーマンスがあり、「日中文化の絆を中日書道会から盛り上げて頂きたい。」とお言葉を残され、公務の都合でご退席されました。

更に、能楽師の方々に依る「大和舞」という楽曲の演奏と舞いで、一気に荘厳な流れに……。その余韻の中、松永清石副理事長の開会の言葉で懇談会が始まりました。

最初に、海部俊樹名誉会長のメッセージを、安藤滴水名誉副会長が代読、「書道は日本文化の源、書道を通じて地元社会の物づくり、夢づくりに貢献して下さい。」とお言葉を賜りました。

続いて、来賓の中日新聞社常任顧問小山勇様より「樽本樹郎名誉会長代行よりナゴヤドームに『騰龍』という縁起の良い作品を寄贈して頂いたので、今年は中日ドラゴンズに期待しています。」「日本の書道が、ユネスコの文化遺産として世界に認められることに努力したい。」とユーモアを含めてのお言葉を頂きました。

又、書道文化研究家西嶋慎一様より、「本年の中日書道展は自分の芸を高めたい、という思いが感じられた。『勇気を持つ』、『野心を持つ』を明日から心に銘じて筆を取って頂きたい。」と、とても心に響く力強いお声をいただきました。

次に、今年度岐阜県芸術文化顕彰を受賞された平田蘭石氏に、樽本名誉会長代行より花束と記念品が贈呈されました。「二十一、三歳の時、梅舒適先生に巡り会い篆刻を始めて五十数年、生涯勉強です。」と、謝辞を述べられました。

乾杯は東海テレビ放送事業局専門局長加藤昭宏様。「書は作者の分身。書の素晴らしさをこれからも放送を通して伝えて行きたい。」とお言葉を添えられました。

この後、八十八歳の米寿を迎えられ、出席されました五名の皆さんの紹介があり、樽本名誉会長代行よりお花と記念品が贈られました。益々のご活躍とご健康をお祈り致します。二時間余の盛況の中、関根玉振副理事長の閉会の辞により、九三九名の参加を頂き、無事終えることが出来ました。深く感謝申し上げます。



乾杯 加藤昭宏氏



西嶋慎一氏



小山 勇氏



祝辞 大村秀章愛知県知事



祝賀懇談会へ出席のご長寿の方々

ご長寿お祝い顕彰者

平成二十七年中八十八歳にいられた方々

- 顧問 堀場 凶南氏
- 参与 鈴木 梅園氏
- 評議員 小野田景月氏
- 正会員 小川 澄光氏
- 準会員 水野 白映氏

祝賀懇談会へ来賓出席者名簿

- | | | |
|-------------------|--------------|-------|
| 本会名誉顧問 | 愛知芸術文化センター総長 | 神田真秋様 |
| 本会名誉顧問 | 衆議院議員 | 近藤昭一様 |
| 本会名誉顧問 | 衆議院議員 | 江崎鐵磨様 |
| 愛知県議会議員 | 岩村進次様 | |
| 中日新聞社常任顧問 | 小山 勇様 | |
| 書道文化研究家 | 西嶋慎一様 | |
| 徳川美術館学芸部長 | 四辻秀紀様 | |
| 中部電力株式会社代表取締役会長 | 太田宏次様 | |
| 中日新聞社取締役事業担当 | 鷺見 卓様 | |
| 中日新聞社取締役広告担当 | 井戸義郎様 | |
| 中日新聞社事業局長 | 加藤宏幸様 | |
| 中日新聞社文化事業部長 | 西原健二様 | |
| 中日新聞社文化芸術文化センター部長 | 上野充浩様 | |
| 兼 中日文化センター事務局長 | 森 陽一様 | |
| 中日新聞社広告局長 | 山田雄一様 | |
| 中日新聞社事業部長 | 小河敦史様 | |
| 東海テレビ放送局長 | 加藤昭宏様 | |
| 東海テレビ放送局長 | 杉田 朗様 | |
| 東海テレビ放送局長 | 鈴木理之様 | |
| 国無形文化財選定保存技術保持者 | 鈴木理之様 | |
| 司 法 書 士 | 興水城治様 | |
| 税 理 士 | 谷田義弘様 | |

(順不同)

第66回 中日書道展

漢字、かな、近代詩文、少字数、篆刻・刻字

愛知県美術館 ギャラリー

愛知芸術文化センター 8階
審査顧問、特別出品、一科審査会員、
二科審査会員、依頼作品、海部俊樹賞、
大賞、準大賞、中日賞(無鑑査)を含む

6月8日(水)~6月12日(日)
午前10時から午後6時
10日(金)は午後8時まで
最終日の12日(日)は午後4時まで

名古屋市民 ギャラリー栄

無鑑査作品(漢字、紙花賞を含む)

6月7日(火)~6月12日(日)
午前9時30分から午後6時
最終日の12日(日)は午後4時まで

電気文化会館 東・西ギャラリー

無鑑査作品(かな、近代詩文、少字数、
篆刻・刻字、紙花賞を含む)

6月7日(火)~6月12日(日)
午前9時30分から午後6時
最終日の12日(日)は午後3時まで

名古屋市 博物館

一科作品
6月14日(火)~6月19日(日)
午前9時30分から午後5時

二科作品
6月21日(火)~6月26日(日)
午前9時30分から午後5時
最終日の26日(日)は午後3時まで

授賞式・祝賀会
6月12日(日)ウェスティン ナゴヤキャッスル

主催/公益社団法人中部日本書道会・中日新聞社
後援/愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市、愛知県・岐阜県・三重県・名古屋市 各教育委員会



**第31回 国民文化祭
あいち2016**

文化芸術

※愛知トリエンナーレの影響により本年は4会場で実施しました。

中部日本書道会の第
六十六回中日書道展
(中日新聞社共催)が
八日、名古屋・栄の県
美術館ギャラリーで始
まった。十二日まで。
同会に所属する十五
〜九十四歳の約五千人
が「漢字」や「かな」
など五つの部門に一点
ずつ出品。このうち、
入賞・入選作品千六百
九十二点を展示してい
る。薄い墨で漢字一文
字を力強く書いた「少
字数」や、躍動感があ
る「近代詩文」の力作
などが並ぶ。
同会の伊藤昌石理事
長(左)は「意欲的な作
品が多い。書道への興
味を高めてもらえれ
ば……以下略……」

多彩な筆致 力作1692点

名古屋 中日書道展始まる



意欲的な作品が並ぶ会場—名古屋・栄の県美術館ギャラリーで

中日新聞 2016.6.9(木)

出品数一覧表

	一部 (漢字)	二部 (かな)	三部 (近代詩文)	四部 (少字数)	五部 (篆刻・刻字)	出品点数
審査顧問	6	1	2	0	0	9
特別出品	1 2	0 0	1 1	0 0	0 0	2 3
一科審	17 313	5 80	10 64	6 38	3 25	41 520
二科審	-7 382	-7 70	3 100	-3 36	2 28	-12 616
依 嘱	18 327	5 68	-5 86	3 25	3 25	24 531
無鑑査	-17 311	-9 57	-4 91	-1 22	8 43	-23 524
無鑑査 ~21歳	-1 3	0 0	0 0	0 0	0 0	-1 3
一 科	-23 553	-12 110	-7 146	-3 42	-7 73	-52 924
(18~21歳)	1 38	0 0	0 16	0 1	1 2	2 57
(15~17歳)	4 6	0 0	-1 0	0 0	0 0	3 6
二 科	-36 380	-7 86	-8 126	-5 35	-15 35	-71 662
(15~21歳)	-12 382	-1 3	10 146	1 15	2 9	0 555
出品合計	-55 2,703	-26 475	-1 778	-2 214	-3 240	-87 4,410



愛知県美術館受付風景



名古屋市博物館受付風景

第六十六回中日書道展に思う

名誉顧問 西嶋慎一



会のベテランに意欲的な作品が見られた今回の展覧であった。土屋陽山は詩経・天保六章の有名な末句を書す。原文の南山之寿、不騫不崩を、「不騫不崩、南山之寿」と配置変えした妙もさりながら、筆を軽く当てて静かに書き進めた、その律動と間合いが好ましい。南山の寿の如く、長寿を寿ぐのだが、さらりと書き行く自然さが、つまり、ある年齢に達した土屋の境地を語るのであろう。作品の表現はかくありたい典型を土屋は問うている。

平松紫雲を長老扱いすると怒られようが、久しく病を養っている平松は、こう呼ぶべきかと思う。良寛詩を調和体で認めた静かな境地の作だ。だが、「魚龍戯れ林静かに」の条りは、鬱勃たる今の平松の心境を語るものである。

黒野清宇は、山上憶良歌を二行にまとめ。実にさりげなく淡々と筆が進められる。その平穏な気持ちだが、この作者の病身を養う平生を語っているよう。中林路風の「山雨欲来風滿楼」は許渾の詩意を、何の誇張も無く、平静な筆で記す。やがて起らんとする予兆を告ぐるのに十分である。

黒田玄夏の堀口大学詩は、相変わらず作品が若い。意欲的に運ばれた筆の綾が作品の強調音符となっている。安藤滴水は井上靖の翠檜物語を軟らかい筆で詩情豊かに書き上げる。この四字の白の作り方が、この作者の巧まざる感覚の鋭さを見せつける。

樽本樹郎は「取慰此流芳」で詩情を書こうとしているのであろうか。独得な決めつける筆致が影をひそめ、軟らかく浮かす筆となった。鬼頭翔雲の隸書は、古樸な味の再現に成功している。後藤汀鶯の王維詩は力作。二行目行頭の「帰臥南山陲」を大きく書き、一行目と違和感なく収める力量は非凡な腕と評すべきである。近來切つての秀作と見た。

上田賦草の「雨中即事」も力感あふれる作である。大胆な筆の運びが、雄大な結体を生んでいる。天野白雲も整った作。「良寛詩」を題材に古雅な趣きを演ずる。川崎尚麗は小さな土屋陽山、良くまとまっている。

梶山夏舟、伊藤仙游、工藤俊朴、佐藤慶雲は筆の動きが大きく、雄大な構えを作る。松永清石は逆に小刻みな筆の動きで情感表現に秀れる。

伊藤昌石、松下英風は遅筆で間合いの大きさを訴える。古川昇史も同じ手だ。関根玉振、山際雲峰、横井宏軒は金石の気の再

現を求める。栢英峰、中野玉英もこの手だ。伊藤曉嶺、山内江鶴は筆のさばきに見るものがある。波切童州、水谷海越はリリシズムを墨色の变化に求める。

近藤浩平の大胆な筆さばきには、いつ見ても圧倒される。山本雅月は遅筆が実に堅実である。したがって表現が強い。村瀬俊彦も筆力強く、表現に重みがある。竹内峰敏は漢字を中心に詩文書をまとめる。原田凍谷は漢字とかなを同列に表現し、かなの下に細字を二段で書き込み、作品の一体感を醸成していた。

富田栄楽は筆の大きな動きで作品に躍動感を与える。加藤裕の「權の句」は、この感性鋭い作者の大胆な表現。だがもう少し読み易い配慮が欲しい。篆刻の岡野楠亭も加藤裕と同質の作家。この才能は、布字と刀法に感性表現を欲するのであろう。

加藤子華の濃密な線、岡本苔泉の章草、大森香鶴の沈重も好ましかった。今田昌宏、森冬英、片山清洲、清水春蘭も期待が持てる。

海部俊樹賞・奥住易州は章法に非凡な腕前を見せる。大賞・村林龍鳳は強い筆力が將來性を感じさせる。準大賞では、漢字の阿賀美翠、伊藤玉冰、窪田蝶華、中西草城、原翠舟、溝口渺然、かなの竹内

紫峰、永島育子、近代詩文の小宇佐久美、松井香代子、少字数の白柳ゆかりの諸氏を評価したい。

中日賞では、近代詩文の牛場智美の筆力強い作が好ましい。また、篆刻の小池理一は刀法の鋭さが魅力的であった。

長老や幹部作品に、今回は意欲的な作が多く見られ嬉しかった。会全体に刺激が行きわたり、充実した作が多く見られた六十六回展であった。



大勢の観賞者で賑わう中でメモをとられる西嶋先生

第六十六回中日書道展 審査総評



審査部長

関根 玉 振

第六十六回中日書道展に入賞、入選されました皆様、誠にありがとうございます。

今年度審査部長の重大さを痛感しつつ、この大役を果すことが出来ました。これも審査副部長、主任、委員の先生方の御支援、御協力の賜と心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

今回の総出品点数四、四一七点のうち二、三四三点の審査を去る五月七日から九日までの三日間ウイックあいちに行いました。二科・一科・特別選考共、例年通り『公明正大』を主眼に各部の比率を設定し慎重に選考に当たっていただきました。

二科作品一、二一七点のうち、二科賞九〇点、奨励賞四八六点、佳作四一一点、入選一八九点。

一科作品九八七点のうち、推薦二九点、特選二三九点、準特選三〇二点、秀作三二七点、入選一九〇点でした。二科一科とも練度の高い作、古典を基調

とした技術の高い作、個性豊かな斬新な作等、いずれも甲乙つけがたいレベルの高さを感じました。

また特別賞選考委員四名の先生方によって選考されます役員作品は一、〇五八点で無鑑査作品一五%の入賞、依頼作品一〇%入賞と大変厳しい比率でしたが、各部共通の基準にのっとり、無鑑査作品から中日賞五点、桜花賞七五点、依頼作品から海部俊樹賞一点、大賞一点、準大賞五七点の秀作が選出されました。

海部俊樹賞の奥住さんの作品は、王鐸を基調として墨量をたっぷり含ませ行間を通し、明るさのなかに力強さを、また大賞の村林さんの作品は重厚かつ線の太さで北魏の厳線を感じました。

厳しい審査の中、見事入賞されました皆様には、新しい目標に向って一層飛躍されますよう更なるご精進を願うものがあります。又惜しくも自分の目指した目標に達しなかった方々もこれに怯むことなく今後の精進をご期待申し上げます。

最後に本年度審査に当たられました諸先生の絶大なるご理解とご協力に対し深く感謝申し上げます。審査総評といたします。

〈授賞式 審査総評より〉



特別賞選考委員

海部俊樹賞・大賞・準大賞 受賞者紹介

〔作品評〕 松永 清石 (海部俊樹賞・大賞・一部)・渡邊 笙鶴 (二部)・黒田 玄夏 (三部)・横山 夕葉 (四部)・平田 蘭石 (五部)

海部俊樹賞

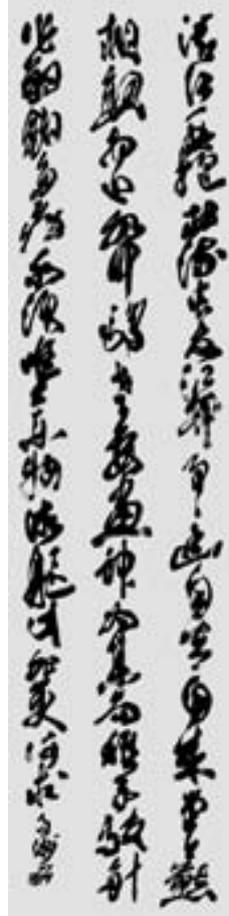
第一部 奥住 易洲



この度まさかの受賞で、身に余る荣誉と感謝しております。偏に我が師をはじめ諸先生方のご指導の賜と、心よりお礼申し上げます。二年程前、軽い脳梗塞を発症し、出品出来ませんでした。今回ようやく中日展に挑戦出来ました。出品できたと自分が喜びました。

〔評〕 作品は、王鐸が好きで草書を習ってきました。リズム感、行間など全体の調和をと努力しました。これを機に、先生の言われます王鐸や北魏の楷書など中国古典に学び、習熟し自分らしい表現を身に付ける所存でございます。今後共宜しくお願い致します。

〔評〕 王鐸を基調としたこの作、墨をたっぷり含ませて力感を表現。小気味よく進む筆線に爽やかさを感ずる。



大賞

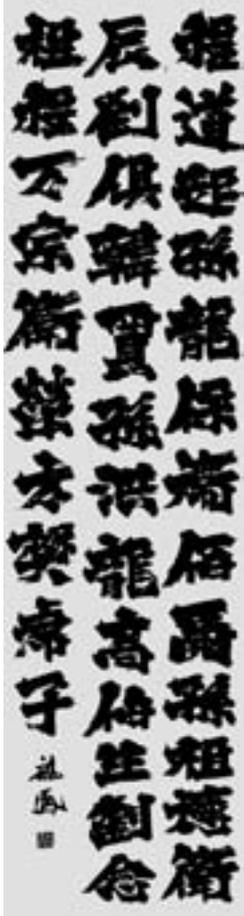
第一部 村林 龍鳳



この度は思いがけない身にあまる大賞をいただき驚きと感謝の気持ちで一杯でございます。これも偏に、審査にあられた諸先生方また、温かくご指導下さいました師匠に心より御礼申し上げます。

先生は、研究会のとき私にいつも「半紙の練習が足りない」と言われます。中日展が、近づくとう品作品しか練習していなかった状況で、未熟さだけが残り勉強不足を痛感しております。まだまだ未熟な私ではありますが今回の受賞を励みに今後一層努力して参りたいと思っております。今後とも宜しくご指導の程お願い申し上げます。

〔評〕 重厚かつ力強い線質は、北魏の厳しさを見事に表現している。秀作。



海部俊樹賞・大賞・準大賞 (1部) 受賞者

準大賞

第一部 阿賀 美翠



思いもかけず受賞のお知らせを頂き、驚きと共に身に余る光栄と厚く御礼申し上げます。

さばき、墨量や余白の表現など細かなご指導を賜わり心から感謝しております。今後も書道が続けていけることへの喜びと感謝の気持ちを忘れずに、一層の精進を重ねて参りたいと思います。誠にありがとうございます。

〔評〕

密度あるこの作、呉昌碩が根底か、文字の大小と墨量の変化が紙色とマッチして清々しい。

準大賞

第一部 安藤 静歩



伝統ある中日書道展で栄えある準大賞をいただき誠にありがとうございます。賞の重みに身の引き締まる

思いで一杯です。師をはじめ諸先生方に感謝とお礼を申し上げます。作品は、書の奥深さに自分の力量不足を痛

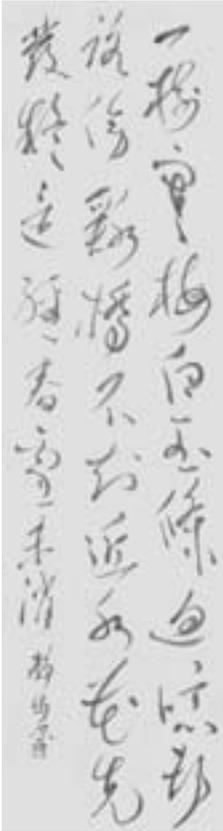
感じ試行錯誤しました。筆の流れに任せようと書いた一枚です。

この受賞を励みに、書を学ぶ機会を得た幸せを大切に取組み、努めていきたいと思っています。

今後ともご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。

〔評〕

流麗な筆致、淡墨の美しさと余白がうまく生かされている作。



準大賞

第一部 伊藤 玉冰



この度は、中日書道展において、栄えある準大賞を頂き誠に有難うございました。これも偏に我が師をは

じめ諸先生方、書友の皆様のご指導と励ましのお蔭と深く感謝申し上げます。作品の制作にあたり、萬葉集の中から二首を選び、墨のにじみやかすれ、行間の余白に留意しゆつくり筆を運ぶ事に苦慮致しました。年月を重ねるごとに書の奥深さと己の未熟さを痛感し、学べる事を改めて幸せに思います。

この賞に甘んじる事なく魅力ある作品作りを心がけ精進してまいります。

〔評〕

大きくとった行間に横への振幅が心地よいリズムとなつて、表情のある作となった。



準大賞

第一部 伊藤 江麗



この度は、栄賞ある賞を賜り、誠に有難うございます。これも偏に、ご指導下さいました師をはじめ、諸

先生方のお蔭と深く感謝しております。金冬心の文字に魅せられて十余年、少しでも近づきたく精進を重ねてまいりました。作品は、帖での景色を考え、墨量の変化に留意しながら制作致しました。

この受賞を励みとし、今後も榮譽に恥じぬよう、より一層研鑽してまいります。指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕

金濃の書風を取り入れ、一字一字の姿がよく、最後までしっかりと書けている堅実な作。



準大賞

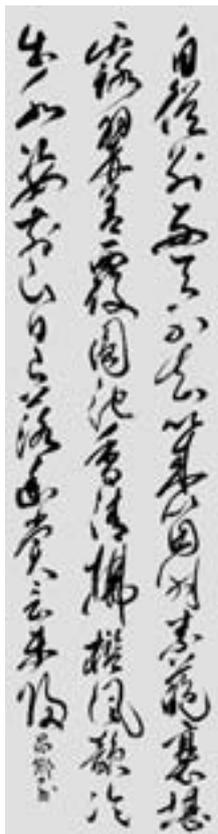
第一部 伊藤 昌郷



この度は栄えある準大賞を賜り、ありがとうございます。諸先生方や先輩方の温かいご指導のお蔭と心

から感謝申し上げます。

題材は良寛の五言律詩で、行間の余白、文字の大小と強弱を意識し臨みましたが、改め



て作品を目にすると、まだまだ改善の余地が感じられ、更なる努力が必要と痛感いたしました。また、この度の受賞を励みにするとともに、準大賞という賞の重みに責任を感じ、微力ではありますが、書道文化の発展に貢献できるよう努めてまいりたいと思います。今後ともご指導の程お願い申し上げます。

〈評〉

良寛詩を安定した構成で纏めている。線質が美しく濃墨での表現が新鮮。

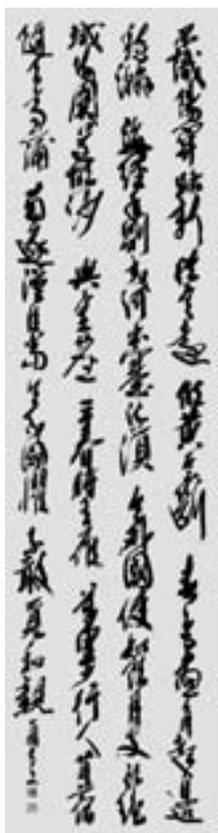
準大賞

第一部 片岡 蘭芳



この度、第六十六回中日書道展に於いて、栄えある準大賞を受賞出来ました事、誠に光

栄に思います。今回の作品は、王維の五言律詩二首を四行に纏めました。墨量の変化、力強さの中に流れる様な美しさを表現する様心掛けましたが、手



応えを感じる一枚が出来ず、試行錯誤するものの、力不足を思い知らされる毎日でした。「継続は力なり」続けて行く事の出来る恵まれた環境に感謝しています。今後も個性の表現とのびのびとした作品が書ける様、気持ち新たに努力出来ればと思っております。本当に有難うございました。

〈評〉

縦の流れに重きをおき、文字の大小墨量の変化が巧み。立体感のある作に仕上がった。

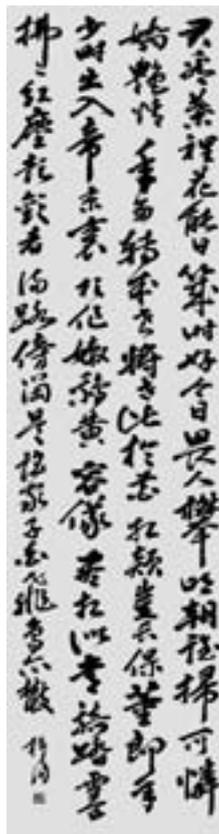
準大賞

第一部 尾中 杉得



思いがけない朗報に唯々溢れる感激を押えられぬ状態でございます。誠にありがとうございます。

「継続は力なり」と、今は亡き師匠のお教えを胸に師や社中の皆様方のお導びき



を受け、今日ある私は幸せ者だと感謝の気持ちでいっぱいでございます。今回の作品は余白、墨量について何度も何度も指導を受け書き上げました。幸い家族の協力も得られ、大好きな書道を続けられる喜びを深く感じ「書」を心の糧として一層精進いたしとございます。

〈評〉

堅実な筆法。その真面目な書き振りに好感がもてる。単体であるが行の流れがよく纏っている。

準大賞

第一部 上 蘭 華 蓮



この度は第六十六回中日書道展に於きまして栄誉ある準大賞を賜り、

思わぬ朗報に戸惑い、そして身に余る栄光と感謝で一杯でございます。これも偏に師、諸先生方の御指導と、ご厚情によるものと深く感謝し、謹んで厚くお礼申し上げます。



ます。今回の作品もつい力が入ってしまい、自分の目指す作品とは程遠い物になり、書の奥深さと難しさを改めて痛感致しました。今後は今回の受賞に恥じない様精進する覚悟です。ので、一層のご指導をお願い致します。この度は本当にありがとうございました。

〈評〉

呉昌碩にヒントを得て、横への動きを抑制した形姿の作。赤色の紙に引かれた罫線は効果的。

準大賞

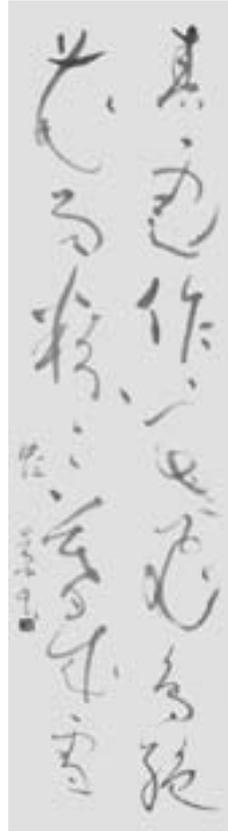
第一部 北村虹景



師匠はじめ社中の先生方の人間味溢れる温かいご指導、仲間の皆様の日頃からのご指導ご支援のおかげと、深く感謝しております。今回は題材選びに一月ぐらいかかりました。そして自分の

癖である力が入りすぎることにつけました。連休や夏休みも犠牲にすることに意味があるのかとか辛く思ったこともありましたが、仕事も趣味も基本楽しんでやってきました。情熱溢れる社中の皆様の背中を見てこれからも精進して参りたいと思います。

〔評〕
文字の大小の配置がおもしろい、叙情的な流れを感じさせる作。



準大賞

第一部 窪田蝶華



この度は第六十六回中日書道展におきまして、栄えある賞を賜りありがとうございました。喜び以上に驚きと、その重さに身の引き締まる思いでございます。これも寛大で温かい師匠のご指導をはじめ、諸先輩方の励ましのおかげと深く感謝しております。

雄渾で懐広く、石を刻むように白を黒で切り裂いた様な線を表現したいと制作しておりますが、自身の未熟さに反省ばかりです。ずっと応援してくれた亡き祖父母に報告し、謙虚さと感謝の気持ち忘れずに、魅力ある作品を目指して今後一層努力を重ねてまいります。ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕
切れのよい筆さばきの六朝風の作。落款の二行が効果的に作品に生きている。



準大賞

第一部 桑原静光



この度は栄えある準大賞を頂き、誠に有難うございます。これも偏に、温かく熱心にご指導下さいました恩師をはじめ、諸先生方、社中の皆様、家族の支えのおかげと心より感謝申し上げます。今回の作品制作にあたり、「今までの隷書

作品から脱却」ということを意識しました。横長の扁平な字形、字間の余白から、行間の余白へと変えました。途中何度も書けなくなり挫折しそうになりましたが、自分を信じ書き込みました。この賞を励みに更に食欲に書けたいと思います。これからもご指導の程、宜しくお願ひ申し上げます。

〔評〕
洗練された簡潔な形姿は気品がある。日頃の古典の探求の成果でしょう。



準大賞

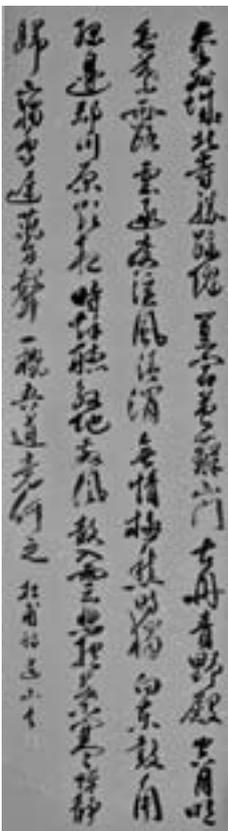
第一部 千田道山



この度は、栄えある準大賞を頂き身に余る光栄と感謝いたします。これも偏に、師匠はじめ諸先生方のご指導ご支援の賜と心より感謝しております。墨量、強い筆線、行間バランスに心掛け作

品作りに取り組みましたが、何度書いても思うようならず、未熟さを痛感致しております。二十三年前、会社に勤めをしながら長く続けられる趣味として始めた『書』ですが、この受賞を励みに新たな目標を目指して、さらなる研鑽を積んでまいります。今後とも一層のご指導を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

〔評〕
気負いのない、ゆったりと運ばれる筆鋒と作品構成に暖かさを感じる作。



準大賞

第一部 田 島 麗 華



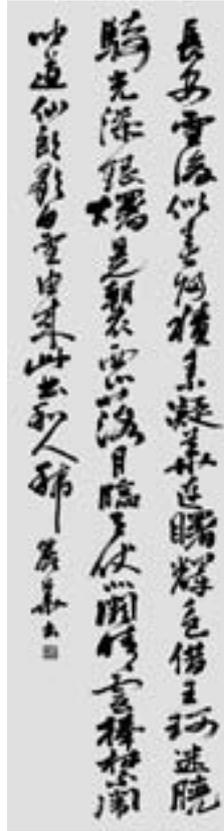
この度は、栄誉ある準大賞をいただき、身に余る光栄と喜び、そして私をここまで導いて下さいました師

はじめ、諸先生方、諸先輩方、応援してくれた友人へ感謝の気持ちでいっぱいです。私がいつも作品づくりで悩む事は、墨量と

線の力強さです。もう一枚あともう一枚と書き込んで、納得のいくものが書けず、手が止まってしまいます。その度に私は、師が常々言われる、普段の古典の臨書の大切さを痛感いたします。未だ課題の多い私ですが、この受賞を励みにこれからも日々努力を重ねてま

〔評〕

よく鍛練された確かな運筆。粘り強さの中にも用墨の巧みさが明るく格調高い作となつた。



準大賞

第一部 異 麗 都



この度、私にはまだ遠いと思つていました準大賞を賜り誠にありがとうございました。

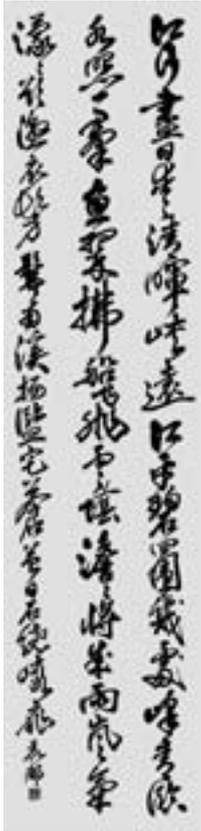
身が引き締まる思いです。これも長きに渡り熱心にご指導下さいました師匠をはじめ、諸先生方、関係者の方々の温かいご支援のお蔭

と、心より感謝申し上げます。

作品に対する墨量、行間、線質など課題も多く未熟ではございますが、あきらめず根気よく取り組んで参りたいと思います。今後ともご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。

〔評〕

字間をつめた密度ある作。安定感のある三行構成に、すっきりとした行間の白が輝いている。



準大賞

第一部 多和田 美 穂



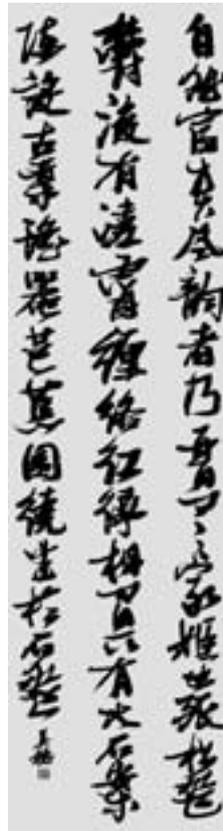
この度は、準大賞という名誉ある賞を頂き、誠に有難うございました。これまで、諸先生方からの熱心

なご指導とご厚情により、そして、いつも陰ながら支えてくれた家族のおかげで、好きな書の道を歩むことができ、学び、経験させて頂いたことに深く感謝しております。

古典の素晴らしさ、かけがえのなさに気づいた時から、書芸術の奥深さと学べる喜びを実感し、臨書や作品制作時の、一瞬一筆が日々の充実を与えてくれます。今作品も、張瑞図の独創的な作品世界に憧れ、研鑽し溢れる自分を信じて制作致しました。これからも初心を忘れず、自分の書を追及して参ります。本当に有難うございました。

〔評〕

古典に裏打ちされた確かな字形。重厚でありながら余白をうまく生かした明るさのある作。



準大賞

第一部 中 西 草 城



電報を受けとり驚きから喜びにかわりました。この度は栄誉ある準大賞をいただきありがとうございます。

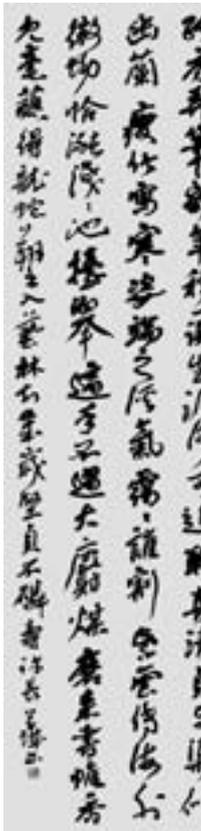
作品は江馬細香の漢詩に何紹基の書法で私なりに書きました。江馬細香という人物は恩師の公開講座を拝聴して知り、幕末の女性で

書道、絵画、漢詩などにすぐれた才能の持ち主で関心を持ったからです。何紹基との出合いは先輩の作品の中で筆圧の変化による美しい線でした。恩師、先輩のお蔭と感謝致しております。

今後は尚一層私らしい表現ができるよう精進してまいります。ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕

古意を得た練熟の筆致、ゆつたりと構えた字形に品格の高さを見る。



準大賞

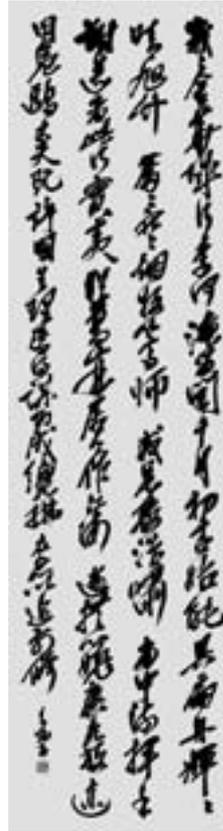
第一部 中村 青 焔



この度は、栄誉ある準大賞を頂き誠にありがとうございました。驚きと喜びの気持ちでいっぱいです。これも偏に恩師のご指導の賜と心より感謝いたします。

作品制作においては、毎回思うように書けず悪戦苦闘の連続でした。この受賞を機に一層精進して参ります。今後ともご指導のほど、よろしくお願いいたします。

〔評〕 心地よく律動する筆鋒の展開、行間の響き合いが紙面に満ち溢れている。



準大賞

第一部 丹羽 藍 水



この度、思い掛けず栄誉ある賞を賜りまして、誠に有難うございます。喜びと感謝の気持ちで一杯でございます。これも偏に、師匠をはじめ、諸先生方の温かいご指導のお蔭と心より御礼申し上げます。

作品制作では、紙の「白」と墨の「黒」のバランス、墨の潤濁、線の質感を心掛けましたが、書く程に力量不足を痛感致しました。まだまだ未熟な私ですが、今回の受賞に恥じぬ様、仕事との両立の中で好きな書が続けられる幸せをかみしめつつ、精進して参りたいと存じます。今後ともご指導の程、宜しくお願ひ申し上げます。

〔評〕 帛書を基調とした粘り強く重厚な筆線で纏め上げている。落款はこの作品の清涼剤。



準大賞

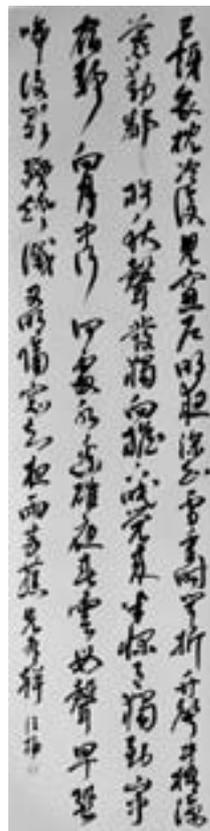
第一部 野田 佳 楊



この度は、思いもかけず準大賞という大きな賞をいただき、誠にありがとうございました。温かくご指導下さいました師を始め、社中の皆様方の支えのお蔭と深く感謝を申し上げます。常日頃から、起筆、転折の甘さや字の懐の

狭さを指摘されておりましたので、作品づくりにあたっては、力強い線質、余白の美、そして躍動感のある字と心掛けて書き上げたいつもりでした。が、思うように筆を運べず、未熟さ、勉強不足を痛感しております。今後も、この賞を励みに精進してまいりたいと思いますのでご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

〔評〕 卓抜した筆さばきの懐を大きくとった字形は、作品を大きく見せている。心豊かな作。



準大賞

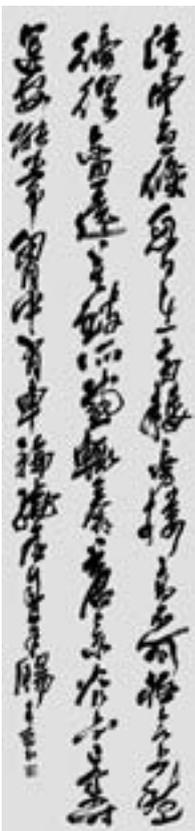
第一部 服 部 青 轡



この度、準大賞という身に余る賞を賜り、感激しております。偏に、温かく熱心な師のご指導と、先輩方に深く感謝申し上げます。白と黒の世界で、メリハリのある字形と空間、墨量の変化と、欲ばかりが先走り、四苦

八苦しながらの作品です。まだまだ勉強不足の私ではございますが、これからもこの賞を励みとして、一層努力して参りたいと存じます。今後共ご指導の程お願ひ申し上げます。誠にありがとうございました。

〔評〕 文字の大小疎密、緩急自在の運筆、行間の余白は見事。一貫した流れが美しい。



準大賞

第一部 林 幸湖



この度は栄誉ある賞を頂き心より御礼申し上げます。昭和五十五年五月五日、何かを始めようと師匠の

門を叩きました。まず筆の使い方の難しさに直面しました。そしてその難しさが面白さだと思えるようになったのは最近の事です。

三年前に先生も九十歳で亡くなられ「死ぬまで書けよ」の言葉に、又先輩方にも励まされ続けられました。そして二年間かけて読み終えた郷土の文豪島崎藤村の『夜明け前』。

準大賞

第一部 花井 明琴



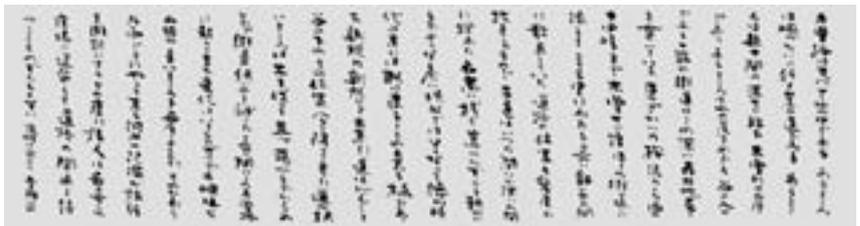
この度は準大賞のご連絡を頂き、驚きと喜びに涙しました。今回、作品を書く際、墨量の変化や余白の作り方を研究してみました。日々の練習では先生からの指導を理解していてもうまく書に表

せないもどかしさに苦しみました。しかし先生や先輩方、一緒に学ぶ仲間の優しい言葉に支えてもらい、心にゆとりができた今回の作品

日本と中津川の歴史がそこにあり、それを私なりに書いてみたいと思えました。

〔評〕

古典に立脚した筆法。これだけの多字数を最後まで乱れなく纏めた手腕に敬服。



が生まれたと思っっています。又、先生は時に厳しく言葉よりも筆の運び方を実践していただきました。今後ともこの賞を励みとし精進し、家族の協力に感謝しつつ頑張っていこうと思います。本当にありがとうございます。

〔評〕

扁平な形容は作品の横への広がりを見せ、明るく雄大、統一された筆勢は気力充実。



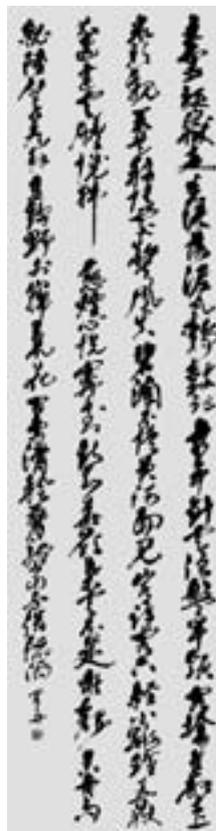
準大賞

第一部 原 翠舟



この度は、栄誉ある賞を頂き有難うございました。喜びと共に、賞の重みに身が引き締まる思いです。

いす。これも偏に熱心にご指導下さいました師をはじめ、諸先生方のお蔭と深く感謝しております。



作品制作には、墨の濃淡や余白、全体のバランス等を中心掛けて取り組んできましたが、納得のいく作品には仕上がらず、力量不足を痛感するばかりです。この受賞を大きな励みとし、一層精進して参りたいと思います。今後共にご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

豊かな墨量に字間をつめながら、振幅を抑えて行間を明るくとした構成は爽快。

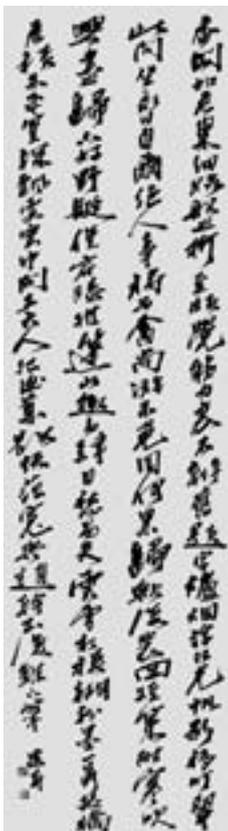
準大賞

第一部 原 田 溪 華



この度は、中日書道展におきまして、栄えある準大賞を賜り、ありがとうございます。

生の頃から温かくご指導下さる師匠はじめ、諸先生方、社中の皆様、家族の理解に深く感謝しております。十分時間が取れない中、集



中して書いたのが今回の作品です。作品を書く際、常に字の大小、強弱、墨の変化と単調な作品にならない様に気をつけておりますが、まだまだ未熟な私です。より一層努力を重ね、より納得出来る作品を書ける様励んで行きたいと思っております。今後共宜しくご指導の程お願い申し上げます。

〔評〕

横への広がりを意識した結体、行の左右の調和が良く、心のゆとりを感じる作。

準大賞

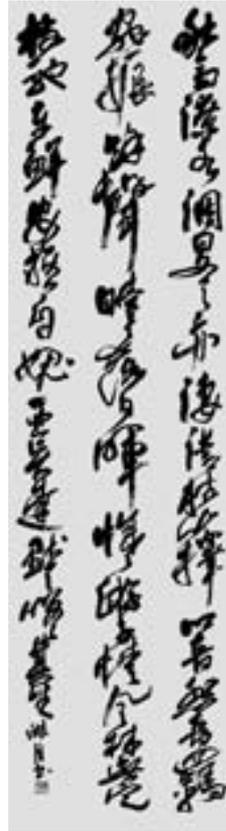
第一部 平原 皓 月



この度は思いがけなく準大賞という栄誉ある賞を賜り、喜びとともに賞の重みに身が引き締まる思いをいたしております。これも偏に永年に亘り、温かく御指導下さいました師を始め、良き先輩方、書友の皆様の御指導と励ましがあつての

〔評〕

軽快なりズムで進む筆線、潤渾疎密をうまく配し、躍動感のある作。



準大賞

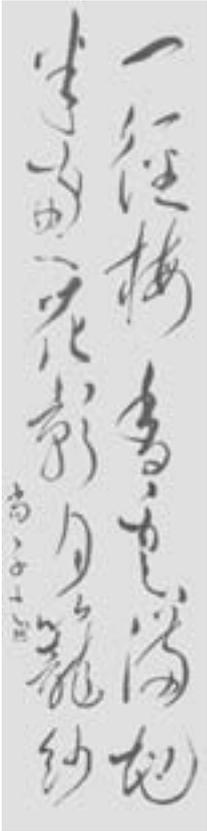
第一部 深井 尚子



この度は、思いもよらぬ準大賞という栄誉ある賞を戴きまして、誠にありがとうございます。これも偏に、

〔評〕

作品は線質、字間、文字の大小、墨量等心掛けておりましたが、まだまだ未熟で勉強不足を痛感しております。子供の頃から書が続けられている事に感謝し初心を忘れず、この賞を励みに一層努力を重ねて参りたいと思えます。今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。



準大賞

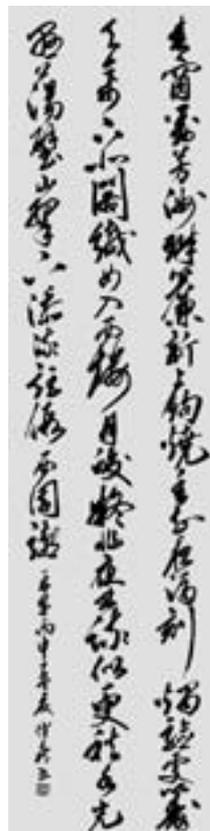
第一部 藤田 佐喜子



この度は、第十六回中日書道展に於きまして、準大賞という身に余る賞を頂くことになりましたこと、

〔評〕

流暢に流れる連筆と奏でるリズムが心地よく、見る者を爽快にする。



準大賞

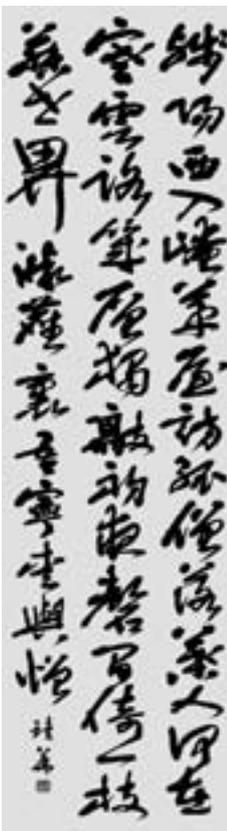
第一部 水田 珪 華



この度は、準大賞を頂きまして有難うございました。師をはじめ私を支えてくださいました周りの方々に深く感謝しています。

〔評〕

習い始めた頃、師の「書きたいものを持つことが大事だ。」という意味深い言葉が印象に残りました。自分が表現したいもの、書きたい作品は何かとは、沢山勉強して、教養を深めた後、本当にわかるのだと思います。書を通して私の世界は広がりました。今後もしも進歩していきたいと思っておりますので、皆様ご指導の程宜しくお願い申し上げます。



〔評〕

やや縦長の字を多用し、美しい流れを表現。一貫したリズムは快い。

〔評〕

古典を踏まえた洗練された筆意。懐の大きな形姿は風格と品格がある。気力横溢の作。

準大賞

第一部 溝口 渺然



第六十六回中日書道展におきまして思いもよらぬ榮譽ある準大賞の報を頂き、驚きと身に余る光栄に感謝

の気持ちで一杯です。

これも偏に師をはじめ、審査にあたられたました先生方のご温情、そして社中の諸先輩の

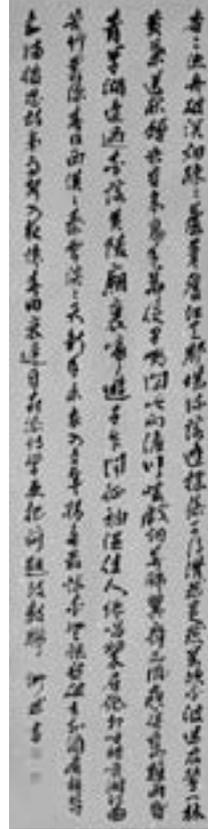
お蔭と心より厚く御礼申し上げます。

作品制作には構成はもとより行間の余白、墨量の変化等、試行錯誤を重ねたつもりですが、今だに未熟な出来だと痛感致しております。

今後も古典の臨書を大切に一層精進して参りたいと思いますので諸先生、諸先輩のご指導をよろしくお願い申し上げます。

〔評〕

鍛練を経た充実した筆到。単体多数を纏め上げた手腕と気力は流石。



準大賞

第一部 宮 希蓉



この度は、栄えある準大賞をいただきありがとうございます。ございます。

良き師、良き友、恵まれた環境に深く感謝しています。

作品の制作は、大変難かしく、思い描く線

はなかなか表現できません。時に思った線を表わせる感動の瞬間を思いおこし、より質の高い線を求め、今後更に古典への参入を深め精進してまいりたいと思っております。

〔評〕

長鋒を巧みに駆使し、縦横にはたらく筆線は行間呼応と余白の美しさを演出。



準大賞

第一部 山田 秀 謙



このたびは、準大賞という思いがけぬ吉報にととても感激して感謝の気持ちでいっぱいです。これもひとえ

にご指導して下さった師のお蔭です。また、折りに触れ励まして下さった先輩方、お仲間

の存在あってこそと思っております。今回は、

練習時間の確保が大変難しく心が折れそうになり、必死にひと文字一文字を大切に書くよう心がけました。私にとって「書」は「友」です。人生の苦しい時、悲しい時にいつも「筆」と「墨」が癒してくれていました。これから

も書を通して自分を表現できればと思います。一層の精進を重ねて励んでいきたいと思っております。

行間と字間の調和が巧み。切り込むような穂先の筆勢が紙面に満ち満ちている。

〔評〕

行間と字間の調和が巧み。切り込むような穂先の筆勢が紙面に満ち満ちている。



準大賞

第一部 山田 正 代



この度は、中日書道展にて準大賞の朗報を頂きまして、誠にありがとうございます。これも常に温かい包

容力でご指導下さいました先生のお蔭と心より感謝申し上げます。

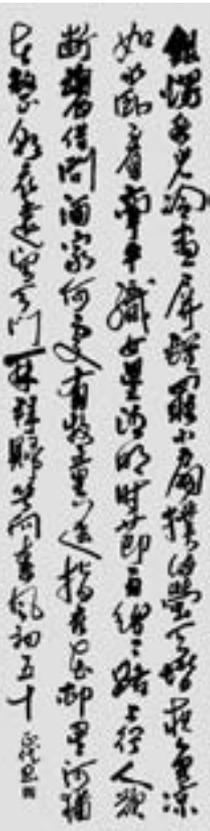
また、公私にわたり筆を執るのが困難な日もありましたが、先生や書友の励ましもあり、

続けることができました。そのような中で、書が人生の支えになっていることに気付きました。

これからも王鐸の臨書を続け、楽しみながら自分らしい字が書けるよう努力してまいりたいと思っております。今後共、より一層のご指導よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

淡々とゆとりある運筆のこの作、王鐸を基調としながら自分の意を加えて品よく纏めている。



準大賞

第二部 石井 照葉



「準大賞」思いがけない知らせを頂き、ただただ驚くばかりでした。まことに有難く、身の引き締まる思

いで一杯です。師匠の美しいかな文字に魅せられ、その奥深さに気づかされ、学び続けている日々です。今回は細字作品で、古今和歌集を十首書きました。墨色の変化、歌のリズム、余白の美、線質、まだまだ思う様筆が運べず、力不足を痛感しております。今後とも、師の「心」を表現する、「書」を求めつつ、社中の皆様と共に続けられましたら幸いです。ありがとうございます。とうご座居ました。

〈評〉

切れ味鋭い線の魅力と動きを感じる作品で、特に山場作りで成功した作といえる。



準大賞

第二部 加藤 月苑



第六十六回中日書道展に於て、栄えある準大賞を頂きまして有難うございます。これも熱心にご指導下さ

いました先生、書友、家族の協力のお蔭と感謝いたしております。門したもの、書の道は奥深く厳しいものでした。万葉かなを覚え、古筆の勉強を根気よく書くことでした。今回は、晶子のうた二首を横書きにしました。ゆつたりとした気持ちで、文字の大小、墨の濃淡、カスレ等に注意し仕上げました。これからも古筆の臨書を基に、美しい線の作品作りに努力する所存です。今後とも宜しくご指導の程お願い致します。

〈評〉

仮名らしい直筆の線の深みと大らかな作品展開が効果的で魅力的な作品である。



準大賞

第二部 木島 静月

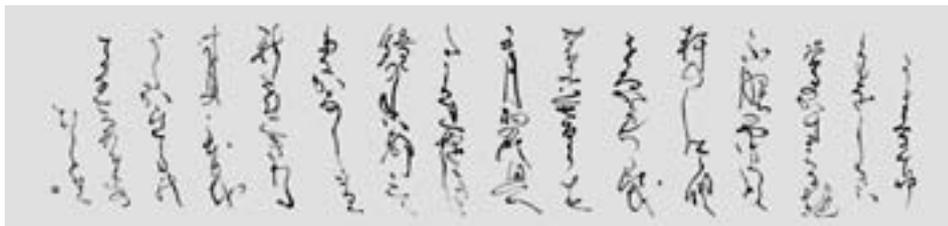


今般、準大賞の榮譽を賜わり、誠に有難うございます。驚きと喜びと感謝に包まれております。ご指導頂きまして師匠と、折々に支えて下さった諸先輩、お仲間の皆様のお蔭でございます。心より御礼申し上げます。

いつも一点一点画が思う様に書けず、目標の墨跡との違いに啞然とするばかりです。今回も、散らし方や文字、構成を試行錯誤したのですが、最後まで迷いながらの出品でした。意図する作品とはなりません。書作中は至福の時です。これからも悩み、迷い、努力を楽しみながら続けます。先生方、今後共、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〈評〉

線の疎密が作品の奥行きを感じさせ、大字かな作品としての大きな流れと作品全体の安定感を醸している。



準大賞

第二部 竹内 紫峰



第六十六回中日展準大賞の栄を賜り有難うございました。深く感謝申し上げます。今回の作品は、

文房四宝の様々の特性に振り廻されて、墨量、墨色、墨継ぎ等の試行錯誤を繰り返したものの心残りある出品でございました。こうして作品を見えますと改めて仮名の奥深さを感じ、紙や筆等も考え直さねばいけないと思えました。この賞を糧に、書的美を求めて更なる精進をしてまいりたいと思えます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

〈評〉

古筆を踏えた練度の高い温雅な線質と横披作品としての構成美がみごとに作品である。



準大賞

第二部 永島 育子



この度は栄えある準大賞を賜わり、誠に有難うございます。これも偏に、師をはじめ、諸先生方のご

厚情のこもったご指導の賜と、心より御礼申し上げます。

古今和歌集の歌を題材にし、作品の始めと

終わりの部分は、優しい線筆で、中ほどは力強いタッチで山場を作りたいと心掛けましたが、その流れがなかなかできず、苦勞を致しました。

書に対する私の motto は「一日怠れば書の力を取り戻すのに二日かかる」ということです。この賞を励みに、更に古筆に学んで、精進を重ねて参りたいと存じます。

〈評〉

古典古筆にヒントを得た畳みかける表現が効果的で雅びやかなみごとな作品である。



準大賞

第二部 堀田 花



この度は、思いがけず「準大賞」を受賞することが出来、気持ちを引き締めております。これも偏に

諸先生方、書友の皆様方と深く感謝致しております。

今回は好きな西行の歌を、全体の構成、墨色、余白などに考慮しながら、折帳作品に仕上げました。書道科在学中より、美しい「かな文字」に魅せられ、数々の古典に接する機会が持てたことは、とても幸福な事と感じております。この受賞を励みに、尚一層精進を重ねて参りたいと存じます。どうか今後共、宜しくご指導下さいます様、心よりお願い申し上げます。

〈評〉

線の優美さと帖形式の表現展開の多様な美しさが魅力的な作品である。



準大賞

第二部 村田 華泉

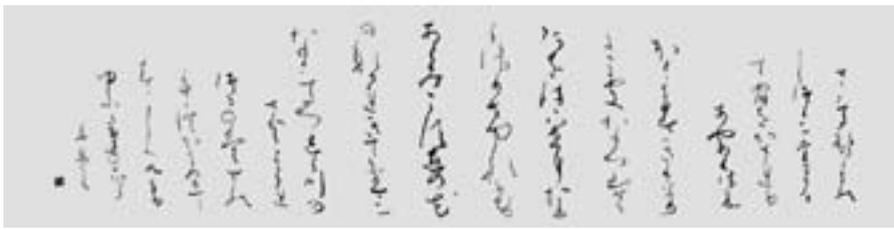


この度は、思いがけず栄えある準大賞を賜り、驚きと喜びの気持ちで一杯です。これも偏に師匠をはじめ

め、諸先生方、そして支えて頂いている回りの皆様のお蔭と感謝致しております。日頃より特に墨量と線の変化を課題として作品作りに取り組んでおりますが、反省点ばかりが残る作品となりました。今後も古筆を基盤として、見る人に足を止めてもらえる様な作品作りを目指していきたいと思っております。未だ遠い目標ではありますが、この度の受賞を励みに、一歩ずつ精進して参ります。今後共、ご指導賜ります様、よろしくお願い申し上げます。

〈評〉

渋味のある線の美しさと地味な書風が、落ちつきのあるおらかな作品として成功している。



準大賞

第三部 岩崎 玉楊



この度は伝統ある中日書道展に於いて、準大賞を授賞させて頂き誠にありがとうございます。思いがけない

い授賞に驚いております。社会人になった頃に実用に書から始めた書道ですが、中日書道会、創玄書道会の先生方や先輩の多くのご指導を頂き、また家族の理解のもと書道を続けてこられた事、感謝しております。

日々、「書」の奥深さを痛感しながら勉強させて頂いております。全てにおきまして、まだまだ勉強不足、未熟な私ですが、今後ともご指導よろしくお願い申し上げます。

〈評〉

コクトーの詩情に触れる想いの「海の響き」にこの作のいのちが凝縮された。横長に展開した構成も奏功。



準大賞

第三部 神谷 千恵子



「墨はたつぷり、モーションを大きく」それが師から戴いた指導、最初の一步でした。早くも十五年、その

都度、自身の手の届く範囲の目標を設定し作品作りをして参りました。潤濁、線質等、考え始めると思うにならず、今回も納得出来ないままの作品となりました。にも関わらずこの様な賞を戴く事が出来本来にありがとうございます。

師をはじめ諸先生方の「貴女らしく自由に書いていいんですよ」の言葉を励みに、これからも精進して参りたいと思っております。そしていつか叙情的な作品作りが出来る事を目標にしたいと思っております。

〈評〉

気分高揚し鋒が自由の境地に舞う。大胆なひらがなの扱いに独自の才覚を見せ、明朗且つ緊密感を表現した。



準大賞

第三部 川村 春霞

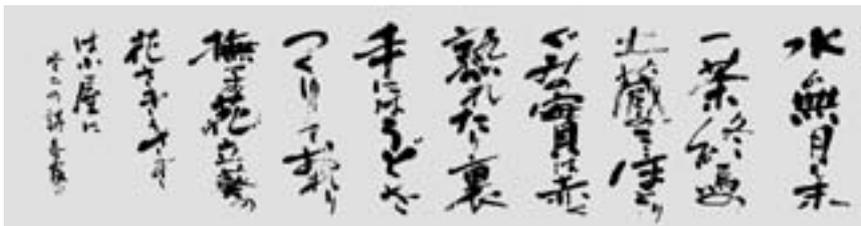


この度は栄えある準大賞を賜りありがとうございます。これも偏に皆様方のお力添えのお蔭と心より感

謝申し上げます。今は亡き師は、初めての近代詩文書に夢中になつてゐる私に「書き続けることが大事」といつも笑顔で言われました。そして「様々な事がある中でも筆を持つと無になれ、そこから道が開けていくような気がする」とも。このお言葉をいつまでも大切に精進したいと思つております。今回の作品は詩情を大切に、行間に気を配り読みやすさを心がけて書きました。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

〈評〉

温順な造型に徹して他の作にない滋味溢れる表現法だ。然し平板に陥ることなく潤濁大小の手法は非凡なり。



準大賞

第三部 小島 廣子



この度は、誉れある準大賞を頂き誠に有難うございます。まだまだと思つ自分に身に余る光栄と心より御

礼申し上げます。自身、筆を持つことがなくなつてゐる昨今、受賞の連絡は信じられない程の驚きです。今回の作品は横の動きを多く取り入れ、行間が明かるく見えるよう意識して制作してまいりましたが、上手にできたかは心配でした。今回の受賞は師匠、諸先生方の温かいご指導の賜と心より深く御礼申し上げます。賞の重みを受けとめ一層精進して参る所存であります。今後共末長くご指導の程よろしくお願い申し上げます。

〈評〉

長鋒を利した筆法は振幅の度合いが高く、大胆な墨つぎと併せてハッキリしたメリハリを見せ効果あり。

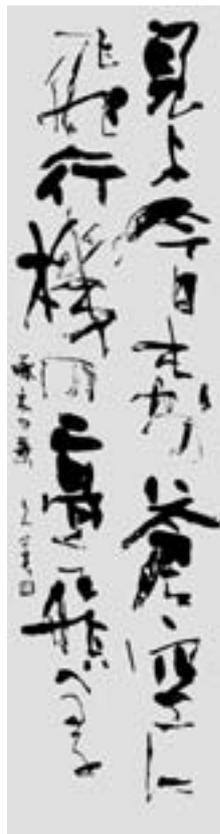


準大賞

第三部 小宇佐 久美



この度は第六十六回中日書道展におきまして、栄えある準大賞を賜り誠にありがとうございました。これも偏に、我が師をはじめ、諸先生、諸先輩方のお蔭と心より厚く御礼申し上げます。未来への希望を飛行機に重ねた啄木の想い



を書きたいと思い作品制作に臨みました。いつも作品を作る時、日頃の勉強不足を痛感するばかりです。これからも私らしい作品が書けるよう、古典の臨書に励み、日々鍛錬を重ねて行きたいです。今後とも御指導、御鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

〔評〕

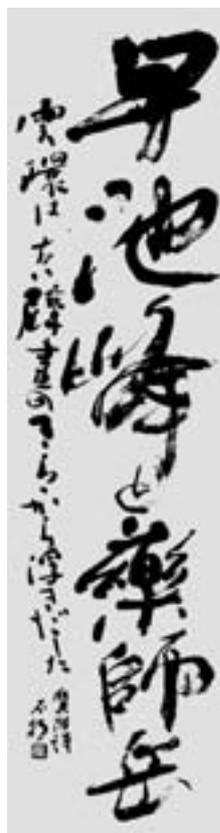
他の追従を許さない暢達自在の爽快作、用筆殊に冴え、時に潤、時に破筆も混えて練達の妙味を発揮した。

準大賞

第三部 佐藤 不朽



この度は第六十六回中日書道展において準大賞を受賞させて頂き、誠に有難うございました。これも偏に亡き師はじめ諸先生方や書友の皆様のお蔭と心より厚くお礼申し上げます。いつも横長の作品を書いておりましたが、今回は縦長で少



し大字の作品で少々戸惑いがありました。が、錬成会等で先生方に色々とお話を頂き何とか仕上げる事ができました。書を習い始めて長い年月が過ぎましたが、道は未だ未だ遠しと感じております。これを機に、これからも一層精進して参りたいと思います。

〔評〕

墨量豊かで解放感に富み雄大なスケールが魅力だ。用筆に俯仰の法を多く使い一層の効果を高めている。

準大賞

第三部 小塚 祥貞



第六十六回中日書道展におきまして、栄誉ある準大賞を頂き、誠に有難うございました。これも長年にわたり御指導くださった師匠をはじめ、書友の方々の励ましの賜と感謝しております。作品は東山魁夷の嵯峨野新秋という散文で



「小倉山に日が沈んで余光が茜色に……」という所に魅せられ、長々鋒でゆつたりと表現しました。その暫しの茜色の中に魁夷さんと共に歩き、その喜びを胸に、自然の赴くままに書きました。今後は自分なりに、残された時を大切に励んで行きたいと思っています。

〔評〕

直立して天を目指す大杉の如く、背丈を伸ばした構成は爽涼さで群書を抜く。線の冴えあるは力量を物語る。

準大賞

第三部 堀部 悠華



この度は身に余る準大賞を賜り誠に有難うございます。これも偏に丁寧にご指導下さいました師匠と社中の方々、また家族の理解のお蔭と心より感謝申し上げます。師にアドバイスを頂きながら詩を選び創作してゆく過程で、己の力量のなさ、基礎を学ぶ事の大切さを改めて痛感いたしました。同時に一つの作品として仕上げてゆく中には楽しさもありました。

今後はこの賞を励みとして更に線質の良い作品が書けるように精進して参りたいと思いますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



ジツクリ構えて線の沈潜さを狙った好感の作。かなの用筆が漢字のそれとマッチして自然性ある調和は見事。

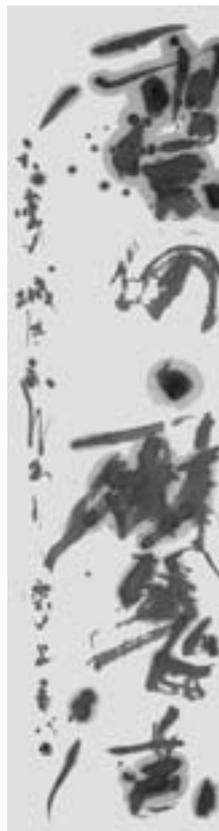
上げます。

準大賞

第三部 松井 香代子



この度は、栄誉ある準大賞を頂き誠にありがとうございました。これも偏に温かくご指導下さいました師導下さいました師のお蔭と感謝の気持ちで一杯です。書を始めて良き先輩、書友に出会い今日まで続ける事が出来ました。



今回、ぎりぎりまで書き続けた作品に行き詰まりを感じ、新鮮な気持ちで墨も詩もガラリと転換した作品です。作品への課題は多くありますが、古典を基礎に一層努力して参りたいと思います。今後ともよろしくご指導の程お願い申し上げます。

〔評〕

淡墨の技法が巧みで奏功、用筆の変転自在の鮮烈さは見せ場として充分。小書きの天空一考すれば尚佳。

準大賞

第三部 山田 鶴 玲



この度は栄えある準大賞を賜りありがとうございました。これも偏に師匠はじめ諸先生、社中の皆様方のお蔭と、感謝の気持ちで一杯です。今回も墨量余白などに悩みながらの作品作りでした。



未熟な私を根気よくご指導して下さいさる師のご熱意で何とか出品に漕ぎ着けました。深く感謝して居ります。

〔評〕

この賞を励みに、楽しみながら精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

字間の間のとり方をよく心得て多字数ながら重苦しさを見せない才覚は高く評価でき墨使いの加減は妙手。

準大賞

第三部 宮本 清霞



「準大賞おめでとう」師からの知らせに感激で胸が一杯になりました。この度準大賞を頂くことが出来ました。この度準大賞を頂くことが出来ましたが、師の的確なご指導と、諸先生、先輩方の暖かい励ましのお蔭でございます。深く感謝申し上げます。今回の作品は墨の潤濁と線の切れに注意し仕上げたつもりでしたが、時間も無くなりギリギリで出品いたしました。まだまだ未熟で勉強すべき事は山のようにあります。作品を創作する事の喜びを少しずつ感じ始めたこの頃です。今後は基本を大切に、書くことを楽しみながら精進して参りたいと思います。

〔評〕

重厚感に圧倒、手応え充分の作だ。思い切りの良い潤墨とそれに対応する渴筆のコントラストに手腕を見る。



準大賞

第四部 加藤 一次



この度は、入賞のお知らせを頂き、誠にありがとうございました。思いも寄らぬ事で、びっくりした

次第です。今回の作品は、孫の名前を題材にして取り組みました。なかなか納得の行くものが出来上がらず、あせりの中に孫に対する思いを込めて書いてみました。平日頃は、古典を何度も繰り返し臨書をし、その技を生かして創作に繋げれば良い作品が完成するのではないかと思つて励んでいます。今後は、一生涯、筆を持ち続けられたら幸いと感じております。今日迄ご指導下さいました先生方から感謝を申し上げます。

〈評〉

筆を吊り上げ、一画一画丁寧に書かれています。細線でありながら強い線、涼やかで舞うような姿、美しい作品です。



準大賞

第四部 白柳 ゆかり



根気強く熱心にご指導下さいました師はじめ諸先生方に改めて深謝致します。ありがとうございました。

今回の「畫」は、画数の少ない文字を選びがちな私には負荷のかかる挑戦となっていました。次画へ移るまでの、その一画の送筆の変化を生み出すのが不得手だからです。しかし、最終画を長くという先生のアドバイス。私なりに一瞬のひと呼吸や、柔らかく楽に力を抜く等の工夫で、作品が一変しました。これからは、固執することなく、多少の負荷をかけ常にアンテナを巡らせ、準備を重んじて、作品作りに精進したいと思えます。

〈評〉

書き出しから順次筆力が増してくる。自身の感情があふれ躍動し、筆を運ぶことが楽しくてしかたがない様子。



準大賞

第四部 永田 美幸

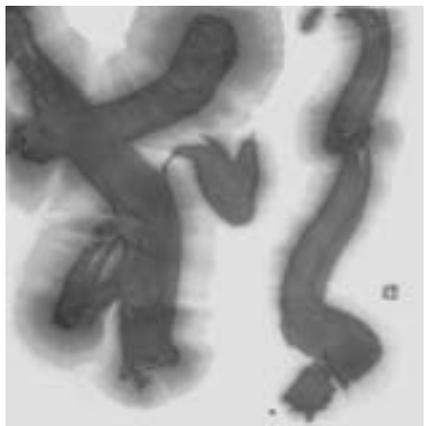


この度は、栄える準大賞を戴き、有難うございました。これも偏に、今は亡き師、元社中の皆様、又、師匠亡き後、心広く暖い目で、私を応援して下さいました先生方のお蔭と心より感謝申し上げます。

近年は、一字書を書き続けていられるだけで、幸せと思つておりましたので、受賞の知らせに驚いております。今後は、今回の受賞を励みとし、一層精進して参ります。更なるご指導の程、宜しくお願い申し上げます。

〈評〉

心豊かで潤いのある作品。あたたかい線、確かな形で表現。やさしさが漂ってきて心なごやかになる作品です。



準大賞

第四部 野田 はる美



この度は栄誉ある準大賞をいただき、身の引き締まる思いで一杯です。これも尊敬する師、良き皆様との出会いがあったからこそ続けてこられた事と、感謝しております。

今回の作品は明るさと柔らかい線を表現しようとして心掛けたのですが、悩みながらの中で思うように筆を運べず日頃の勉強不足を痛感し反省しております。今回の受賞においても、この気持ちを忘れず、これからも励んでまいりたいと思えます。今後共よろしく御指導くださいますようお願い申し上げます。ありがとうございました。

〈評〉

筆が紙面に深く食い込んだ張りのある線。流れるように筆が動き、墨色も美しく一段と目を引く作品です。



準大賞

第五部 杉浦鶴雲



私は篆刻を始め、十三年となります。今回このような立派な賞をいただき感謝いたします。私と篆刻との

の出会い、とあるお店に飾ってあった半折の魅力的な篆刻作品に感動したことです。その後、機会あれば篆刻をやりたいと心密かに思っていました。

この作品は、金文を白文で力強くほり、時代の雰囲気を感じられるように工夫しました。また、白文の印と側款、筆による文字の配置をバランスよく収めるよう心がけました。特に側款は、ほることも拓本をとることも苦労しました。今後ともよろしくお願い致します。

〈評〉

西周鐘鼎文を倣い、印文と画線の対比もよく格調高く堂々とした快作。



準大賞

第五部 多田青石



この度、第六十六回中日書道展にて栄ある準大賞を受賞し大変光栄に存じます。篆刻を生涯の伴

侶と決めたのは今から二十五年前の退職時で、少年期遊びがてらに自用印を作ったことを思い出し、早速通信講座で篆刻を学び始めました。そのうち地域の先生について習うよう指摘を受けたことが今の師に教えを乞う切っ掛けになり、以来先生のご指導のもと試行錯誤を繰り返して乍ら制作に臨んで参りました。この度の作品もこの過程で制作したもので、師のご指導の賜であり深く感謝いたしますと共に、今後とも方寸の世界を楽しみ乍ら精進して参る所存です。

〈評〉

秦篆体を白文に配し運刀のリズムも良い。疎密の変化が加わり良作。



準大賞

第五部 山本正良



この度は準大賞を戴き有難うございました。これも偏に師にご指導を戴き、瑤藍印社先輩方々にご援助を

戴いたお蔭と、心より感謝申し上げます。出品作品の「絶妙好辞」は「世説」に記された三国時代の英雄、魏の曹操と揚修の会話で、文章がとても素晴らしいと褒めた言葉です。甲骨文字で素朴な雰囲気表現を試みましたが、その趣には心残りのする思いがあります。これは今後の課題として一層精進を重ねる所存です。これからも今まで同様、ご指導の程宜しくお願い申し上げます。

〈評〉

殷代甲骨文字を熟知して勁鋭なる作となった。古拙ある。





準大賞（2部～5部）受賞者

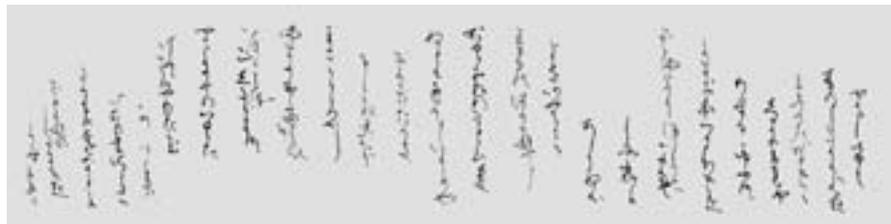


中日賞・桜花賞（1部）受賞者

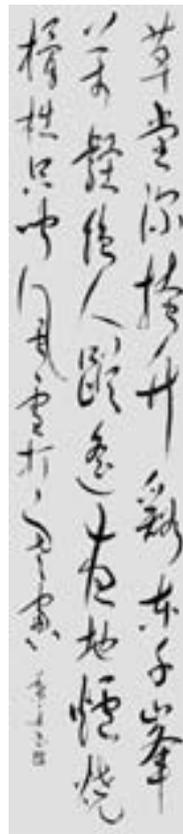


中日賞・桜花賞（2部～5部）受賞者

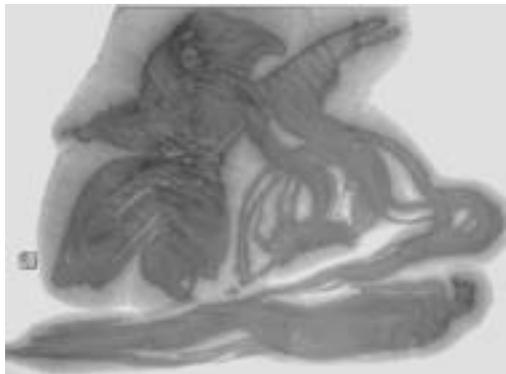
中 日 賞



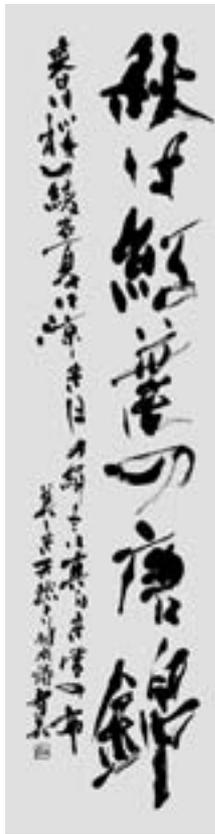
第二部 中日賞 若 杉 美 香



第一部 中日賞 倉 知 葉 舟



第四部 中日賞 荒 井 好 子

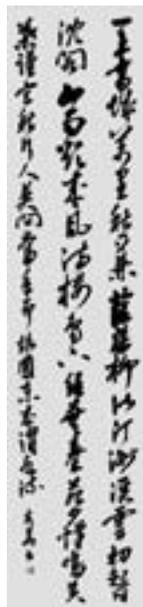


第三部 中日賞 牛 場 智 美

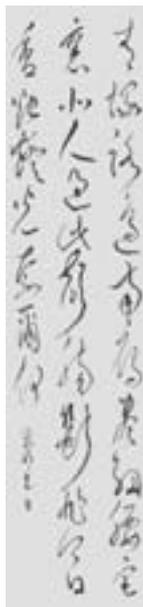


第五部 中日賞 小 池 理 一

桜 花 賞



第一部 桜花賞 青 木 友 華



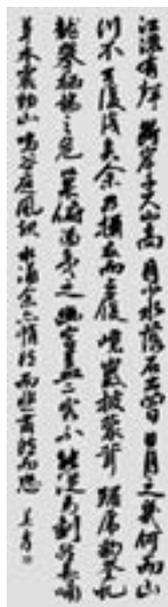
第一部 桜花賞 赤 根 紫 明



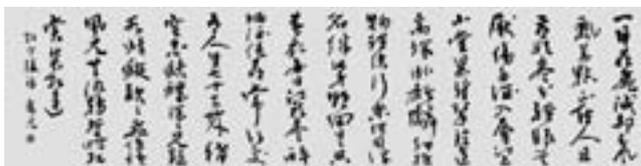
第一部 桜花賞 阿 部 牧 香



第一部 桜花賞 猪 飼 祥 瑞



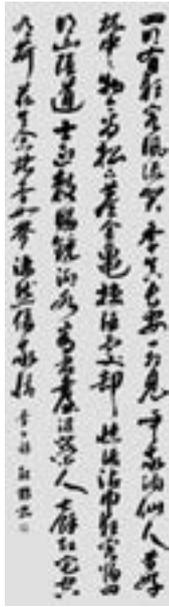
第一部 桜花賞 池 田 美 秀



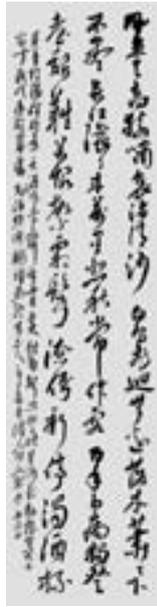
第一部 桜花賞 大 寄 露 光



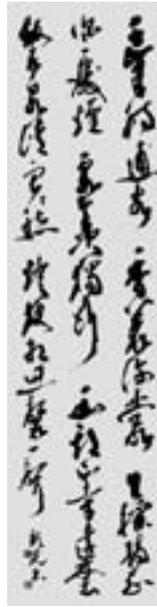
第一部 桜花賞 渡邊萌竹



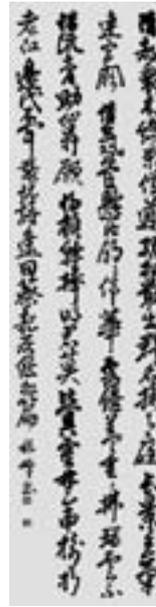
第一部 桜花賞 山口紅鶴



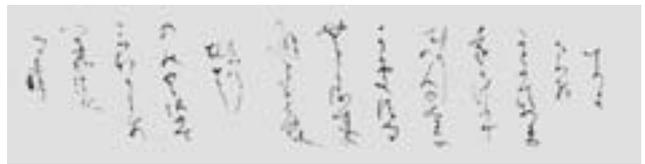
第一部 桜花賞 森川紫舟



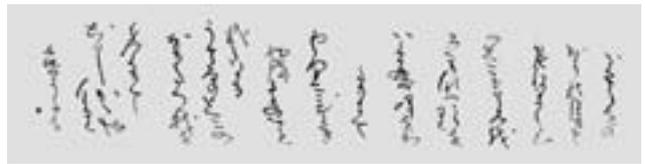
第一部 桜花賞 三輪彩光



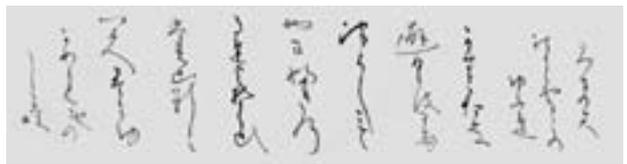
第一部 桜花賞 松田穂嬋



第二部 桜花賞 板倉恵子



第二部 桜花賞 榎原春子



第二部 桜花賞 宮口弘子



第二部 桜花賞 八木敬子



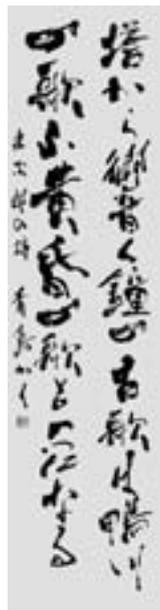
第二部 桜花賞 松居光子



第二部 桜花賞 杉浦悦子



第二部 桜花賞 宇佐美待月



第三部 桜花賞 伊藤青菫



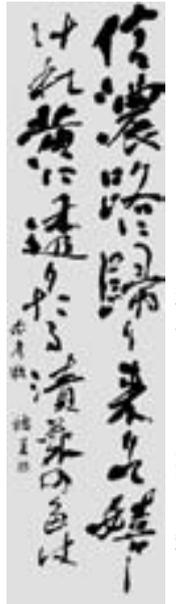
第三部 桜花賞 土川奈美



第三部 桜花賞 楳田春陽



第三部 桜花賞 三輪蘇生



第三部 桜花賞 志津野 穂夏



第三部 桜花賞 鈴木 祥苑



第三部 桜花賞 安田 春麗



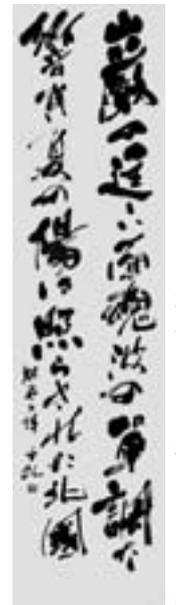
第三部 桜花賞 国松 真理



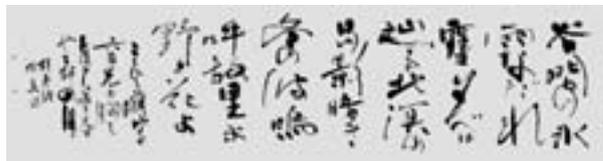
第三部 桜花賞 杉戸 神泉



第三部 桜花賞 台場 知香



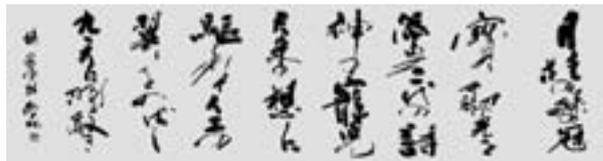
第三部 桜花賞 横地 亜紀



第三部 桜花賞 早川 扶美子



第四部 桜花賞 川 敬子



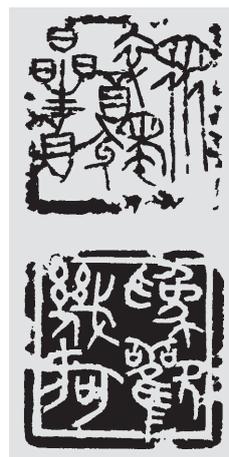
第三部 桜花賞 増田 紅葩



第四部 桜花賞 伊与田 京子



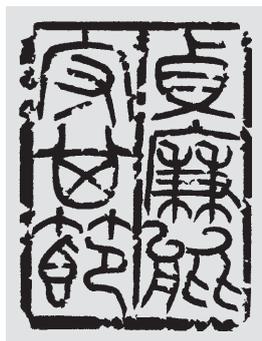
第四部 桜花賞 竹内 幸子



第五部 桜花賞 高島 濤翠



第五部 桜花賞 石原 雲木



第五部 桜花賞 半場 仁



第五部 桜花賞 豊田 亀道



第五部 桜花賞 佐野 麦静

中日賞・桜花賞作品評

第一部 (漢 字) 大池 青岑評

〈中日賞〉

○倉知 葉舟

墨色の变化あり、練度と切れのある筆線伸びやかに生きた作。

○青木 友華

行の流れよく、墨量十分の作。筆線もキレとスピード感あり。

○赤根 紫明

運筆雄大にして良寛はもとより懷素の風格あり。見ごたえ十分。

○阿部 牧香

墨量十分、重厚な線で字間行間の配字よく、最後まで緊張感のある作。

○猪飼 祥瑞

淡々とした運筆で、線に勢いあり。墨の潤濁に配慮した作。

○池田 美秀

行間明るく、字間の疎密の变化、運筆の抑揚とリズム感ある作。

○石泉 松風

スケールの大きい運筆で、スピード感と重量感がある作。

○石本 麗水

粘りある線筆。筆の動きよく、字幅の振幅を十分に表現した。

○出原 梅光

大胆な筆致で筆圧の強弱、潤濁の変化あり。見ていて雄大な気持ちになる。

○伊藤 桂川

粘りある筆線で、行間に配慮しリズムに乱れなし。縦への伸びに好感。

○位田 白峰

字幅の取り方を意識しながら作品を大きく見せた作。

○上田 麗秀

強く練度ある筆線と、たまたみかけるような大きな動きが見事な作。

○上松美香子

紙にしっかりと食い込んだ線で、鋭くキレがあり、爽快痛快な作。

○江川 幸甫

字形の変化を表現し、ゆつたりとした動きが作品全体を明るくしている。

○大河戸柳光

やわらかく大らかな筆致で、最後まで一貫した充実感ある作。

○大奇 露光

字幅を広く取り、行間に気を付けながら変化ある明るい作。

○大畑 麦川

暖色系の料紙に墨を乗せ、筆圧十分。構成もよい。

○片桐 瑤雪

墨量豊かに重厚な筆線に気負いなく、横画に充実感がある。

○加藤 大然

墨量、線に充実感あり。感性の高い表現となっている。

○兼岩 礼雪

字形に配慮し、品性がある。最後まで気力一貫した作。

○神田 彩星

線の強弱、間の取り方に配慮

し、一字一字を大切に書いた。○小西 美紀

行間美しく、縦への流れと一貫した呼吸でまとめた堂々たる作。

○子安 杏庭

呉昌碩の原帖をよくとらえ、墨量潤濁、全体構成がすばらしい。

○近藤 諏谷

六朝の方勢方筆を駆使し、墨量豊かに力みなぎる作。

○篠田 瑞芳

一貫した筆圧とスピード感あり。懐広く、運筆のキレがよい。

○島田 楓林

行が立ち、一字一字に丹念に墨量と線の強さをアピールしている。

○鈴木 夏龍

密度と練度ある筆線で、墨量十分。行間も美しい充実の作。

○瀧井 麗水

情緒あふれる字形で、面白さを感じさせる筆線が魅力的。

○武山 紫珪

運筆の呼吸とリズムよく、粘りある筆線で、温かさと躍動感あり。

○谷本 義仙

自由奔放な筆致は傳山の風格あり。スピード感十分、躍動感ある作。

○多和田華林

線に強さがあり、空間を巧みに生かし、全体の流れをつかんでいる。

○寺西 智鶴

整然と最後まで乱れなく一貫した呼吸あり。練度の高い作。

○内藤 春翠

柔和な筆線で、温かみを感じられ、墨色の变化にゆとりを

感じる。○猶井 紅風

充実した筆法はすばらしく、線の強弱変化が字に強さと勢いを出している。

○中川 瑞風

行間明るく、文字に勢いと抑揚をつけ、緊張感ある堂々の作。

○中辻 芳露

一字一字に重量感があり、おらかなで安定した堂々の作。

○西脇 和子

筆線の動きを大切にし、リズム感あり。全体の構成がすばらしい。

○野田 啓華

やわらかい筆線と大小変化の妙あり。呉昌碩の風格が感じられる作。

○深井 悠水

筆圧を強くかけ、線の強弱变化、文字の大小疎密の变化表現した。

○古川 貴子

情感豊かに潤濁の変化、文字大小の変化十分に表現した作。

○古川 梅香

線の密度と行間の明るさのコントラストが魅力の作。

○堀田 智洋

温かくおらかな筆線で、落ち着いた気分を感じさせる作。

○松居 玉華

運筆のリズムが一貫し、字間の疎密、行間の余白美しい作。

○松田 穂輝

筆力充実し、行の流れ潤濁ともによくまとまった仕上がりの作。

○三輪 彩光

勢いある筆線と行の流れを意識した大胆な筆致が魅力の作。

○森川 紫舟

運筆のスピード変化と伸びのある筆線で躍動美を感じる作。

○山口 紅鶴

行の流れと文字の大小変化を意識し、全体に統一感ある作。

○渡邊 萌竹

筆線が紙に食い込み、行の流れ墨色の变化ともに美しい。

第二部 (かな) 渡邊 笙鶴評

〈中日賞〉

○若杉 美香

深みのある澄んだ線質の魅力と墨量の変化を巧みに出した立体感がみごとな作品である。

〈桜花賞〉

○板倉 恵子

全体的に明かるく軽妙な雰囲気の中にも線の鋭さと墨線の深みを感じさせられる作品である。

○宇佐美待月

縦四行の大字がな作品。流れの内にとどまるところをいれて、全体として大らかに、たくましく表現された秀作。

○榎原 春子

潤筆線と渴筆線の変化が美しく、作品全体に厚みのある雄大な作風になっている。

○杉浦 悦子

古筆に精通したみごとな線の魅力と畳みかける構成美が効果的な作品である。

○松居 光子

熟練した艶のある線質で、上品な散らし書きが料紙とよくマッチした作品である。

○宮口 弘子

柔らかな温か味に満ちた線質とゆつたりした作品構成がみごとに調和した作品である。

○八木 敬子
 渋味のある枯れた線の魅力と墨量の多い表現を意図した山場づくりが成功したみごとな作品である。

第三部 (近代詩文) 黒田 玄夏評

〈中日賞〉

○牛場 智美

整然としたリズムが快く響く。大字の行は充分な間合いをとり、小字は凝縮という對比の妙にセンスが光る。

〈桜花賞〉

○伊藤 青鳶

上下動を伴った筆法が見事な立体感を表現。躍動から生まれた線質の多彩な変化が目を楽しませる。

○梶田 春陽

大胆さと入念さという制作の要素を併せて意図した作風は高く評価したい。大小潤濁に感覚の瑞々しさあり。

○国松 真理

暢達極まりなく実に気分の晴れやかさを感じる作。特に左ハライの伸びやかさは一等地を抜いて新鮮。

○志津野穂夏

重厚盤石、悠然と構えた造型と揺るぎない線質が持ち味。奇策に走らず堂々と勝負の安堵感を覚える。

○杉戸 神泉

軽快なテンポが次々に明るい白を残して詩情を謳いあげてゆく。線質に温か味溢れ親しみが湧いてくる。

○鈴木 祥苑

練れた線と安定感ある造型、漢字かなの調和にも余裕ある

技量のほどを見せる特筆すべき作風がいい。

○台場 知香

墨量を貯えた筆がしつとりと紙に乗り線に厚みをもたらせた。混えた渴筆の配分も程良くあつて響き合う。

○土川 奈美

盛りあがる程の重厚味にまず魅了される。これほどの墨量がありながら白の残し方が実に巧みな人だ。

○早川 扶美子

清冽な流れ、幽かな音をきかせて一気に豁間を下るの感あり。望むらくは絶景の見どころが幾つかあればと。

○増田 紅菖

小太鼓の隊列であろうか、思わず身を乗り出して眺める。軽快な旋律だ。一条乱れぬ足どりだ。楽しい書だ。

○三輪 蘇生

大作かと思わせる程のスケールに圧倒される。線の深さ、伸びやかさ、多彩な用筆など更に伸びる要素だ。

○安田 春麗

気取らず急がず一時一語を楽しむような書きぶりに書の美の原点を見る思いがする。その成果が浮沈の妙に。

○横地 亜紀

この作でまた一歩新しい境地を拓いた。墨量の盛りあげ方、字型の安定感と間合いの良さは次作の期待大。

第四部 (少字数) 横山 夕葉評

〈中日賞〉

○泉 好子

淡墨作品として、情緒的であり

ズムと滲みが静寂なまでに安定し、細部までゆきわたる、美しい作品です。

〈桜花賞〉

○石川 敬子

形、質共に用意周到な作品で、筆勢も強く、よく動き、力強い作品です。

○伊与田京子

規模が大きく、筆路明快でよく伸びている。一筆書きの安定した作品です。

○竹内 幸子

画数の多い字、最後まで気脈があり、迷いがなく貫通している。墨色も美しい作品です。

〈中日賞〉

○小池 理一

上部文字を密にし、下部、岸汀の二文字を疎に配した構成が自然体で良作。

〈桜花賞〉

○石原 雲木

小篆を基調にした白文印を辺縁の妙により、余白がより美しい良作。

○佐野 麦静

朱文、五字を配した作。「馬」の上部、辺縁が余白となり良作。

○高島 濤翠

西周鐘鼎文を刀痕を生かした力作。

○豊田 亀道

漢印を基調に刀法は浙派の効有り。

○半場 仁

長方形に朱文縦二行に六文字を配した良作。



若年 (15歳~21歳) 受賞者

その他の入賞者

一科

第一部 (漢字)

青木 春園 板倉 香淵
 大野 早加 岸 美智子
 木村 翠路 後藤 琴泉
 小林 雪晨 坂部 青嶂
 戸田 翠徑 中島 千里
 長谷川 華星 長谷川 有香
 堀 美洲 紅林 芳琳
 村瀬 悠 山田 清翠
 特選 相原 翠月 浅野 揺草
 阿知和 泰山 天野 廣衍
 井尾 琴流 石樽 玉瑤
 稲吉 邦子 岩崎 清風
 上山 翠芳 大鐘 智美未
 大城 紫萌 大野 彩
 大羽 虹鷲 遠座 白果
 海田 幸導 笠井 智子
 加藤 湖舟 上川 翠嶺
 上村 有記 加村 佑紀
 鬼頭 翠雪 木俣 紫邑
 久米 雪葉 小平 光彩
 小塚 松香 後藤 圭翠
 後藤 貴希 後藤 柳月
 小林 修堂 近藤 瑛月
 坂川 翠翹 佐藤 幸泉
 佐藤 紅蘭 佐藤 史織
 澤田 蓉風 志賀 紀子

清水 美苑 菅野 茜
 鈴木 誠人 関 春香
 曾根 精華 高取 翠揚
 竹内 雀邨 田崎 大秀
 田中 由美 谷 桂凜
 谷川 景仙 坪井 万里子
 戸田 冬峯 戸部 美扇
 長尾 珠泉 中神 紫熠
 中西 仲江 長縄 奏宇
 西原 希美 中村 晶光
 西村 貞香 野田 江泉
 服部 華谿 服部 文瑤
 林 華静 林 翠眉
 東山 栄華 人見 輝泉
 平野 翠彩 平野 桃泉
 福田 博芳 船橋 香乃
 松岡 蘭毫 松原 流恵
 松村 亮 三浦 愛彩美
 三須 和敬 宮尾 清峰
 村瀬 紫苑 柳田 理栄
 山口 如泉 山下 有道
 山本 祥仙 横山 翠蘭
 吉田 翠竹 脇田 遊汕
 青山 芳翰 阿部 翠祥
 荒川 昌龍 安藤 翠昂
 安藤 範香 飯塚 珠穂
 石井 豊泉 石川 玲翠
 石川 惠水 石川 玲華
 磯村 小園 市岡 敬華

市川 純慧 伊藤 春水 伊藤 紫鳳
 伊藤 春翠 伊藤 智瑛 伊藤 春水
 伊藤 清延 伊藤 翠柳 伊藤 智瑛
 稲田 清婉 今井 浩泉 今井 翠柳
 今枝 真弓 岩田 多賀子 上杉 多賀子
 岩田 有里 打田 健 打田 健
 内田 勢潭 内山 雅舟 内山 雅舟
 遠渡 季音 大岡 祥園 大岡 祥園
 大川 虹翠 大久保 真麗 大久保 真麗
 太田 祥風 大津 翠影 大津 翠影
 岡崎 由季 岡崎 奈美 岡崎 奈美
 小笠原 澄遠 小川 憐花 小川 憐花
 小川 秀苑 小川 麟峯 小川 麟峯
 奥野 鶴扇 奥村 翠峽 奥村 翠峽
 尾崎 涼舟 尾崎 涼舟 尾崎 涼舟
 長船 志保 長船 志保 長船 志保
 小澤 裕子 小澤 裕子 小澤 裕子
 寛 多恵子 寛 多恵子 寛 多恵子
 片岡 祥泉 片岡 祥泉 片岡 祥泉
 勝野 佳玉 勝野 佳玉 勝野 佳玉
 加藤 芳文 加藤 芳文 加藤 芳文
 金田 英硯 金田 英硯 金田 英硯
 加藤 芳司 加藤 芳司 加藤 芳司
 金森 柏泉 金森 柏泉 金森 柏泉
 壁谷 由美 壁谷 由美 壁谷 由美
 神谷 好泉 神谷 好泉 神谷 好泉
 荻谷 有美 荻谷 有美 荻谷 有美
 彦坂 幸 彦坂 幸 彦坂 幸
 福山 翠花 福山 翠花 福山 翠花
 藤木 由美子 藤木 由美子 藤木 由美子
 舟橋 緑楓 舟橋 緑楓 舟橋 緑楓
 星川 朝香 星川 朝香 星川 朝香
 堀場 水香 堀場 水香 堀場 水香
 牧野 清波 牧野 清波 牧野 清波
 松本 静鳳 松本 静鳳 松本 静鳳
 三木 湖舟 三木 湖舟 三木 湖舟
 右高 夏代 右高 夏代 右高 夏代
 水野 雅秀 水野 雅秀 水野 雅秀
 近藤 明彦 近藤 明彦 近藤 明彦
 酒井 照苑 酒井 照苑 酒井 照苑

佐藤 翠玉 佐藤 裕子 佐藤 裕子
 島田 香麗 島田 香麗 島田 香麗
 杉浦 秀水 杉浦 秀水 杉浦 秀水
 杉山 千鶴子 杉山 千鶴子 杉山 千鶴子
 鈴木 紫陽 鈴木 紫陽 鈴木 紫陽
 鈴木 晶行 鈴木 晶行 鈴木 晶行
 多賀井 菜奈 多賀井 菜奈 多賀井 菜奈
 滝本 柳烟 滝本 柳烟 滝本 柳烟
 田澤 扇華 田澤 扇華 田澤 扇華
 田中 絵三奈 田中 絵三奈 田中 絵三奈
 柘植 真浪 柘植 真浪 柘植 真浪
 遠山 翔雅 遠山 翔雅 遠山 翔雅
 友松 芳春 友松 芳春 友松 芳春
 中西 瑤花 中西 瑤花 中西 瑤花
 中村 鸞邑 中村 鸞邑 中村 鸞邑
 鳴川 翠月 鳴川 翠月 鳴川 翠月
 新村 成草 新村 成草 新村 成草
 西川 佳江 西川 佳江 西川 佳江
 布川 千鶴 布川 千鶴 布川 千鶴
 信安 寛美 信安 寛美 信安 寛美
 野呂 隆硯 野呂 隆硯 野呂 隆硯
 萩野 智司 萩野 智司 萩野 智司
 服部 政子 服部 政子 服部 政子
 畑中 紅雲 畑中 紅雲 畑中 紅雲
 馬場 文彩 馬場 文彩 馬場 文彩
 早川 幸 早川 幸 早川 幸
 坂野 幸 坂野 幸 坂野 幸
 彦坂 幸 彦坂 幸 彦坂 幸
 福山 翠花 福山 翠花 福山 翠花
 藤井 秀堂 藤井 秀堂 藤井 秀堂
 船橋 幽泉 船橋 幽泉 船橋 幽泉
 夫馬 恵舟 夫馬 恵舟 夫馬 恵舟
 堀 翠苑 堀 翠苑 堀 翠苑
 本多 蘭香 本多 蘭香 本多 蘭香
 松浦 昇水 松浦 昇水 松浦 昇水
 三浦 慎香 三浦 慎香 三浦 慎香
 右高 三郎 右高 三郎 右高 三郎
 水谷 君代 水谷 君代 水谷 君代
 森 富華 森 富華 森 富華
 森 麗雅 森 麗雅 森 麗雅



一科 第1部 当番審査員

秀

池田	池田	在藤	浅野	青山	渡邊	若松	横山	横井	湯浅	山路	山口	矢野	森井
真夕	夏爛	花昌	彩苑	和生	水香	翠泉	香雨	槐風	那津	静竹	光華	棠里	嶺月

池田	池田	井内	東	秋田	脇田	芳村	横田	湯川	山田	山口	山口	安田
緑翠	翠恵	溪舟	瑤琴	花泉	朝萌	清苑	杏歌	瞬光	映翠	雪華	勝司	彩霞

奥村	大野	浦野	鶴飼	植田	岩田	井本	稲本	伊藤	伊藤	井戸	市川	磯貝	石川
翠想	琴舟	由衣	澄景	華音	漣陽	翠萌	紅彩	秀嶺	汀華	瑞恵	友理	香雪	仙城

奥村	小川	江坂	梅村	鶴飼	上本	岩村	岩崎	今西	伊藤	伊藤	伊藤	一木	磯辺	石崎
陽鶴	翠蛾	虹風	香苑	春蕙	松翠	蹊月	翠風	香溪	桃苑	翠虹	鴻仁	香翠	花泉	恵秋



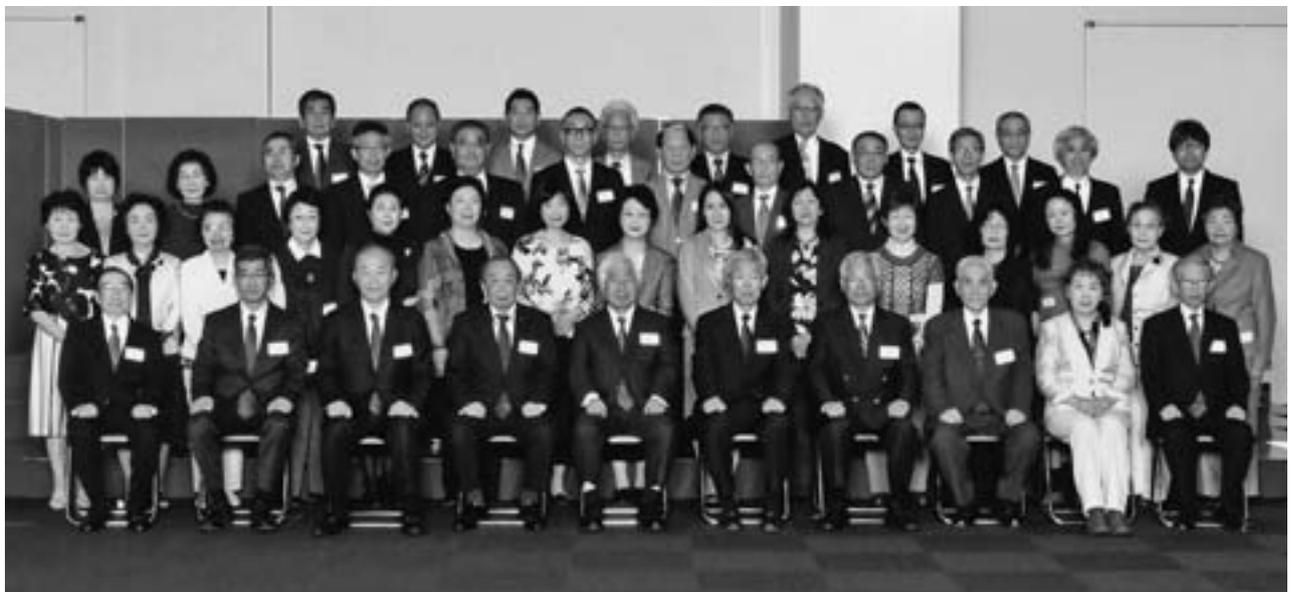
審査当日あいさつをされる理事長

長尾	遠山	坪井	棚橋	田中	竹中	滝川	高津	鈴木	鈴木	杉田	新宮	清水	柴田	澤田	佐藤	佐藤	櫻木	齊藤	後藤	小島	小嶋	古賀	鴻巣	畔柳	栗田	熊澤	久住	木下	鬼頭	川本	川村	川浦	加藤	加藤	加藤	香月	垣本
秀麗	正幸	揖溪	白蓉	恵綏	唱花	祥苑	径花	祥翠	寿星	樹石	緑園	啓子	伶玉	麗香	桃華	明美	愛弓	美流	智明	智明	竹苑	玉寶	真由美	玉兔	知子	萌翠	松湖	珠華	恵香	柑香	柚香	有紀奈	慶風	千冬	昭蘭	恵里	松風

長坂	永井	寺尾	棚橋	田仲	武山	竹内	田上	鈴木	鈴木	鈴木	杉浦	清水	清水	七野	佐橋	佐藤	酒向	榊原	近藤	後藤	小嶋	小崎	小浦	桑原	黒木	久米	久野	櫛田	鬼頭	北村	川本	川口	加藤	加藤	加藤	梶川
竹華	利樹	竹豊	雅穂	美結	藍	翠芳	明海	照英	香苑	芳子	美津子	愛苑	瑞夏	秀影	竹苑	美恵子	春蘭	玲翠	清麗	清麗	翠芳	陽香	祥雪	寛和	奈美	水聲	深水	恵翠	千鶴	翠蓉	美舟	芳枝	竹香	千溪	生子	涼花

吉成	横地	山田	山崎	山岡	安田	森田	森	三輪	三宅	源口	松元	松原	松浦	松井	牧	前越	本田	堀	舟橋	藤田	平松	日比野	久田	日栄	原田	林	早川	花山	羽多野	長谷川	能見	成瀬	中村	長野	中瀬	中島	長坂
香映	秀峯	青風	春枝	沙月	瞳	春泉	東雲	和泉	麻美	貴子	樹香	澄秋	早苗	悦子	奈緒美	秀鳳	緑風	秀鍊	隆峰	二朗	豊泉	昌泉	白蓮	耀山	尚志	林花	資子	劉壚	鳳声	啓練	伸芳	紅邑	輝泉	翠錦	彩空	麻衣	

米田	吉川	山本	山田	山口	山内	安井	森川	村上	三好	南谷	三沢	松本	松田	松井	増田	前野	本間	堀井	古橋	藤原	深谷	平松	肥田	久田	坂野	原	林	馬場	華井	秦	野村	西山	中村	長畑	中西	中島	中島
啓子	桃紅	双剣	翠波	麗子	麗花	彩花	峻翠	泉醉	劉生	巨輝	桃紅	紅楓	紫鵬	桃美	扇峰	以苑	鳴琴	翠月	紀風	芳龍	東翠	和子	景舟	光玉	幸子	香風	慈恵	桜華	春汀	青楓	夢佳	桃翠	清楓	晶聲	昭川	紅舟	



一科 第2部～第5部 当番審査員

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 松原 教雄 | 星 智子 | 藤井 紅萼 | 樋口 直美 | 原野 佳子 | 野瀬 裕子 | 内藤 赫子 | 梅野 春美 | 土屋 撰子 | 塚田 琴乃 | 多田 祐子 | 竹内 敏夫 | 鈴木 桃玲 | 後藤 真理 | 木村 祥光 | 鬼頭 信子 | 河合百々子 | 貝沼 修子 | 小川 裕子 | 大谷小百合 | 伊藤たつゑ | 石田 恵巳 | 天谷 結花 | 浅本 瞳 | 浅井 晨光 | 秀逸 | 渡辺 千紘 | 安岡 明信 | 水野 美舟 | 舟戸 裕貴 | 広瀬 光輝 | 彦坂 香邨 | 林 孝湖 | 成田 真衣 | 土居 雅子 | 寺澤 明珠 | 田那村真帆 | 高田 李華 | | | |
| 松原 友香 | 堀部 汐里 | 古田 寿子 | 平田 栖冬 | 樋口 薫仙 | 服部 麗泉 | 中川 莉枝 | 富田 武夫 | 寺澤 茂子 | 辻 由起 | 田中 夕穂 | 武川 桃徑 | 舌古 水蘭 | 小林 青華 | 小出 榮風 | 城殿 天祐 | 川澄 良子 | 神谷志奈子 | 奥村 双珠 | 小川 恵秀 | 大川祐嘉里 | 伊藤 清雅 | 池田 朔月 | 足立 彩華 | 浅井 尚風 | 磯貝みえ子 | 石原 宗久 | 准特選 | 藤田 香志 | 白石 智舟 | 井野 華水 | 彦坂 房代 | 林 富美子 | 林 春香 | 中谷 愛音 | 土井 秀栖 | 谷川由希子 | 田口ゆかり | | | |
| 山本 陽子 | 鈴木 清芳 | 篠田 仰信 | 国枝 晃治 | 長田 正嗣 | 榎本 翠峰 | 太田 累淪 | 第五部 (篆刻・刻字) | 吉兼 理樹 | 武藤 香紗 | 林 加奈子 | 西川 晴江 | 鈴木 千晴 | 北村 義弘 | 奥村 郁子 | 肆矢 惇恵 | 藤村 美穂 | 永見 沙香 | 正野 恭華 | 佐伯 恭華 | 磯貝みえ子 | 石原 宗久 | 柴田真由美 | 鈴木 圭 | 林 寿江 | 矢野 智美 | 山崎 白雲 | 横溝 憲吾 | 黒柳 真実 | 井野 華水 | 岡島 美紀 | 服部 光峰 | 矢藤 巧真 | 石原千砂子 | 小泉 路子 | 柴田真由美 | 鈴木 圭 | 林 寿江 | 矢野 智美 | 山田 玉蓉 | 吉田 茜湖 |

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 大石 窓雪 | 居波 優里 | 伊藤 光来 | 池末 碩秀 | 幾島 蘭溪 | 新井貴美子 | 安藤 望 | 井口 七海 | 伊藤 歌那 | 伊藤 稚子 | 白井 静泉 | 大嶽 旭華 | 山田 美鈴 | 村瀬 上氏 | 松岡 清 | 古田富美子 | 花井 麦雲 | 永田 乾石 | 高橋 洋 | 鈴木 清華 | 榊原 悠園 | 清田 東方 | 加藤 大輔 | 上田 祥水 | 伊澤美紀子 | 秀逸 | 山内 昂波 | 村瀬 幸一 | 松井理恵子 | 林田かほる | 高井 玉扇 | 榊原 有光 | 小泉 晴生 | 小泉 希 | 小林 有希 | 河合 邦雲 | 大嶋 良妍 | 池戸 愛登 | 青木 涼虹 | 淺野 政男 | 磯村 育治 | 加藤 比敏 | 川瀬 重幸 | 神山 彩華 | 小松 象神 | 沢田 綾香 | 中野 麦愛 | 増井 茂 | 宮下 宗豊 | 森 翠竹 | 石樽 雅舟 | 大嶋 敦己 | 加藤 忠之 | 小池 清子 | 鈴木 眞壽 | 鈴木 理恵子 | 帶刀 溪石 | 中村 紀久 | 菱川 武 | 前田 龍泉 | 宮部政代美 | 山田 貴子 | 若杉麻祐子 | 會田穂乃花 | 青木 心泉 | 秋田由希恵 | 浅野 友里 | 阿知和美里 | 新井 千晴 | 荒木 花蓮 | 安藤 和子 | 安福 優伽 | 伊神 薪水 | 池田 驚岳 | 石木 里奈 | 石原 映花 | 大野 艶友 | 片岡 木蘭 | 片岡 千琴 | 加藤 玲那 | 神谷 莉那 | 木村香代子 | 後藤 菜花 | 坂上 智美 | 佐藤 紫榮 | 塩澤 怜華 | 杉村 翠華 | 鈴木 彩日 | 鈴木 玲名 | 田口 澄徑 | 谷 利香 | 中野 海堂 | 長谷川積翠 | 濱田 梨沙 | 林 翠竹 | 平野 煌藍 | 松原 佐和 | 森島 千智 | 矢頭 鍊 | 山田 真如 | 山本 悠生 | 青井佑里香 | 秋田 夏美 | 秋元 花雲 | 味岡 華奈 | 阿部 陽香 | 荒川 暢秀 | 安藤 愛華 | 安福 公隆 | 家田 智美 | 生田 大雅 | 生駒 吉識 | 石塚 映彩 | 石原 萌葉 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|



二科 第2部～第5部 当番審査員



第 2 部 (かな) 審査風景

磯村 明子	板垣 海吾	鵜飼 玲舟	内山紗都子
板谷 覚子	市川 映舟	梅村 風凜	江上 麗泉
市原 雪華	伊藤 文野	種田 圭鳳	大河内奈那子
伊藤 佳苑	伊藤 景春	大島 景葉	大島未紗子
伊藤 悟	伊藤 秀英	太田 彩華	太田 華子
伊藤 舒榮	伊藤 貴昭	大竹 佑奈	大谷 蕙苑
伊藤 孝子	伊藤 信子	大谷はるか	大槻菜津子
伊藤舞依子	稲井 祥悟	大西 和枝	大村 瑞苑
稲積 梅山	井上 文佳	小笠原温孝	小笠原夢歩
今井 彩寧	今井 大地	岡村 圭祐	奥村 和
今枝奈々穂	岩尾亜衣子	奥村恵美子	尾寄 桐華
岩崎 竹影	岩月 清曉	小田 淳子	片岡 蘭泉
岩場 恵子	岩外 蛍花	片山 二菜	片山 玲華
岩本 麗泉	上野 里姿	加藤 佳華	加藤 研真
上村 光徳	鵜飼 水影	加藤 雄遠	加藤 蘭宇

加藤 里菜	加藤 嶺花	世古 瑠菜	前川紗於里
神谷 智子	神谷 麗華	祖父江穂花	松尾亮太郎
龜谷 澄香	柄澤 信一	高木 悠花	松岡 央真
狩生 芳泉	河合 省明	高島 伸晃	松本 未央
川瀬 実咲	川添 陽泉	高田 秀苑	水野 白映
川端 祥平	川原 陽苑	高橋 美琴	水野 有梨
河村 紗季	神崎 紫陽	高松 弘道	溝口 実祐
北原 怜奈	木全 雪英	多田 紫	峰 蒼翠
木村 月香	木村 秋波	田中しおり	宮澤美和子
草深 志乃	草深 麗玉	田村奈津未	村上 澄暎
榊田 万葉	國枝佑衣子	東海 眉虹	村上 紫江
國島 雪江	久野 航暉	戸本 好美	村瀬 貴水
久野 生麗	久保田勘太郎	鳥本 喜敬	村橋 早紀
熊切 純暇	倉橋 澄雨	内藤 蒼月	村松 裕子
栗本 清芳	栗山 博美	長坂 結衣	中川 実優
黒澤百合加	河和 節子	中島 華楓	中島 里奈
小木曾美空	小酒井彩花	永田 朝照	中瀬 光舟
小嶋日向子	越山 和子	長縄みさき	中根 清逕
子谷 宗右	後藤 梢月	中根 冬泉	中野 和陽
後藤 千秋	小林 亜也	中村 恭香	安田 真夕
小林 鶴嬰	小林 圭翠	中村 晴重	安田 由琳
小林 瑤華	小宮山 慧	新川 瑞貴	山口 翠瑩
小山 香音	近藤 香月	丹羽 錦龍	山下 華月
近藤 宏樹	佐伯 青翠	野寄 紅雨	山田 華苑
酒井 雛	坂崎友希乃	長谷部昭美	山田 咲
佐久間汀翠	櫻井菜奈花	服部 和子	山田 由香
桜井 柚花	佐古 智蕙	服部 麻美子	湯浅はるか
迫中ゆかり	笹本 菜月	花井 志翠	山田 斐子
佐藤貴美代	佐藤 彩柳	濱野 和江	吉川里緒奈
佐藤 青耀	佐野 小虹	林 里奈	吉津希代香
佐野 清華	佐野 真友香	樋口 沙耶	鷺野 春翠
澤田 爽翠	佐橋 南美	平岡 龍翠	渡邊 照花
清水 虹陽	下堂蘭麻友	平野 城山	渡邊 智祥
社本 真依	白井 孝心	福井 菜月	渡邊 康子
白井 美翠	須賀 桃紅	藤田 菁華	藁科 綾花
杉山壽万子	鈴木 瞳	堀田 真里	佳作 優
鈴木 美香	関島 鶯舟	堀田 真里	荒井 游舟

石井 夏楓	石川 彩香	石川 栄利子
石川 秀徳	石川 李舟	石川 香蘭
五十川朱翠	居初 江陵	出原 香蘭
井出 陽子	伊藤 華映	伊藤 紫暁
伊藤 圭華	伊藤 柳川	井上 亜耶
伊藤 美雪	今村 水奏	井上 重耶
今村 美咲	岩田 純子	今村 水奏
岩田 直樹	上田 珠鳳	宇佐美清雅
上田 清楓	遠渡 万琳	大池 那由
遠渡 万琳	大島 慶玊	大嶋 大夢
大島 慶玊	太田三恵子	大高 理沙
大谷 梅里	岡崎 真理	小笠原 駿
小笠原 純	小笠原 唯	小笠原 唯
岡下 萌芽	奥野沙津希	奥村 彩乃
奥野沙津希	奥村 文子	小栗 栄雅
奥村 文子	小田 哲廣	各務 香扇
片岡 洗	片野 勝斗	片野 勝斗
勝野 楓太	加藤 綾華	加藤 綾華
加藤 吟香	加藤 恵大	加藤 恵大
加藤 小百合	加藤 紫芳	加藤 紫芳
加藤 清苑	加藤 千佳	加藤 千佳
加藤 俊光	門松 浩子	門松 浩子
加藤 俊光	鎌倉 緑翠	鎌倉 緑翠
加藤 詩奈	神谷 美艸	神谷 美艸
上手菜々美	唐橋 蘭月	河合 梗香
唐橋 蘭月	河合 志和	河合 志和
河合 志和	川瀬 鉦子	川瀬 鉦子
神戸 笙詩	木里 悠乃	木里 悠乃
木里 悠乃	木里 豪志	木里 豪志
木里 豪志	木下 知美	木下 知美
熊崎 千佳	熊崎 千佳	熊崎 千佳
熊崎 千佳	桑原 一真	桑原 一真
桑原 一真	小井土裕子	小井土裕子
小井土裕子	幸村 玉霽	幸村 玉霽

鈴木 愛累	杉本 和代	菅谷 明里	清水 美子	宍戸 春月	里中 紅華	佐藤 清峯	佐々木汀安	坂元 恵	榊原 冬華	齋藤 光赤	近藤 和子	小林 茉永	後藤 美月	後藤 玉潤	小島 亜耶
鈴木 海星	杉本 恵情	杉田 花奈	社本 信夫	篠崎 優歩	澤木 正恵	佐藤 朱美	佐藤 星恵	酒向 美峰	榊原 梨月	齋藤 美月	近藤 久美子	小林 道子	後藤 美月	五島 風花	小寺 清景
土井美沙季	寺尾帆乃香	鶴見 珀翠	辻村 紗希	谷岡 千信	田中 千栞	田中 菁瓊	只野葉留華	武田 佳風	田口 静邨	高橋 慶子	大門 雅泉	住山真奈美	鈴木 芽依	鈴木 康平	鈴木 佳奈
遠山美陽子	寺島 明子	寺尾 縫香	辻村 利佳	津坂 もえ	田中 清蘭	田中 麻美	竹村 藍水	竹下三七子	高森 健次	高橋 明希	世古麻伊亜	角田 結唱	鈴木 静香	鈴木 花菜	戸崎しょう子
橋口 紅葉	野村 茉那	野村 香泉	野田ますみ	丹羽 白桜	西岡 美穂	成田 恵翠	中村 紅苑	永田 るみ	長瀬 輝雪	中島 実希	中川真佐子	長江 美穂	富田 朝煙	富田 霞汀	富田 茄津紗
長谷川小夏	野村 実由	野村 繁子	野々川翠扇	丹羽 瞳	西垣 茉莉	成田 紅翠	中村智恵子	長野 秋蘭	永田 詠翠	中嶋 玉陽	長坂 明里	中川健士郎	豊田 霞汀	豊田 霞汀	豊田 茄津紗



第 3 部 (近代詩文) 審査風景

吉村 巖	吉田 等	山田 祥子	山田 佳穂	山下 綾乃	山内 清華	安井 伽織	森川 諒子	毛利麻里菜	村松 慎梧	村田 雪心	村上 光瑤	宮澤 真椰	溝口安左江	松林恵里奈	松田八重子	松岡 小加	牧野 美香	牧野 秋陽	本間 淳泉	堀田 厚友	本多 諒子	舟橋 風苑	藤田 愛乃	福田 彩乃	深谷 美庵	平原 己夢	平岩 清峰	日比野秀花	日榮 佳月	林 優衣	濱田 千唯	羽場 美咲	花井 鹿川	服部 峻典	羽田野雅扇	長谷川清風
若松 佳奈	吉永 明美	山之内春洋	山田 詩文	山口 彩加	山口 典子	矢野 里桜	森下 聖子	森 香織	室賀 芳艶	村橋 真帆	村上 庸子	宮村 桃子	溝口安左江	松林恵里奈	松田 輝美	松岡 沙也	牧野 汀蘭	前野 秋豊	本間賀世枝	本田 春登	古川 博崇	舟橋 美香	藤田 朱音	深谷祐加里	深谷紗央里	平子めぐみ	日比野未実	肥後 朋夏	伴野 優里	早川真理子	馬場 桃連	花井 春華	服部 美樹	八田 節子	長谷川真夕	
中林 則子	田本 尚子	武内 美幸	杉浦 雅子	佐藤 美泉	小林 明美	河野 雅美	尾関小夕里	宇都野美代子	石黒 節子	横井多恵子	安井 恵	水野 葉子	水野 孝映	三浦 節子	増井 希	平岡美友紀	幅 早苗	富田 順子	鈴木 和子	柴田 道子	岸 美木子	小川 祥翠	宇野 央子	犬飼 昭子	稲村 洋春	飯田 樂舟	青山 千峯	藤社 葉子	河合 裕子	伊藤 雅子	伊藤 雅子	馬場 景子	渡邊 香扇	渡邊 岬		
久保さえ香	木田 栄子	川端 千尋	加藤 千秋	加藤 聖	梶田 夕貴	小野 友香	織田 知里	小川 真由	小川 薫花	岡村実花子	岡田 真奈	大重ころ	今井 彩乃	井浪 茉奈	伊藤 美紅	石黒 萌香	足立 麻緒	渡辺 宜代	本田美智代	永井 睡蓮	武市 佳峰	小島 徹	河内 裕泉	梶田 汀雨	伊藤 雛子	石川 桃露	明利 愛	藤田 浩子	高木友美子	加藤 玉華	横山 孝美	水野 直子	平林津賀子	馬場 景子		
窪田 真子	木野瀬陽光	神戸 香穂	川口 芳雲	加藤 敦美	糟谷 永子	貝谷 溪仙	落合 輝	小栗 礼登	小川 真央	岡本 裕鼎	岡村 仁清	岡田 花音	梅原 慎人	岩崎 由美	磯野 玲泉	石川裕里加	守山木乃芽	藤井 溪雨	鶴口 夏菜	下村 佳風	桐山 彩華	神村 啓江	奥山 由紀	井出 翠風	安保 育子	土方 浩子	高木友美子	加藤 玉華	横山 孝美	水野 直子	平林津賀子	矢田 悦代	箕浦 和子	牧田 恵子	濱田 清華	

第二部 (かな)
二科賞
伊藤 雅子
河合 裕子
藤社 葉子

第三部 (近代詩文)
二科賞
明利 愛
石川 桃露
伊藤 雛子

遠松 田村 田島 高橋 高橋 高木 瀬邊 鈴木 鈴木 清水 澤木 佐藤 笹井 濃沼 熊谷
 治 華英 唯 麗水 遙菜 夏楠 風馬 智子 華歩子 麻緒 雅人 健斗 榮春 紀恵 涉
 遠山 塚原 田中 竹中 高橋 高橋 曾我 隅田 鈴木 杉本 柴田 澤井 佐藤 後藤 桑山
 詩乃 紫希 杏果 満理奈 優歌 稔充 幹雄 玉枝 環翠 本賢士朗 登志枝 純子 朱美 煌雪 有俊
 美馬 三浦 松井 古田 藤田 福島 福井 平田 林 林 長谷川 野田 成瀬 長濱 富田
 裕美 由美子 雲海 輝美 真理 彩子 美葵 明風 文香 溪舟 隆則 柚奈 三鈴 光里 奈緒
 森 水谷 松井 前田 船橋 福田 福川 深見 久田 林 長谷川 羽飼 野田 那須 長野
 清子 静香 香澄 裕子 明日香 梨乃 翠 愛 瑞恵 紅甫 千紘 有加 結愛 史織



第 4 部 (少字数) 審査風景

戸嶋 土井 筒井 田中 滝川 高井 鈴木 鈴木 鈴木 柴田 澤山 佐藤 坂本 今野 小森 栗本 久保田 木全 河村 川原 加藤 片山 梶里 岡村 大橋 大竹 岩間 今枝 猪野 稲垣 安藤 森下
 欣子 清香 あゆみ 香帆 帆南 舞衣 麻友 志織 和代 麻結 光琳 祐也 麗菜 成美 一輝 真希 香穂 雪華 陽水 恵子 由記 知恵 里沙 延子 紅邨 未祐 早紀 里帆 三枝子 綾 秀苑 景斗
 富田 遠山 坪山 土屋 但馬 高木 諏訪 鈴木 鈴木 菅原 柴崎 佐藤 佐藤 酒井 古家 越川 倉知 國武 岸川 河邊 加藤 加藤 柏山 甲斐 岡野 大谷 植村 井本 今枝 犬飼 安藤 守山
 啓 詩織 満理 貞峰 日菜子 賀代 翠鳳 木ふゆ香 玉蘭 佳月 靖子 月華 彩加 弥生 瑞江 桃子 実里 天翠 奈扶美 容子 志 瑞希 愛佑香 蘭榮 俊太 千陽 彩月 昭亭 芽生
 鳥居 中野 野村 橋本 福岡 藤井 古市 細川 松井 三枝 村田 安井 山中 和田 和 蟹江 日高 新井 板倉 内田 北澤 佐野 中島 長谷川 等 寶満 安江 浅井 加藤 川本 高木 田村 都築 野村 日比野
 壯瑠 ひかる 恵里 華水 由里子 彩雨 朱音 厚子 彩華 愛実 涼奈 包子 清麗 ひまわり 洋子 節代 新井 里美 恵 真季 叶子 春燈 祥子 綾雪 祥子 菜美子 静子 侑愛 由紀 紗子 祐人 健介 妃佳留 紅霞 長江 西村 野村 坂みゆき 福田 隆太 藤澤 朱里 古田 智哉 堀部 よしこ 松島 一子 宮本 幸子 森田 貴斗 山田 桃子 横山 秀翠 渡邊 柳泉 和代 柘植 登世 豊美 愛李 神村 杏名のり 永江 佳子 中橋 美恵子 早川 尚美 平井 祐里子 堀内 緑 矢藤 千尋 大澤 佐知子 加藤 友子 鈴木 幸枝 高村 笑代 都築 強介 中島 玲子 日比野 弘心 皆川 光 山本 種子 山本 康二 室 静代 柳原 雅龍 渡邊 紗智子 伊藤 迅亮 今井 徳弥 加藤 誠 岡 大輝 杉村 倭 須田 彩華 田中 澄子 藤井 苔山 伊藤 清一 榎並 勝彦 加藤 清城 河合 莊次 鈴木 乘嵐 高松 凜 長谷川 里美

佳 作

第四部 (少字数) 奨励賞 二科賞

第五部 (篆刻・刻字) 奨励賞 二科賞

佳 作



第 5 部 (篆刻・刻字) 審査風景

第六十六回中日書道展
当 番 審 査 員

特別賞選考委員 (二二名)

(二科審査員・依囑・無鑑査作品) (順不同)

樽本樹邨 安藤滴夏 黒田玄夏 後藤秀園 黒野清宇 黒野汀鴛 中島藍川 平松紫雲 松永清石 岡野亭石 工藤俊朴 波切童州 武山翠屋

一科審査員
第一部 (漢字) (四九名)

天野白雲 石原嶺香 伊藤曉嶺 伊藤静雅 岩田潤流 上大賦草 大田青岑 大森香鶴 杉原紫明 杉山清洲 武山瓊香 土屋小川 鳥居竹泉 中野玉英 中野居泉 林村竹星 平松紫童 磯谷上桃 磯谷上李 伊藤吟雪 伊藤藤遊 岩永大抱 上松早苗 大田仙遊 河原彩雲 中島龍溪 水谷海越 鎌倉彩風 平田蘭石

第二部 (かな) (二二名)

横井宏軒 山際雲峰 森隆城 元祐秀蘭 松下英風 市川恵一 北村光苑 清水春蘭 高根桂祥 林玲玉 村瀬俊彦 石田雙碩 大島緑水 川口雄峰 後藤啓太 原田凍谷 吉村和子 安達柏亭 河原彩雲 中島龍溪 水谷海越 第五部 (篆刻・刻字) (三名) 日比野妃扇

第四部 (少字数) (八名)

吉村和子 原田凍谷 後藤啓太 川口雄峰 大島緑水 石田雙碩 伊藤藤華 加藤芳華 武本赫汀 川内敏城 吉田清城 安達柏亭 河原彩雲 中島龍溪 水谷海越 鎌倉彩風 平田蘭石

二科審査員
第一部 (漢字) (五〇名)

石原嶺香 青山高陽 石原高陽 石原高陽 市川清恵 遠藤真翠 大鹿珠翠 岡田惠香 奥野望香 勝海芝洋 河内飛園 工藤茜邑 窪田稲華

第二部 (かな) (三名)

森代泉峯 三雄峯 松浦瑞月 古市晴庭 深谷恵庭 平丸祥苑 日江芝香 長谷川華香 長屋天虹 富田華妍 坪井濤華 谷口瑠苑 高橋華堂 小林玉庭 小橋華庭 高橋華堂 高橋華堂

第三部 (近代詩文) (二七名)

松井麗光 松西笙月 中保峯子 神保峯子 志村舟泉 加藤博華 足立麗華 森代泉峯 三雄峯 松浦瑞月 古市晴庭 深谷恵庭 平丸祥苑 日江芝香 長谷川華香 長屋天虹 富田華妍 坪井濤華 谷口瑠苑 高橋華堂 小林玉庭 小橋華庭 高橋華堂

第四部 (少字数) (六名)

朝倉桃香 日下部みゆき 竹内紫燕 第五部 (篆刻・刻字) (四名) 三輪浦盈夫 杉浦瑠鈴 岡田麗嶽 花村秀嶽

第五部 (篆刻・刻字) (四名)

松浦瑞月 古市晴庭 深谷恵庭 平丸祥苑 日江芝香 長谷川華香 長屋天虹 富田華妍 坪井濤華 谷口瑠苑 高橋華堂 小林玉庭 小橋華庭 高橋華堂

審 査 部

○部長 関根玉振

○副部長 松永清石

(一部) 大池青岑

(二部) 渡邊笙鶴

(三部) 黒田玄夏

(四部) 横山夕葉

(五部) 平田石

○主任 上小倉積山

(一部・二科) 川崎尚麗

(二部・二科) 小島瑞柳

(一部・二科) 天野白雲

(二部・二科) 伊藤仙遊

(一部・二科) 工藤俊朴

(二部・二科) 横井宏軒

(一部・二科) 村上俊彦

(二部・二科) 村瀬雅月

(一部・二科) 山本翠峰

(二部・二科) 佐野緑水

(一部・二科) 大島童州

(二部・二科) 波切童州

(一部・二科) 水谷童州

(二部・二科) 鈴木海越

(一部・二科) 磯貝立齋

(二部・二科) 磯貝立齋

(一部・二科) 磯貝立齋

協 賛 会 員 一 覧

浅井梧竹堂	452-0823 名古屋市西区あし原町68-1	052-504-2703	(有) 高 誠 堂	440-0804 豊橋市呉服町44	0532-52-5514
(株) 荒川印刷	460-0012 名古屋市中区千代田2-16-38	052-262-1006	光 文 堂 (株)	461-0005 名古屋市東区東桜1-3-28	052-961-6866
石黒五雲堂	453-0834 名古屋市中村区豊国通4-46	052-412-7862	小松表具店	485-0831 小牧市東2-544	0568-75-0281
(株) 一 休 園	731-4221 広島県安芸郡熊野町出来庭2-2-44	082-854-0019	(株) サンライズ	468-0002 名古屋市天白区焼山2-1207 メゾンA-3 103号	052-918-2427
伊藤大林堂	465-0004 名古屋市名東区香南1-507 長谷川コーポ1F	052-776-1881	(株) 柴田紙店	491-0859 一宮市本町3-9-18	0586-72-2001
印刷屋九二八(株)	497-0011 あま市七宝町安松13-9-1	052-443-1190	(有) 真 清 社	460-0007 名古屋市中区新栄1-47-5	052-241-8085
ウエスティン ナゴヤキャッスル	451-0034 名古屋市西区樋の口町3-19	052-521-2121	(有) 新 泉 堂	462-0006 名古屋市北区若鶴町344-1	052-901-0514
ウサミ印刷(株)	451-0066 名古屋市西区児玉1-10-7	052-522-2361	(株) 青 雲 堂	446-0008 安城市今本町3-1-15	0566-98-2233
永 楽 堂	445-0854 西尾市永楽町4-10	0563-54-2053	(株) 青 柳 堂	460-0008 名古屋市中区栄4-1-8 中区役所ビル1F	052-259-0313
(株) 應 天 堂	501-1172 岐阜市下鶴飼1468	058-239-5200	創 源 工 房	458-0034 名古屋市緑区若田3-106	052-629-5035
(有) 岡本頌文堂	510-0081 三重県四日市市北町3-4	059-352-6010	(有) 莊 文 堂	478-0017 知多市新知宝泉坊30-1	0562-55-0517
オフィスイズ	511-0243 三重県員弁郡東員町穴太1248-3	0594-76-3976	(株) 大 玄 堂	500-8289 岐阜市須賀1-8-25	058-271-2662
魁 盛 堂 (株)	451-0063 名古屋市西区押切2-2-13	052-521-3211	大同印刷(株)	501-6241 羽島市竹鼻町3214	0583-92-2345
開明株式会社	336-0931 さいたま市緑区原山2-22-20	048-882-1091	中電不動産(株)	460-0008 名古屋市中区栄2-2-5 電気文化会館	052-204-1383
加藤長寿堂	453-0801 名古屋市中村区太閤1-16-23	052-452-4751	(株) 長楽斎筆舗	460-0007 名古屋市中区新栄3-18-24	052-263-4554
(有) 伽 藍	460-0011 名古屋市中区大須3-8-10	052-242-7741	名古屋キョー和	460-0008 名古屋市中区栄4-2-10 小浅ビル2F	052-263-9401
(株) 川口春霞堂	497-0012 あま市七宝町下田四反割2	052-444-8024	名古屋ホウコドウ	462-0828 名古屋市北区東水切町2-28-8	052-915-1798
(有) 菊屋商店	460-0007 名古屋市中区新栄2-1-46	052-241-1145	西川堂森表具店	491-0859 一宮市本町4-23-11	0586-72-3629
(有) 吸 月 堂	462-0844 名古屋市北区清水2-2-2	052-931-6948	美 創 堂	486-0831 春日井市ことぶき町8-1	0568-81-9236
(株) 玉 蘭 堂	150-0002 東京都渋谷区渋谷1-12-11 渋谷百瀬ビル5F	03-3499-4886	平野筆墨堂(株)	463-0021 名古屋市守山区大森1-2701	052-798-6651
(株) 金 工 堂	460-0003 名古屋市中区錦3-16-22	052-961-0151	(株) 墨 運 堂	630-8043 奈良市六条1-5-35	0742-52-0310
金陽堂表具店	471-0076 豊田市久保町3-27-1	0565-32-0863	松 屋 紙 店	475-0866 半田市清水北町63	0569-21-2572
(株) 呉 竹	630-8670 奈良県奈良市南京終町7-576	0742-50-2050			

中 日 書 道 展 事 務 局 業 務

担当部	作 業	担当部	作 業	
1 総務部	遺作出品依頼	10 渉外宣伝部	後援・共催申請 ポスター・案内状作成 出品要項等発送(他部とも連携) 新聞広告原稿	
2 庶務部	審査員等辞令交付 審査依頼 来賓招待		11 記録統計部	写真撮影・記録(会場風景など) 審査員写真撮影 受賞作品撮影 受賞者写真撮影
	3 第1・第2企画部			特別展等
4 経理部	審査時昼食手配 展覧会関係経理	13 厚生部		祝賀会
5 第1・第2会員部	各部補助		14 第1・第2 IT部	書類搬入集計 地域版掲載データ作成 入賞作品CD-ROM等作成 展覧会データ作成
6 第1・第2事業部	展覧会要項・事務分掌・出品票等作成 中日展運営委員会 審査会・展覧会会場使用打ち合せ・ 次年度申し込み 審査会・展覧会会場設営 (展示パネル・看板等) 中日展反省会 その他展覧会関係作業			
	7 研究部	各部補助		
	8 教育部	各部補助		
	9 褒賞部	賞品賞状準備・揮毫・袋詰 授賞式		
事務分掌記載部業務				
書類搬入整理		入賞通知 入賞目録作成		

第六十六回 中日書道展を終えて

第一事業部長 伊藤 仙游

第六十六回中日書道展は、あいちトリエンナーレの影響で愛知県美術館の展示室が二部屋減となり、従来の市民ギャラリー栄に加えて電気文化会館五階東西ギャラリーを使用、役員展が三会場を使用し開催される事になりました。大変な混乱が予想されましたが、協賛会員の皆様、主任、委員の皆様のご協力により、滞りなく開催することが出来ました。この場をお借りして心から御礼申し上げます。毎年中日書道展が盛大に開催できますのも、各指導者の先生方はじめ、常に御協力下さる中日書道会の皆様のお陰と感謝申し上げます。

《書類搬入、裏打作品搬入》

四月十五日の書類搬入、五月六日の裏打作品搬入ともに、協賛会員の皆様・委員の先生の手慣れた作業により、三千点余りの仕分け作業がトラブル無く、順調に終了する事が出来ました。

《二科審査・一科審査・特別賞選考》

二科審査・一科審査・特別賞選考共に、会派を超えて集う中部日本書道会の理念そのままに、厳正かつ公平な姿勢が貫かれておりました。

《名古屋市民ギャラリー栄》

本年度は一部（漢字）の無鑑査会員作品（中日賞を除く）、桜花賞を含む約三百点の

作品が陳列されました。来場された方々はより良い作品をと練磨される、無鑑査会員の精気漲る作品に圧倒されておられる様でした。

《電気文化会館五階東西ギャラリー》

三年ごとに使用の本会場には、二部（五部（かな）篆刻・刻字）の無鑑査作品（中日賞を除く）、桜花賞を含む、バラエティー豊かな約二百点余りの作品が陳列され、見応えのある会場となりました。

《愛知県美術館ギャラリー》

中日書道会の中核を担う役員の作品約千七百点（一部（五部）無鑑査を除く・中日賞を含む）が集結する本会場は、日本及び中部の書壇を代表する作家や、今後活躍が期待される中堅作家の作品など注目が多く、来場された書道愛好家の方々も感嘆の声を上げておられました。また本年は米寿を迎えられた会員の作品を特別陳列とし、授賞式の祝賀懇談会でもご紹介し大変好評でした。

この市ギアラ・電気文化会館・県美の役員展三会場で、七千六百名余の皆様にご来場いただきました。

《名古屋博物館三階ギャラリー》

一科展・六月十四日～十九日は九八七点の展示（昨年比四五点減）入場者二、二一

八名、十六平方尺以内の大きな作品で、上位入賞者から入選まで全作品が陳列されました。出品者本人だけで無くご家族、友人など大勢の方において頂き、書に親しむ機会を設けて頂きました。

二科展・六月二十一日～二十六日は一、二一七点の展示（昨年比七〇点減）入場者二、三三二名でした。一科・二科合計で昨年比一一五点の減は大変残念ですが、二科では昨年同様に約五百名が若年層（十五歳～二十一歳）で二科賞受賞者も多くあり、今後更にご研鑽を積まれんことを、また中部日本書道会を支える人材に育って頂けることを心からお願ひ申し上げます。

《第六十六回中日書道展反省会》

本格的な夏の到来を感じさせる七月十八日（日）名鉄グランドホテル十一階柏の間に於いて午後五時半より、第六十六回中日書道展反省会が開催されました。毎年中日書道展終了後、次年度に向けてそれぞれ反省事項をご提出頂き、（企画委員会でも討議いたしますが）より多くの皆様のご意見、ご討議を頂くために開催しております。

本年度は樽本樹郎名誉会長代行、安藤滴水、鬼頭翔雲両名誉副会長のご臨席を賜り、審査部主任以上・各部副部長以上・協賛会員の皆様、計五〇名にお集まり頂く事が出来ました。

副理事長兼事務局局長関根玉振先生の進行により開会、理事長伊藤昌石先生より「第六十六回中日書道展は、皆様のご協力により無事終了する事が出来ました。心より感謝申し上げます。今年度の反省事項はこ

に上げられた事ばかりでは無いとは思いますが、細かなことだけでなく今後の中日書道展にとって重要な事などお考え頂ければ幸いです。」旨のご挨拶を頂きました。

その後伊藤仙游第一事業部長より反省事項の説明があり、審査結果の誤入力、審査日の開始時間、総会・授賞式の開始時間など検討事項はあるが、本年度は昨年より比較的スムーズに進んだ旨の報告がありました。

この後質疑応答に入り名誉副会長安藤滴水先生より「今から十年ほど前、無鑑査より一科・二科の作品数が七百～七百五十点ほど多かったが、今回展では無鑑査と一科・二科が同じ程度の数になっている。今後を考えると、一科・二科の出品数を増加させる方策を検討する必要がある。」旨のご発言がありました。少子化、趣味の多様化など不利な条件下ですが、全員で取り組むべき課題であると思われれます。

その後小島瑞柳厚生部長の進行により懇談会へ進み、鬼頭翔雲名誉副会長から「第六十六回展では皆様大変お世話になり有難う御座いました。今後更に出品者が増えるよう全員で頑張りましょう」と、ご挨拶と乾杯のご発声を頂き懇談会となりました。次第に和やかな雰囲気になり、和気藹藹の内に楽しい時間も過ぎ閉会となりました。

第六十六回中日書道展にご協力頂き本場に有難う御座いました。今後一科・二科の出品者が増えるようご協力をお願いいたします。

平成二十八年度 第一回理事会 総 会

五月十五日(日)
六月十二日(日)

於 本 部
於 ウエステインナゴヤキャッスル

庶務部長 天野 白雲

第一回理事会開催

平成二十八年度総会開催

本年度第一回理事会が去る五月十五日に開催されました。理事二十七名の出席のもと、伊藤理事長の挨拶により始まり、以下に示しました二十八年度総会提出議案について審議されました。

今回は、新役員の創設、役員の報酬の改定、年会費の変更など重要議題が上程され、出席理事の終始熱心でかつ慎重な審議により、すべて原案通り承認されました。

当日の議案は以下の通りです。

第一号議案

平成二十八年度総会提出議案について

- (1) 平成二十七年事業報告書の承認に関する件
- (2) 平成二十七年収支決算書の承認に関する件
- (3) 財産目録の承認に関する件
- (4) 定款ならびに諸規定の改正に関する件

第二号議案

平成二十八年度総会の日時及び場所並びに目的である事項の承認に関する件

第三号議案

その他



第一回理事会 本部にて



総 会

第4号議案

定款および諸規定の改正に関する件
(要点のみ抜粋)

- 1 役職の追加
名誉副会長代行の新設
 - 2 役員報酬について 変更
(一部削減)
 - 3 年会費の変更 (概要)
 - 理事・監査 14,000円 (11,000円)
 - 参 与 12,000円 (11,000円)
 - 評 議 員 12,000円 (11,000円)
 - 正 会 員 8,000円 (7,000円)
 - 準 会 員 5,000円 (5,000円)
 - 協賛会員 25,000円 (25,000円)
- () 内は従前の額

平成二十八年度公益社団法人中部日本書道会総会は、ウエステインナゴヤキャッスルを会場にして五八五名(委任状提出者二、四三六名)の出席をいただき、開催されました。

伊藤昌石理事長の力強い挨拶により始まり、以下の議案について慎重かつ熱心に審議が行われ、承認されました。

第一号議案 平成二十七年事業報告書の承認に関する件
第二号議案 平成二十七年収支決算書の承認に関する件
第三号議案 財産目録の承認に関する件(監査報告)
第四号議案 定款ならびに諸規定の改正に関する件(後述)

平成二十八年年度 公益社団法人 中部日本書道会

総会 議案書 (抜粋)

日時 平成二十八年六月十二日(日)・場所 ウェスティンナゴヤキャッスル

第一号議案 平成二十七年事業報告書の承認に関する件

平成二十七年年度 事業報告

第一 書道普及振興事業(公益目的事業1)

1 展覧会事業

(1) 第六十五回記念中日書道展

会場及び期間

愛知県美術館

平成二十七年六月十七日(水)～六月二十一日(日)

名古屋市民ギャラリー栄

平成二十七年六月九日(火)～六月十四日(日)

名古屋博物館

平成二十七年六月十六日(火)～六月二十八日(日)

出品点数

四、四九四点

第一部(漢字)	二、七五五点
第二部(かな)	五〇一点
第三部(近代詩文書)	七七九点
第四部(少字数)	二一六點
第五部(篆刻・刻字)	二四三點

(2) 第六十六回中日書きぞめ展

会場 平成二十八年三月二十日(日)～二十一日(月・振休)

会場 ナディアパーク アトリウム

出品点数 一六、〇三一点

(3) 中日支部学生書道展

① 第四十四回一宮支部学生書道展

会場 平成二十七年十一月二十一日(土)～二十二日(日)

会場 一宮スポーツ文化センター

出品点数 三、六三六點

② 第五十一回半田支部学童書道展

会場 平成二十七年七月十一日(土)～十二日(日)

会場 半田市福祉文化会館

出品点数 二、三四五點

2 公開講座事業

第十九回公開講座

日時 平成二十七年十一月二十二日(日)

会場 電気文化会館 イベントホール

受講者 一四三名

テーマ 「硯の文化」

講師 名倉 鳳山 先生

テーマ 「和様・淡墨の書」

講師 理事 松下 英風 先生

3 講演会、講習会、研究会事業

(1) 第二十七回書道教育研修会(実技講習会)

日時 平成二十七年十月十二日(月・祝)

会場 名古屋国際センター

参加者 九五名

内容 書道講話

A 「漢字」

——古典に学ぶ淡墨の小作品づくり——

加藤 矢舟 先生

A 「近代詩文書——表現の可能性——」

武内 峰敏 先生

B 「かな——かな・あれこれ——」

村瀬 俊彦 先生

B 「篆刻——希望の一文字刻印——」

日比野妃扇 先生

(2) 講演会

① 本部

平成二十八年二月十一日(木・祝)

名古屋観光ホテル

演題 「イスラムは怖いか」

講師 中日新聞社取締役論説担当兼東京本社論説室論説主幹

参加者 深田 実 先生

② 一宮支部

平成二十八年三月六日(日)

一宮スポーツ文化センター

演題 「中国の街で見る漢字」

——日中漢字の意味の違いを考える——

講師 愛知大学地域政策学部教授 文学博士

荒川 清秀 先生

③ 半田支部

平成二十八年三月六日(日)

半田市福祉文化会館

演題 「円空の生涯」

講師 円空学会 顧問 長谷川 公茂 先生

参加者 七二名

④ 東三河支部

平成二十七年七月四日(土)

豊橋商工会議所

演題 「体験的ジャーナリズム論

——ニュースの読み方——」

講師 元中日新聞事業局 局長 山口 宏昭 氏

参加者 七八名

⑤ 西三河支部

平成二十八年二月二十日(土)

岡崎市商工会議所

演題 「嘘か本当か」

講師 理事 伊藤 昌石 先生

参加者 一一六名

⑥ 濃飛支部

平成二十七年七月二十六日(日)

恵那市恵那文化センター

演題 「文房四宝——主に墨について——」

講師 徳川美術館 学芸部長 四辻 秀紀 先生

参加者 三四名

⑦ 岐阜支部

平成二十七年五月三十一日(日)

岐阜会館

演題 「筆のこといろいろ」

講師 一休園代表取締役会長 久保田 哲暁 先生

参加者 七〇名

⑧ 半田支部公開書道研修会

平成二十七年十月二十五日(日)

半田市福祉文化会館

内容 「楷書の実技講習」

講師 副理事長 関根 玉振 先生

評議員 上小倉 積山 先生

参加者 四八名

第二 福祉事業（公益目的事業2）

二〇一五年チャリティー愛の募金

——しあわせ薄い人々に愛の手を——

寄 託 中日新聞社社会事業団へ二百万円

東海テレビ福祉文化事業団へ百万円

岐阜支部より中日新聞社社会事業団岐阜支部へ十万円

第三 その他の事業（相互扶助等事業）

1 書道に関する調査研究および発表

調査研究及び発表

2 書道教育者養成及び普及事業

(1) 書道教育者の推薦制度 三件

(2) 外国研修旅行補助 ○件

3 展覧会事業

(1) 第二十四回寿書展

会 期 平成二十七年十一月十七日(水)～十二月二十二日(日)

会 場 電気文化会館 東西ギャラリー

出品点数 一六八件

(2) 中日支部展・支部選抜展

① 一宮支部

第六十一回支部書道展

会 期 平成二十七年十一月二十一日(土)～二十二日(日)

会 場 一宮市スポーツ文化センター

出品点数 二二四件

② 半田支部

第四十九回半田支部展

会 期 平成二十七年八月二十九日(土)～八月三十日(日)

会 場 半田市福祉文化会館

出品点数 一三八件

③ 西三河支部

第四十八回西三河支部会員展

会 期 平成二十八年二月十七日(水)～二十一日(日)

会 場 岡崎市美術館

出品点数 一九六件

④ 東三河支部

第三十九回東三河支部展

会 期 平成二十七年六月三十日(火)～七月五日(日)

会 場 豊川桜ヶ丘ミュージアム

出品点数 一二七件

⑤ 東三河支部選抜展

会 期 平成二十八年二月九日(火)～十四日(日)

出品点数 七三件

⑥ 濃飛支部展

会 期 平成二十七年七月二十四日(金)～二十六日(日)

会 場 恵那市恵那文化センター

出品点数 五八件

⑦ 北勢支部

会 期 平成二十七年七月十八日(土)～二十日(月・祝)

会 場 四日市市文化会館

出品点数 八六件

⑧ 中南勢支部

第二十九回中南勢支部展

会 期 平成二十八年一月二十七日(水)～三十一日(日)

会 場 三重県立美術館（県民ギャラリー）

出品点数 七六件

⑨ 岐阜支部

第二十一回岐阜支部会員展

会 期 平成二十七年九月十一日(金)～十三日(日)

会 場 岐阜市民会館

出品点数 二九五件

4 講習会・講演会・研究会・研修会事業

(1) 講習会

① 東三河支部

平成二十七年十月二十五日(日) 諏訪湖

内 容 「リユーター体験 ペーパーウエイト作成」

参加者 三八名

② 北勢支部

平成二十八年二月二十一日(日) ばんこの里会館

内 容 「湯呑・マグカップ絵付け、陶板制作」

参加者 三五名

(2) 講演会

① 北勢支部

平成二十七年七月十九日(日) 四日市市文化会館

演 題 「篆書の魅力」

講 師 副理事長 関根 玉振 先生

参加者 八〇名

② 中南勢支部

平成二十七年十月十一日(日)

演 題 「気になる言葉」

講 師 花井 嶺郎 先生

参加者 六二名

(3) 研究会

① 西三河支部

平成二十八年三月二十七日(日) 安城市文化センター
中日書道展 作品研究会

参加者 一一六名

(4) 研修会

① 本部（史跡探訪研修旅行）

平成二十七年八月四日(火)～五日(水)

伊豆・駿河の研修旅行

「修善寺虹の郷」「沼津御用邸記念公園」「柿田川湧水群」他

参加者 九七名

② 一宮支部

平成二十七年十月三十一日(土)

信楽・近江の旅 「MIHO MUSEUM」「近江八幡」

参加者 一二六名

③ 半田支部

平成二十七年十一月十五日(日)

黒壁スクエア・観峰館「観峰館特別企画展鑑賞と拓本体験」

参加者 三八名

④ 西三河支部

平成二十七年十一月三日(火・祝)

福井「大安禅寺（座禅体験）」「越前和紙の里」

参加者 三五名

⑤ 東三河支部

平成二十七年十月二十五日(日)

諏訪湖「原田泰治美術館」

参加者 三八名

⑥ 濃飛支部

平成二十七年十一月二十日(金)

「徳川園・徳川美術館」「ノリタケの森」

参加者 一九名

⑦ 北勢支部

平成二十七年十一月八日(日)

近江「観峰館」他

参加者 三五名

⑧ 中南勢支部

平成二十七年五月十七日(日)

京都「太秦映画村（団扇作り体験）」「妙心寺」

参加者 四八名

⑨ 岐阜支部

平成二十七年十月二十三日(金)

福井「福井県立恐竜博物館」「福井市美術館」

参加者 二六名

5 福利厚生事業

(1) 塾総合保険

五十四件、二、〇五五名

(2) 会員交流会

会員交流ポウリング大会

平成二十七年十二月十三日(日) 星ヶ丘ボウル
参加者 八七名
老人会色紙贈呈
半田支部

平成二十七年八月二十一日(金)

寄贈先 半田市・武豊町・阿久比町・東浦町・美浜町・南知多町の各役場から長寿者に贈呈

7 組織拡大事業

・会員増、各種展覧会出品者増の促進を図った。
・会員章(門章・襟章)の交付
・会員名簿の発行

8 広報活動事業

(1) 中日会報

一七六号 平成二十七年四月一日付け発行
一七七号 平成二十七年七月一日付け発行
一七八号 平成二十七年十月一日付け発行
一七九号 平成二十八年一月一日付け発行

(2) 支部会報

① 一宮支部 平成二十七年六月一日付け発行
四十四号
半田支部 平成二十七年四月十日付け発行
七十三号
西三河支部 平成二十七年十月十日付け発行
七十四号
六十九号 平成二十七年六月一日付け発行
七十号 平成二十七年十二月一日付け発行
④ 東三河支部 平成二十七年十月一日付け発行
六十七号
濃飛支部 平成二十八年二月一日付け発行
五号
北勢支部 平成二十八年三月二十三日付け発行
五号
岐阜支部 平成二十七年七月二十九日付け発行
四十五号
四十六号 平成二十八年二月二十日付け発行

(3) ホームページ

9 資料文献収集保存事業

継続中

10 書道功労者等顕彰事業

表彰期日 平成二十七年六月二十一日(日)
会場 ウエスティンナゴヤキャッスル
平成二十七年功労者として、次の六氏に表彰状なら

びに感謝状を贈呈した。
表彰状 後藤 汀鶯
感謝状 武山 翠屋、中川 貴舟、則武 穹、津田 秋月、武山 昂石

11 福祉事業

一宮支部より中日新聞一宮総局へ十万円
半田支部より中日新聞半田支局へ十万円
西三河支部より中日新聞岡崎支局へ十万円
東三河支部より中日新聞豊橋総局へ十万円
濃飛支部より中日新聞中津川通信局・萩原通信局へ各五万円
北勢支部より中日新聞四日市支局へ十万円
中南勢支部より中日新聞三重総局へ十万円

第四 管理業務

本会の事業の遂行のため以下の会議をそれぞれ開催した。

1 総会

平成二十七年六月二十一日(日)
ウエスティンナゴヤキャッスルにて開催
次の議案について審議、原案の通り議決した。
第一号議案 平成二十六年事業報告書の承認に関する件
第二号議案 平成二十六年度収支決算書の承認に関する件
第三号議案 財産目録の承認に関する件
第四号議案 理事・監事の選任に関する件

2 理事会

第一回理事会 平成二十七年四月四日(土)
ホテルキャッスルプラザにて開催
次の議案について審議、原案通り議決した。
役員選任に関する件
第二回理事会 平成二十七年五月十七日(日) 本部にて開催
次の議案について審議、原案の通り議決した。
第一号議案 平成二十七年総会提出議案について
(1) 平成二十六年事業報告に関する件
(2) 平成二十六年度収支報告に関する件
(3) 財産目録の承認に関する件

第四回理事会

平成二十八年二月十一日(木・祝)
名古屋観光ホテルにて開催
次の議案について審議、原案の通り議決した。
第一号議案 平成二十八年事業計画(案)に関する件
第二号議案 平成二十八年年度予算(案)に関する件
第三号議案 資産の運用に関する件
第四号議案 諸規定の制定並びに改訂に関する件
第五号議案 評議員の承認に関する件
第六号議案 正会員の承認に関する件
第七号議案 審査会員の承認に関する件

3 評議員会

平成二十八年二月十一日(木・祝)
名古屋観光ホテルにて開催
次の事項について報告をした。

4 企画委員会

(1) 第一回企画委員会 平成二十七年四月四日(土) キャッスルプラザ
(2) 第二回企画委員会 平成二十七年五月十七日(日) 本部
(3) 第三回企画委員会 平成二十七年六月二十一日(日)
(4) ウエスティンナゴヤキャッスル 第四回企画委員会 平成二十七年七月十二日(日) 名鉄グランドホテル
(5) 第五回企画委員会 平成二十七年九月十三日(日) 本部
(6) 第六回企画委員会 平成二十七年十月十二日(月・祝) 本部
(7) 第七回企画委員会 平成二十七年十一月二十二日(日) 本部
(8) 第八回企画委員会 平成二十七年十二月六日(日) キャッスルプラザ
(9) 第九回企画委員会 平成二十八年一月十日(日) 本部
(10) 第十回企画委員会 平成二十八年二月十一日(木・祝) 名古屋観光ホテル
(11) 第十一回企画委員会 平成二十八年三月十三日(日) 本部

第 2 号議案 平成 27 年度収支報告書の承認に関する件

平成 27 年度 収支計算書

自 平成 27 年 4 月 1 日 至 平成 28 年 3 月 31 日

備 考

科 目	決算額 (A) 円	予算額 (B) 円	差異(A)-(B) 円	説 明
1 事業活動収支の部				
1.1 事業活動収入				
① 基金	7,875	7,500	375	3000円×0.025%
② 特定	139,642	19,000	120,642	7500円×0.025～0.03%、国債利息
③ 一般会	12,870,000	12,584,000	286,000	評議員以上11,000円×1170名
2 正	17,297,000	18,739,000	△1,442,000	正職員7000円×2471名
3 正	2,355,000	2,865,000	△510,000	正職員7000円×471名
4 正	1,100,000	1,125,000	△25,000	協賛員5000円×47名
④ 一般会	33,622,000	35,313,000	△1,691,000	協賛員25,000円×44件
⑤ 過	77,000	0	77,000	評議員以上11,000円×7名
1 正	588,000	0	588,000	正職員7000円×84名
2 正	215,000	0	215,000	正職員7000円×43名
3 協	125,000	0	125,000	協賛員5000円×5件
4 協	1,005,000	0	1,005,000	協賛員25,000円×5件
⑥ 事	505,000	680,000	△175,000	3000円×167点、会員外4000円×1点
1 支	5,382,000	5,563,000	△181,000	支部別内訳参照
2 支	5,579,860	5,755,000	△175,140	支部別内訳参照
3 支	276,000	300,000	△24,000	支部別内訳参照
4 支	3,031,000	2,261,000	770,000	支部別内訳参照
5 支	216,500	160,000	56,500	支部別内訳参照
6 支	75,000	100,000	△25,000	支部別内訳参照
7 支	267,500	300,000	△32,500	25000円×3件
8 支	267,000	300,000	△33,000	54件2055名
9 支	286,000	300,000	△14,000	87名
10 支	42,000	75,000	△33,000	2000円×143名 (有料4名)
11 支	0	0	0	3000円×95名
12 支	48,225,400	48,247,000	△21,600	中日展収入内訳参照
13 支	5,860,160	5,824,000	36,160	400円×約16000点 (整理費差引)
14 支	4,390,000	4,500,000	△110,000	
15 支	17,559,000	16,500,000	1,059,000	
16 支	2,270,000	2,270,000	0	
17 支	94,311,920	93,185,000	1,126,920	
⑦ 寄	0	0	0	
1 寄	0	0	0	
⑧ 維	1,179	1,500	△321	
1 維	1,050,000	900,000	150,000	
2 維	330,810	400,000	△69,190	
3 維	98,000	95,000	3,000	
4 維	104,000	0	104,000	
5 維	1,583,989	1,396,500	187,489	
2. 事業活動支出				
① 事	1,336,932	1,486,000	△149,068	支部事業費含む
1 事	1,949,302	1,754,000	195,302	中日展・寿展受付等
2 事	369,456	321,456	48,000	各種講座
3 事	7,867,894	8,044,000	△176,106	賞品代、記念品代
4 事	477,061	167,000	310,061	作業時交通費、タクシー・バス等
5 事	10,536,676	10,867,900	△330,224	作業時食糧費等
6 事	7,278,008	6,992,900	285,108	
7 事	7,099,531	1,087,000	6,012,531	
8 事	8,877,128	8,353,700	523,428	
9 事	72,660	82,000	△9,320	
10 事	650,542	1,943,700	△1,293,158	半田支部事業光熱費
11 事	237,226	966,900	△729,674	会場使用料
12 事	7,946,664	6,828,900	1,118,664	一宮支部事業支分会費
13 事	0	100,000	△100,000	看板作成等
14 事	410,000	320,000	90,000	愛の募金による寄託 ほか
15 事	3,493,613	4,380,000	△886,387	外国研修補助ナシ
16 事	3,860,000	100,000	△3,760,000	ボウリング大会
17 事	499,790	566,000	△66,210	
18 事	17,549,882	16,500,000	1,049,882	新聞 業界紙広告
19 事	2,381,720	2,370,000	11,720	整備保険等
20 事	7,508,800	7,519,000	△10,200	
21 事	2,064,198	1,358,000	706,198	
22 事	2,900,057	1,388,000	△1,512,057	
23 事	0	0	0	
24 事	3,068,650	2,842,200	226,450	
25 事	89,435,810	88,933,200	502,610	若年層・大作品展 事業別一覽参照
26 事				

支	一宮	半田	西三河	東三河	濃	北	中	岐	合
支部別内訳									
1 支部展収入	892,000	785,000	1,500,000	960,000	169,000	176,000	300,000	600,000	5,382,000
2 支部学生展収入	1,360,160	1,307,500	2,912,200	0	0	0	0	0	5,579,860
3 支部連投展収入	0	0	0	276,000	0	0	0	0	276,000
4 支部研修会収入	1,354,000	313,000	360,000	0	256,000	268,000	360,000	130,000	3,031,000
5 支部講習会収入	0	0	0	175,000	0	41,500	0	0	216,500
6 支部祝賀会収入	1,044,500	291,000	0	0	286,000	160,000	261,000	312,000	2,354,500
合 計	4,650,660	2,696,500	4,762,200	1,411,000	711,000	645,500	921,000	1,042,000	16,839,860

支	一宮	半田	西三河	東三河	濃	北	中	岐	合
支部別内訳									
1 特定資産利息収入	0	0	0	115	200	41	0	0	356
2 受取寄付金									
3 普通預金受取利息	162	3	315	0	25	0	0	47	552
4 手数料返付振込収入	0	0	6,240	0	0	0	0	0	6,240
5 負担金収入	98,000	0	0	0	0	0	0	0	98,000
6 雑収入	0	90,000	0	0	5,000	0	0	0	95,000
合 計	98,162	90,003	6,555	115	5,225	41	0	47	200,148

積立金取崩	0	0	0	100,000	30,000	0	0	0	130,000
支部別内訳									
1 講演会費	103,160	71,652	66,264	56,220	55,220	112,280	133,444	55,220	653,460
2 講習会費	0	0	0	232,848	0	82,130	0	0	314,978
3 研究会費	0	0	146,323	0	0	0	0	0	146,323
4 支部研修費	1,403,721	547,518	361,755	64,827	276,090	348,164	417,447	328,026	267,264
5 支部連投展費	0	0	0	2,567,712	0	0	0	0	2,567,712
6 支部学生展費	1,586,261	1,451,674	1,309,976	1,089,730	0	146,143	220,682	487,030	5,605,647
7 支部展費	333,534	561,428	1,399,976	0	0	0	0	0	3,303,424
8 色紙展費	0	129,996	0	0	0	0	0	0	129,996
9 周年記念事業費	380,864	0	0	0	59,994	0	0	0	380,864
10 普通預金事業費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11 支部祝賀会費	948,180	378,912	0	0	225,888	160,000	257,720	414,200	2,384,900
事業費計	4,755,720	3,141,180	4,452,040	1,710,889	772,093	848,717	1,029,293	1,284,476	17,994,408
1 支部事務経費	754,124	459,509	884,384	191,558	107,036	205,695	143,262	1,110,023	3,855,691
合 計	5,509,844	3,600,689	5,336,424	1,902,447	879,129	1,054,412	1,172,555	2,394,499	21,849,999

前	164,807	142,624	570,384	3,344	102,350	16,177	16,390	413,545	1,420,621
前期末繰越									
次期繰越	629,285	188,438	728,215	71,512	111,446	7,765	27,335	488,093	2,222,089

科目	決算額 (A)	予算額 (B)	差異(A)-(B)	説明
② 支費				
1 支費	2,184,804	2,041,000	143,804	支部事務所費含む
2 支費	203,159	207,000	△3,841	
3 支費	82,520	104,000	△21,480	
4 支費	309,478	483,000	△103,522	
5 支費	4,997,586	4,850,000	147,586	職員給与・賞与
6 支費	0	0	0	臨時職員
7 支費	821,958	1,080,000	△258,042	臨時職員
8 支費	126,332	200,000	△73,668	税理士・司法書士・労務士
9 支費	810,932	1,705,000	△894,068	支部補助金
10 支費	83,980	113,000	△29,020	支部補助金
11 支費	830,809	903,000	△72,191	支部補助金
12 支費	3,390,764	2,257,600	1,133,164	交通費、タクシー、駐車場
13 支費	919,693	2,257,600	△1,337,907	
14 支費	768,216	340,000	428,216	
15 支費	10,794,911	10,093,000	701,911	会報、議案書ほか
16 支費	351,011	468,000	△116,989	本部事務所、冷暖房
17 支費	4,573,297	3,276,000	1,297,297	本部事務所、郵送料等
18 支費	516,623	396,000	120,623	本部、支部事務所
19 支費	6,710,009	6,646,000	64,009	本部、支部事務所
20 支費	2,126,780	1,626,000	500,780	印刷機リースほか
21 支費	92,144	0	92,144	保管庫
22 支費	23,700	50,000	△26,300	法人税
23 支費	235,750	226,000	9,750	諸会費
24 支費	921,194	1,585,000	△663,806	諸会費
25 支費	50,000	50,000	0	西三河支部補助金
26 支費	18,000	18,000	0	全日本連盟補助金
27 支費	930,652	800,000	130,652	全三河支部補助金
28 支費	489,400	0	489,400	職員給与
29 支費	2,035,988	37,200	1,998,788	新聞広告
30 支費	40,872	0	40,872	
31 支費	559,438	559,438	0	
事業活動収支差	47,006,700	42,916,800	4,089,900	管理費目別一覽参照
事業活動収入	136,442,600	131,850,000	4,592,600	
事業活動支出	136,442,600	131,850,000	4,592,600	
事業活動収支差	0	0	0	
II 投資活動収支の部				
1 投資活動収入	1,324,600	0	1,324,600	資産取崩
① 特定資産取崩収入	0	0	0	
1 特定資産取崩収入	0	0	0	
2 特定資産取崩収入	0	0	0	
3 特定資産取崩収入	0	0	0	
4 特定資産取崩収入	0	0	0	
5 特定資産取崩収入	500,000	500,000	0	27・28年度用
6 特定資産取崩収入	130,000	30,000	100,000	東三河、濃飛
2 投資活動支出	1,954,600	530,000	1,424,600	
① 特定資産取崩支出	0	0	0	
1 特定資産取崩支出	144,000	72,000	72,000	資産積立
2 特定資産取崩支出	50,000	50,000	0	(平成36年)
3 特定資産取崩支出	400,000	400,000	0	西三河 北勢
4 特定資産取崩支出	0	0	0	
5 特定資産取崩支出	500,041	430,000	70,041	
6 特定資産取崩支出	1,094,041	952,000	142,041	
② 固定資産取得支出	189,800	0	189,800	10万円以上備品
1 固定資産取得支出	189,800	0	189,800	
投資活動収支差	1,283,841	952,000	331,841	
III 財務活動収支の部				
1 財務活動収入	0	0	0	借入金
2 財務活動支出	0	0	0	返済
財務活動収支差	0	0	0	
当期収支差	0	300,000	△300,000	
前期繰越収支差	-5,101,415	-2,651,000	△2,450,415	
当期繰越収支差	8,920,786	4,769,210	4,151,576	
次期繰越収支差	3,819,371	2,118,210	1,701,161	

(注) 1 収支計算書は「公益法人会計における内部管理事項について」(平成17年3月23日公益法人等の指導監督等に関する関係省庁連絡会議幹事会申合せ)の記載の様式による。

備 考

科目	決算額	予算額	増 減	説明
1 講演会費	1,386,742	940,000	446,742	支部は支部別内訳参照
2 券書普及費	1,180,816	1,190,000	△9,184	
3 支部講習会費	314,978	379,000	△64,022	支部別内訳参照
4 支部研究会費	146,323	96,000	50,323	支部別内訳参照
5 支部研修会費	3,747,558	2,641,700	1,105,858	支部別内訳参照
6 支部運転費	267,264	300,000	△32,736	支部別内訳参照
7 支部学生展費	5,605,647	6,014,000	△408,353	支部別内訳参照
8 色紙展費	4,303,424	4,643,500	△342,076	支部別内訳参照
9 色紙展費	129,996	133,000	△3,004	支部別内訳参照
10 普通道教育研修費	380,864	722,000	△341,136	一宮
11 普通道教育研修費	970,716	320,000	650,716	
12 外国人研修補助費	0	100,000	△100,000	
13 功労者等顕彰費	340,000	335,000	5,000	
14 普通道教育普及費	64,800	100,000	△35,200	教室看板
15 史跡探訪費	254,537	366,000	△111,463	
16 史跡探訪費	1,052,223	1,105,000	△52,777	
17 周年記念事業費	2,257,732	2,318,000	△60,268	企画委員会
18 周年記念事業費	59,994	1,111,000	△1,051,006	濃飛
19 情報提供事業費	5,466	747,000	△741,534	サ・ト・運営
20 調査研究費	0	30,000	△30,000	
21 資料収集費	10,000	60,000	△50,000	
22 中日展覧費	409,088	655,000	△245,912	
23 中日展覧費	35,149,721	34,734,000	415,721	
24 中日展覧費	6,121,887	6,027,000	94,887	
25 愛の基金	3,902,320	4,313,000	△410,680	
26 委員交流	580,496	631,000	△50,504	
27 本部祝賀会費	18,398,318	16,500,000	1,898,318	
28 支部祝賀会費	2,354,900	2,370,000	△14,900	支部別内訳参照
合計	89,453,810	88,393,200	502,610	
管理費目別内訳				
1 会議費	5,285,283	4,951,000	334,283	本部
(2) 理事会	2,828,610	1,989,000	839,610	
1 237.151	1,474,151	1,293,000	181,151	
(3) 理事・評議員会	982,522	1,719,000	△736,478	本部
2 事務所費	31,294,225	24,183,000	7,111,225	支部別一覽参照
3 支部事務所費	3,855,591	4,428,800	△573,209	伊花、見舞金等
4 慶弔費	151,320	410,000	△258,680	
5 会報費	4,975,371	6,900,000	△1,924,629	年4回発行
6 名簿費	1,445,000	2,044,000	△599,000	
合計	47,006,790	42,916,800	4,089,990	
事業及び管理合計	136,442,600	131,850,000	4,592,600	

収支計算書に対する注記

1 資金の範囲 現金預金、振替貯金、定期預金、前払費用、過払金、預け金、未払金、前受金、預り金を含む当期未残高は、下記2に記載のとおりである。

2 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内容

科目	当期未残高	前期未残高	差 異	説明
1 現金	4,315,694	2,651,093	△1,212,899	
2 普通預金	2,713,740	3,176,485	△462,745	
3 振替貯金	163,750	598,743	△434,993	
4 定期預金	0	2,636,000	△2,636,000	
5 前払金	0	0	0	
6 過払金	0	104,220	△104,220	
資産合計	7,129,434	9,166,541	△2,037,107	
1 預り金	246,323	220,735	25,588	源泉税、社会保険料
2 前受金	250,000	250,000	0	28年度半期委員会収支費
3 未払金	0	0	0	
負債合計	496,323	245,735	250,588	
次期繰越収支差額	3,819,371	8,920,786	△5,101,415	

第 3 号議案 財産目録の承認に関する件

財 産 目 録

平成28年3月31日現在

	円
総 資 産 額	115,552,725 [Ⓐ]
基 本 財 産	30,000,000
運 用 財 産	85,552,725
負 債	496,323

		円	
I 資産の部			
1. 流動資産			
①現金預金（運用資産）			
(1) 現 金	本部 現金	321,316	
	一宮支部 現金	581,073	
	半田支部 現金	188,437	
	西三河支部 現金	171,601	
	東三河支部 現金	70,592	
	濃飛支部 現金	53,338	
	北勢支部 現金	5,940	
	中南勢支部 現金	26,823	
	岐阜支部 現金	19,084	
	現金合計	1,438,204	
(2) 普 通 預 金	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店	1,173,592	①-1
	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店（理）	330,779	②
	三菱東京 UFJ 銀行新名古屋駅前支店	2,949	③-1
	大垣共立銀行菊井町支店	106,464	④
	瀬戸信用金庫名古屋支店	1,082	⑤-1
	一宮支部 ゆうちょ銀行	48,212	⑥-1
	半田支部 半田信用金庫	1	⑦
	西三河支部 瀬戸信用金庫	477,745	⑧-1
	西三河支部 ゆうちょ銀行	78,869	⑨
	濃飛支部 ゆうちょ銀行	58,108	⑩
	北勢支部 ゆうちょ銀行	1,825	⑪
	岐阜支部 関信用金庫	434,114	⑫
	普通預金合計	2,713,740	
(3) 郵 便 振 替	本部 名古屋中央郵便局	157,423	⑬
	一宮支部 郵便振替	0	⑭
	半田支部 郵便振替	0	⑮
	西三河支部 郵便振替	0	⑯
	東三河支部 郵便振替	920	⑰
	濃飛支部 郵便振替	0	⑱
	北勢支部 郵便振替	0	⑲
	中南勢支部 郵便振替	512	⑳
	岐阜支部 郵便振替	4,895	㉑
	郵便振替合計	163,750	
(4) 定 期 預 金	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店	0	
	大垣共立銀行菊井町支店	0	
	定期預金合計	0	
②前払金（運用資産）	過払金	0	
	前払金合計	0	
③未収金（運用資産）	未収会費	3,178,000	年会費、協賛会費
	流動資産合計	7,493,694	
2. 固定資産			
①基本財産			
(1) 土 地	該当なし		
(2) 建 物	該当なし		
(3) 基 本 金	瀬戸信用金庫名古屋支店	30,000,000	本部 公益目的保有財産 ⑤-2
(4) 有 価 証 券	該当なし		
(5) 機 械 器 具	該当なし		
	基本財産合計	30,000,000	
②特 定 資 産（ 運 用 財 産 ）			
(1) 土 地	該当なし		
(2) 建 物	該当なし		
(3) 特 定 資 産	三菱東京 UFJ 銀行新名古屋駅前支店	49,500,000	本部 公益目的保有財産 ③-2
	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店	2,542,000	本部 公益目的保有財産 ①-2
	野村証券岐阜支店	20,133,400	本部 公益目的保有財産 ㉒
国 債（20年）			
本部積立金			
90周年記念事業積立金	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店	700,000	平成36年用 ①-3
設備拡充資金積立金	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店	150,000	①-4
名簿費引当金	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店	0	①-5
退職給付引当金	三菱東京 UFJ 銀行柳橋支店	546,000	①-6
支部積立金			
一宮支部60周年記念事業積立金	ゆうちょ銀行	70,000	平成36年用 ⑥-2

西三河支部 東三河支部40周年記念事業積立金 濃飛支部30周年記念事業積立金 北勢支部30周年記念事業積立金	瀬戸信用金庫 ゆうちょ銀行 ゆうちょ銀行 百五銀行東員支店	500,000 100,000 0 210,133	⑧-2 平成28年用 ㉓ 平成27年用 平成28年用 ㉔
	特定資産合計	74,451,533	
③その他の固定資産(運用財産)			
(1) 備品	パソコン プロジェクター 印章	1 1 300,000	本部 公益目的保有財産 本部 公益目的保有財産 本部 公益目的保有財産
(2) その他	パソコン 電話加入権 保証金	183,643 171,533 2,952,320	本部 公益目的保有財産 本部 公益目的保有財産 本部 公益目的保有財産 株式会社桑山
	その他の固定資産合計	3,607,498	
	固定資産合計	108,059,031	
	資産合計	115,552,725	㉕
3. 負債			
	預り金	170,060 12,900 63,363	1~3月分源泉所得税 3月分市県民税 3月分社会保険料
	預り金合計	246,323	
	前受金	250,000	半田準会員受取会費
	未払金	0	
	負債合計	496,323	

貸借対照表

平成28年 3 月 31 日現在

科目	当期(A)	前期(B)	増減(A)-(B)	説明
	円	円	円	
I 資産の部				
1. 流動資産				
① 現金預金				
現普通郵便定期預金	1,438,204 2,713,740 163,750 0	2,651,093 3,176,485 598,743 2,636,000	△ 1,212,889 △ 462,745 △ 434,993 △ 2,636,000	
現金預金合計	4,315,694	9,062,321	△ 4,746,627	
② 前払費用				
前払費用	0	0	0	
前払金	0	104,220	△ 104,220	印刷屋928
前払金合計	0	104,220	△ 104,220	
③ 源泉徴収金				
源泉徴収金	0	0	0	
市県民税	0	0	0	
社会保険料	0	0	0	
預り金合計	0	0	0	
④ 未収金				
未収金	3,178,000	4,282,000	△ 1,104,000	前々回から計上
流動資産合計	7,493,694	13,448,541	△ 5,954,847	
2. 固定資産				
① 基本財産				
定期預金	30,000,000	30,000,000	0	
② 特定資産				
定期預金	52,042,000	73,500,000	△ 21,458,000	
20年国債	20,133,400	0	20,133,400	
本部積立金	1,396,000	1,302,000	94,000	
支部積立金	880,133	510,092	370,041	
特定資産合計	74,451,533	75,312,092	△ 860,559	
③ その他の固定資産				
備品	483,645	650,424	△ 166,779	
電話加入権	171,533	171,533	0	
保証金	2,952,320	2,952,320	0	桑山ビル分
その他の固定資産合計	3,607,498	3,774,277	△ 166,779	
固定資産合計	108,059,031	109,086,369	△ 1,027,338	
資産合計	115,552,725	122,534,910	△ 6,982,185	
II 負債の部				
1. 流動負債				
預り金	246,323	220,755	25,568	
前受金	250,000	25,000	225,000	半田支部準会員受取会費
未払金	0	0	0	
流動負債合計	496,323	245,755	250,568	
2. 固定負債				
固定負債	0	0	0	
負債合計	496,323	245,755	250,568	
III 正味財産の部				
1. 一般正味財産				
正味財産	115,056,402	122,289,155	△ 7,232,753	
正味財産合計	115,056,402	122,289,155	△ 7,232,753	㉖
負債及び正味財産合計	115,552,725	122,534,910	△ 6,982,185	㉗

正味財産増減計算書

自 平成27年4月1日
至 平成28年3月31日

科目	当期 (A)	前期 (B)	増減 (A)-(B)	説明
	円	円	円	
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 基本財産運用利益				
1 基本財産受取利息	7,875	7,500	375	
② 特定資産運用利益				
1 特定資産受取利息	139,642	27,222	112,420	
③ 受取会費				
1 評議員受取会費	12,870,000	12,573,000	297,000	
2 正会議員受取会費	17,297,000	17,829,000	△ 532,000	
3 準会議員受取会費	2,355,000	2,510,000	△ 155,000	
4 協賛会員受取会費	1,100,000	1,025,000	75,000	
会費収入計	33,622,000	33,937,000	△ 315,000	
④ 未収会費発生額				
1 未収会費	2,627,000	1,099,000	1,528,000	前々回から計上
⑤ 事業収益				
1 寿書展参加料	505,000	567,000	△ 62,000	
2 支部展参加料	5,382,000	5,580,000	△ 198,000	
3 支部学生展参加料	5,579,860	6,002,423	△ 422,563	
4 支部選抜展参加料	276,000	196,000	80,000	
5 支部研修会参加料	3,031,000	2,979,500	51,500	
6 支部講習会参加料	216,500	162,000	54,500	
7 書道教育者推薦教室看板料	75,000	75,000	0	
8 塾総合保険料	262,500	291,861	△ 29,361	
9 会員交流参加料	267,000	323,000	△ 56,000	
10 公開講座参加料	286,000	168,000	118,000	
11 書道教育研修参加料	42,000	21,000	21,000	
12 80周年記念事業収入	0	0	0	
13 中日書展収入	48,225,400	48,414,100	△ 188,700	
14 中日書きぞめ展収入	5,860,160	5,902,920	△ 42,760	
15 愛の募金収入	4,390,000	4,409,000	△ 19,000	
16 本部祝賀会収入	17,559,000	15,297,200	2,261,800	
17 支部祝賀会収入	2,354,500	2,450,500	△ 96,000	
事業収益計	94,311,920	92,839,504	1,472,416	
⑥ 受取寄付金				
1 受取寄付金	0	800,000	△ 800,000	
⑦ 雑収益				
1 普通預金受取利息	1,179	2,842	△ 1,663	
2 会員名簿広告料収入	1,050,000	0	1,050,000	
3 宛名ラベル発行手数料収入	330,810	349,665	△ 18,855	
4 負担金収入	98,000	98,000	0	
5 雑収入	104,000	189,640	△ 85,640	
雑収益計	1,583,989	640,147	943,842	
経常収益計	132,292,426	129,350,373	2,942,053	
(2) 経常費用				
① 経常費用				
1 理事監事報酬	2,184,804	1,927,981	256,823	
2 名誉会長報酬	203,159	206,318	△ 3,159	
3 名誉副会長報酬	82,520	61,890	20,630	
4 学術顧問報酬	309,478	309,478	0	
5 企画委員を兼務する評議員報酬	1,336,932	1,485,480	△ 148,548	
6 従業員給料手当	4,997,586	4,968,125	29,461	
7 退職金	0	0	0	
8 臨時雇賃金	1,771,260	2,267,149	△ 495,889	
9 福利厚生費	126,333	120,825	5,508	
10 報償金	3,180,388	3,732,824	△ 552,436	
11 報償奨励	7,953,874	9,301,805	△ 1,347,931	
12 報償交際	1,112,870	1,496,465	△ 383,595	
13 旅費交通費	14,127,440	15,043,968	△ 916,528	
14 食糧費	8,197,701	8,887,396	△ 689,695	
15 消耗品費	1,477,747	2,935,696	△ 1,457,949	
16 印刷製本費	19,671,828	22,747,621	△ 3,075,793	
17 光熱水費	423,691	430,888	△ 7,197	
18 通信運搬費	5,223,839	5,019,124	204,715	
19 手数料	753,849	770,663	△ 16,814	
20 事務所賃料	6,710,009	6,641,995	68,014	
21 使役用器備品料	10,073,444	13,504,086	△ 3,430,642	
22 消耗什器備品費	92,144	330,062	△ 237,918	
23 租税公課	23,700	24,900	△ 1,200	

24	負 担 金	645,750	705,750	△ 60,000	
25	委 託 料	4,414,807	4,431,142	△ 16,335	
26	寄 託 費	3,910,000	3,920,000	△ 10,000	
27	補 助 成	18,000	33,000	△ 15,000	
28	対 外 広 報 費	7,998,200	7,858,400	139,800	
29	会 議 費	4,100,186	3,464,028	636,158	
30	保 険 料	290,057	328,849	△ 38,792	
31	新 聞 図 書 費	40,872	40,872	0	
32	表 装 保 管 料	3,068,650	2,337,806	730,844	
33	法 定 福 利	930,652	867,794	62,858	
34	会 員 交 流 費	499,790	528,360	△ 28,570	
35	本 部 講 演 会 祝 賀 会 費	17,549,882	15,357,040	2,192,842	
36	支 部 展 覧 会 講 演 会 費	2,381,720	2,469,198	△ 87,478	
37	什 器 備 品 減 価 償 却 費	356,579	126,825	229,754	
38	雑 支 出	559,438	0	559,438	
②	未 収 会 費 貸 倒 額				
1	未 収 会 費 貸 倒 額	2,726,000	0	2,726,000	今回から計上
	経 常 費 用 計	139,525,179	144,683,803	△ 5,158,624	
	当 期 経 常 増 減 額	-7,232,753	-15,333,430	8,100,677	
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
	経 常 外 収 益 計	0	0	0	
(2) 経常外費用					
	経 常 外 費 用 計	0	0	0	
	当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0	
	当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	-7,232,753	-15,333,430	8,100,677	
	一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	122,289,155	137,622,585	△ 15,333,430	
	一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	115,056,402	122,289,155	△ 7,232,753	
II 指定正味財産増減の部					
	当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	0	0	0	
	指 定 正 味 財 産 期 首 残 高	0	0	0	
	指 定 正 味 財 産 期 末 残 高	0	0	0	
III 正味財産期末残高					
		115,056,402	122,289,155	△ 7,232,753	⑩

正味財産増減計算書

(損益計算ベースかつ事業別に区分したもの)

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

公益社団法人 中部日本書道会

(単位 円)

科目	公益目的事業会計		収益事業等会計	法人会計	合計	備考
	公1	公2	他1			
I 一般正味財産増減の部						
(1) 経常収益						
① 基本財産運用収入						
基本財産運用収入	7,875	0	0	0	7,875	
② 特定資産運用収入						
特定資産運用収入	139,642	0	0	0	139,642	
③ 会 費 収 入						
評議員等会費収入	6,435,000	0	1,287,000	5,148,000	12,870,000	評議員以上11000円×1170名
正会員会費収入	8,648,500	0	1,729,700	6,918,800	17,297,000	正会員7000円×2471名
準会員会費収入	1,177,500	0	235,500	942,000	2,355,000	準会員5000円×471名
協賛会員会費収入	550,000	0	110,000	440,000	1,100,000	協賛会員25000円×44件
④ 未 収 会 費						
未 収 会 費	1,313,500	0	262,700	1,050,800	2,627,000	
⑤ 事 業 収 益						
寿 書 展 収 入	0	0	505,000	0	505,000	3000円×167点、会員外4000円×1点
支 部 展 収 入	0	0	5,382,000	0	5,382,000	支部別内訳参照
支 部 学 生 展 収 入	5,579,860	0	0	0	5,579,860	支部別内訳参照
支 部 選 抜 展 収 入	0	0	276,000	0	276,000	支部別内訳参照
支 部 研 修 会 収 入	0	0	3,031,000	0	3,031,000	支部別内訳参照
支 部 講 演 会 収 入	0	0	216,500	0	216,500	支部別内訳参照
書道教育者推薦教室看板料	0	0	75,000	0	75,000	25000円×3件
塾 総 合 保 険 料	0	0	262,500	0	262,500	54件2055名
会 員 交 流 参 加 料	0	0	267,000	0	267,000	87名
公 開 講 座 参 加 料	286,000	0	0	0	286,000	2000円×143名
書道教育研修参加料	0	0	42,000	0	42,000	3000円×95名(有料14名)
周 年 記 念 事 業 収 入	0	0	0	0	0	
中 日 展 収 入	48,225,400	0	0	0	48,225,400	中日展収入内訳参照

中日書きぞめ展収入	5,860,160	0	0	0	5,860,160	400円×約16000点(整理費差引)
愛の募金収入	0	4,390,000	0	0	4,390,000	
本部祝賀会収入	0	0	17,559,000	0	17,559,000	
支部祝賀会収入	0	0	2,354,500	0	2,354,500	支部別内訳参照
⑥ 寄付金収入						
寄付金収入	0	0	0	0	0	FAQ VI-1-①
⑦ 雑収入						
普通預金受取利息	0	0	0	1,179	1,179	
会員名簿広告料収入	0	0	0	1,050,000	1,050,000	
宛名ラベル発行手数料収入	0	0	0	330,810	330,810	
負担金収入	98,000	0	0	0	98,000	一宮芸術祭交付金 FAQ VI-1-①
雑収入	0	0	0	104,000	104,000	備品貸出、協賛金ほか
経常収益計	78,321,437	4,390,000	33,595,400	15,985,589	132,292,426	
(2) 経常費用						
理事監事報酬	0	0	0	2,184,804	2,184,804	
名誉会長報酬	0	0	0	203,159	203,159	
名誉副会長報酬	0	0	0	82,520	82,520	
学術顧問報酬	0	0	0	309,478	309,478	
企画委員を兼務する評議員報酬	1,069,546	0	133,693	133,693	1,336,932	
従業員給料手当	3,998,070	0	499,758	499,758	4,997,586	職員給与・賞与
退職給付	0	0	0	0	0	
臨時雇賃金	1,594,134	0	177,126	0	1,771,260	中日展・寿展
福利厚生費	101,067	0	12,633	12,633	126,333	
報償謝金	2,544,312	0	318,038	318,038	3,180,388	各種謝礼/税理士・司法書士等
報償奨励	7,158,487	0	795,387	0	7,953,874	賞品代・記念品代/支部賞品代・記念品代
報償交際	0	0	556,435	556,435	1,112,870	支部事業交際費/慶弔等
旅費交通費	12,714,696	0	1,412,744	0	14,127,440	作業時交通費等
食糧費	7,377,931	0	819,770	0	8,197,701	作業時交通費等
消耗品費	1,182,199	0	147,774	147,774	1,477,747	
印刷製本費	9,671,828	1,000,000	4,000,000	5,000,000	19,671,828	会報その他
光熱水費	338,953	0	42,369	42,369	423,691	本部事務所電気、冷暖房
通信運搬費	4,179,073	0	522,383	522,383	5,223,839	電話、郵送料等
手数料	603,081	0	75,384	75,384	753,849	振込料
事務所賃料	5,368,009	0	671,000	671,000	6,710,009	本部事務所
使用料	8,058,756	0	1,007,344	1,007,344	10,073,444	会場使用料等/会議室
消耗什器備品費	0	0	0	92,144	92,144	
租税公課	0	0	0	23,700	23,700	市民民税
負担金	0	0	0	645,750	645,750	支部事業支払会費/諸会費
委託料	3,531,847	0	441,480	441,480	4,414,807	看板作成等/総会等看板
寄託費	0	3,910,000	0	0	3,910,000	愛の募金による寄託 ほか
補助助成	0	0	18,000	0	18,000	外国研修補助
対外広報費	6,398,560	0	799,820	799,820	7,998,200	中日新聞ほか掲載料
会議費	3,280,150	0	410,018	410,018	4,100,186	
保険料	0	0	0	290,057	290,057	
新聞図書費	0	0	0	40,872	40,872	
表装保管料	1,534,325	0	1,534,325	0	3,068,650	
法定福利	744,522	0	93,065	93,065	930,652	職員社会保険、雇用保険
会員交流費	0	0	499,790	0	499,790	
本部講演会祝賀会費	0	0	17,549,882	0	17,549,882	
支部展覧会講演会費	0	0	2,381,720	0	2,381,720	
什器備品減価償却費	285,265	0	35,657	35,657	356,579	備品
雑支出	0	0	0	559,438	559,438	
未収会費貸倒額	1,363,000		272,600	1,090,400	2,726,000	
経常費用計	83,097,811	4,910,000	35,228,195	16,289,173	139,525,179	
当期経常増減額	△ 4,776,374	△ 520,000	△ 1,632,795	△ 303,584	△ 7,232,753	
2. 経常外増減の部						
(1) 経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0	0	
(2) 経常外費用						
経常外費用計	0	0	0	0	0	
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	
他会計振替額	0	0	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 4,776,374	△ 520,000	△ 1,632,795	△ 303,584	△ 7,232,753	
一般正味財産期首残高					122,289,155	平成27年3月31日残高
一般正味財産期末残高					115,056,402	平成27年3月31日指定正味財産30,000,000円があったが誤りだったため、これを一般正味財産とし、平成27年3月31日一般正味財産を92,289,155円+30,000,000円=122,289,155円とした。
II 指定正味財産増減の部						
一般正味財産への振替額					0	
当期指定正味財産増減額					0	
指定正味財産期首残高					0	
指定正味財産期末残高					0	
III 正味財産期末残高					115,056,402	

財務諸表に対する注記

法人名：公益社団法人 中部日本書道会
事業名：事業全体

1 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却の方法

固定資産の減価償却は、次の方式を採用している。

有形固定資産 定額法
少額減価償却資産 少額減価償却資産の取得の損金算入の特例

(2) 引当金の計上基準

・職員退職給付引当金

職員に対する退職給付金の支給に備えるため、当期末における退職給付債務の見込額に基づいて計上している。

(3) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引にかかる方法に準じた会計処理によっている。

(4) 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税込経理方式によっている。

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
基本金	30,000,000	0	0	30,000,000
小 計	30,000,000	0	0	30,000,000
特定資産				
定期預金	73,500,000	0	21,458,000	52,042,000
20年国債	0	20,133,400	0	20,133,400
本部積立金	1,302,000	94,000	0	1,396,000
支部積立金	510,092	370,041	0	880,133
小 計	75,312,092	20,597,441	21,458,000	74,451,533
合 計	105,312,092	20,597,441	21,458,000	104,451,533

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
基本金	30,000,000	(0)	(30,000,000)	(0)
小計	30,000,000	(0)	(30,000,000)	(0)
特定資産				
定期預金	52,042,000	(0)	(52,042,000)	(0)
20年国債	20,133,400	(0)	(20,133,400)	(0)
本部積立金	1,396,000	(0)	(1,396,000)	(546,000)
支部積立金	880,133	(0)	(880,133)	(0)
小 計	74,451,533	(0)	(74,451,533)	(546,000)
合 計	104,451,533	(0)	(104,451,533)	(546,000)

4 減価償却資産の内訳

備 品	取得年月	法定耐用年数	取得価額	前期末価額	当期償却額	当期末価額
プロジェクター	H20.10	5	119,700	1	0	1
パソコン	H21.01	4	111,025	1	0	1
印章	H26.04	5	500,000	400,000	100,000	300,000
パソコン	H27.01	4	267,116	250,422	66,779	183,643
ワイヤレスチューナーアンテナユニット	H27.06	当期全額償却	189,800	0	189,800	0
合 計				650,424	356,579	483,643

監 査 報 告 書

公益社団法人中部日本書道会
理事長 伊 藤 健 文 殿

私たち監事は、平成27年4月1日より平成28年3月31日までの理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他の重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決済書類等を開覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る決算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2 監査意見

(1) 事業報告の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

平成28年5月1日

監 事 柘 英 樹 (英 峰) ㊟
監 事 古 川 昇 史 () ㊟

公益社団法人 中部日本書道会

実技講習

第28回 書道教育研修会・外国人書道研修会

平成28年10月10日（祝・月）

名古屋国際センター

名古屋市中村区那古野 1-47-1 国際センタービル TEL 052-581-5679

第28回 書道教育研修会

会 場	名古屋国際センター 5階 第1会議室
内 容	9:25～9:45 受付 9:45～9:55 開会式 9:55～10:25 書道講話（30分） 大池青岑 企画委員長兼総務部長 10:30～12:20 午前の講座（110分） 漢字 上小倉積山 先生 12:30～13:30 昼食 13:30～15:20 午後の講座（110分） かな 山本雅月 先生 15:20～15:45 後片付け ※トイレ等にて、筆・硯を洗うことは禁止です。 15:45～16:00 閉会式 修了証書授与

外国人書道研修会

会 場	名古屋国際センター 5階 第3・4・5会議室
内 容	9:25～9:45 受付 9:45～9:55 開会式 9:55～10:25 文房四宝の話 関根玉振 副理事長 10:30～12:20 午前の講座「ポストカード作成」 「山」「風」「月」「春」「夏」「秋」「冬」「桜」「雪」などを半紙で練習してから、ポストカードに清書する。 12:30～13:30 昼食 13:30～14:30 午後の講座「大筆に挑戦」 大筆で全紙などに書いてみる 14:30～15:20 中日書道会の先生による大作模範揮毫 15:20～15:45 後片付け ※トイレ等にて、筆・硯を洗うことは禁止です。 15:45～16:00 閉会式 修了証書授与

●基本的用具・教材等は「伊藤大林堂」が教室内にて販売します。

平成二十八年度 公開講座のご案内

第二十回の公開講座を開催いたします。

会員及び一般市民を対象に、書の魅力について本会を代表する二名の講師が担当します。どうぞ聴講ください。

◆期 日 平成二十八年十一月六日(日)

◆会 場 電気文化会館イベントホール (5階)

名古屋市中区栄一-二-五

☎〇五-二-一〇四-一-二三三

※期日・会場は予定です。変更になる場合があります。

◆講 師 第一講座 波切 童州 先生

第二講座 加藤 裕 先生

◆会 費 無 料

(ただしテキスト・資料代として二千円をいただきます。)

◆対 象 会員及び一般市民(十五歳以上)で原則として二講座とも聴講できる方。

定員百五十名

◆申込方法

はがきに聴講希望者の、住所・氏名・電話番号を明記の上、左記申込先までお送り下さい。定員になり次第締め切りとさせていただきます。

聴講決定者には後日詳細案内をお送りいたします。

12:30~	13:00~	13:15~14:15	14:35~15:35	15:35~16:00
付会	講座	講座	講座	講座
開	第一	第二	第二	閉
受	開	閉	閉	閉

◆申込先

〒四五〇一〇〇二一
名古屋市中村区名駅二丁目四十五番十九号
桑山ビル八階C号室

☎〇五-二-五八三-一-九〇〇
公益社団法人 中部日本書道会 公開講座係
担当 研究部長 廣澤 凌舟

主催 公益社団法人 中部日本書道会・中日新聞社
後援 愛知県教育委員会・名古屋市教育局(申請中)

新入会員紹介 (四・五・六月分)

- 一宮支部 堀 美佐子 大林 靖奈
- 飯田貴代子 ●西三河支部 岡本多加江
- 伊藤 哲 山田 雪花 隅田 玉枝
- 鶴飼 水影 ●東三河支部 平田 憲生
- 佐々木啓子 井上 空歩 ●中南勢支部
- 丹羽 碧洋 大場 早苗 土方 浩子

社中展・個展のご案内

○第五十二回 麗筆会展

代表 武山翠屋

会期 九月二十三日(金)〜二十五日(日)

会場 一宮スポーツ文化センター二階

○清晨会 PART II 書展

併設 学生選抜展

代表 吉田清城

会期 十月二十五日(火)〜三十日(日)

会場 名古屋市民ギャラリー栄 八階

第九・十展示室

本会会員による書展のご案内を会報及びHPにてさせていただきます。
会報には案内原稿を、HPには展覧会案内用ハガキを本部迄お送り下さい。
次号(十月号)は十一月中旬から翌年二月中旬までの展覧会を掲載する予定です。
編集部

平成二十八年度 国内史跡探訪研修旅行

八月三日(水)〜四日(木) 一泊二日

訪問先 奥飛騨 バス三台で実施

訃 報 (四・五・六・七月分)

心より哀悼の意を表し、ご報告申し上げます。(厚生部)

○4月4日	評議員 廣澤凌舟氏	○6月18日	準会員 渡辺浩茂氏
ご尊父 秀夫様	享年82才	○7月4日	評議員 水野峯翠氏
○4月21日	準会員 高木溪川氏	ご尊父 大宮 鏡様	享年56才
享年68才	○5月3日	○7月11日	常任顧問 後藤秀園氏
準会員 永冶雅芳氏	享年89才	享年87才	
○5月16日	正会員 安達大門氏	事後報告	
享年89才	○3月10日	正会員 熊崎瑞峰氏	
○5月18日	顧問 藤井養堂氏	享年75才	
享年85才	○3月30日	評議員 船橋紫光氏	
○5月29日	評議員 道山蘭径氏	享年87才	
ご主人 利一様	享年91才	○正会員 小坂昌子氏	
		享年83才	



あとがき

- ・第一八一号中日会報をお届けいたします。
- ・今号は本年度中日書道展出品の会員外で奨励賞以上の受賞者の方々にも送付致しました。
- ・世界はI・Sやらテロ、そしてリオデジャネイロオリンピックの報告がマスコミで目まぐるしく、日本国内は選挙選挙そしてポケモンGOブームで盛り上っています。
- ・本会も「ポケモンGOⅡ」のような叡智を求めたいものです。
- ・もう夏も終盤ではありますが、あと一步……。皆様のご健勝をお祈りいたします。

編集部